

一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルート合同調査

第10回
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
2021年
報告書

グローバル化や技術革新・AIの活用、環境問題など、急激で予測しづらい社会の変化をコロナ禍がさらに促進している今、教育においても、学習指導要領の改訂や入学者選抜改革など、戦後最大ともいわれる大きな変化の時を迎えています。このような状況の中で、高校生の進路観の育成、進路先の決定における保護者の関わりはますます重要になっています。行政、学校教育はむろんですが、高校生にとって最も身近な大人である「保護者」ができることは何でしょうか。

高校生と保護者の進路をめぐる意識と行動の実態を調べ、両者のよりよい意思疎通のあり方を研究するとともにその成果を広く社会に提言することを目的に、一般社団法人全国高等学校PTA連合会と株式会社リクルートは、全国の高校生をもつ保護者とその子どもに対して、コミュニケーションの実態と様々な進路観に関するアンケート調査を2003年より隔年で実施してまいりました。その10回目となる調査の分析結果をまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
会長 泉 満
進路対策委員長 山田博章

株式会社リクルート
執行役員 教育・学習事業 山口文洋

▼本調査や「キャリアガイダンス」に関するお問い合わせ▼

(株) リクルート リクルート進学総研「キャリアガイダンス」編集部
<http://souken.shingakunet.com/>

※ この調査結果については、キャリア教育専門誌『キャリアガイダンス』Vol.441(リクルート)にも掲載しています。

※ 出版・印刷物等へデータ転載する際には、“一般社団法人全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート調べ”と付記していただきますようお願い申し上げます。

調査トピックス

▶Ⅰ. 進路選択における親子コミュニケーションの実態とコロナ禍の影響

- 進路について「話す」割合は高校生で83%、保護者で89%。進路の悩みについても「よく知っている」が増加。
- コロナ禍での高校生、保護者間のコミュニケーション量が増加し、会話内容が多様化した。
 - 高校生、保護者とも、3割近くがコロナ禍で全体的なコミュニケーション量が増加したと回答。【5ページ】
 - 進路について「話す」割合は高校生で83%、保護者で89%。特に高校生で過去最も高い割合となった。【7ページ】
 - 進路について話す内容としては「高校卒業後の具体的な進路」「将来就きたい職業」など具体的な進路が例年通り上位だが、「将来どんな生活をしたいか」や「将来どんな生き方をしたいか」といったより抽象度の高い内容や、保護者の高校・大学時代や、仕事の話なども増加傾向となっており、内容が多様化している。【8ページ】
 - 高校生の進路選択の悩みについて保護者が「知っている」割合は、高校生、保護者ともに71%。特に「よく知っている」割合が増加し、高校生、保護者ともに過去最高となった。【13ページ】
 - 進路選択に対するアドバイスについても高校生の71%が「してほしい」と回答。この割合も増加傾向にあり、今回は2019年より7ポイント増加した。【14ページ】
 - 一方で進路選択に関する保護者の態度については、「干渉・計」「無関心・計」がいずれも減少し、「ちょうどいい」と感じる高校生が7割を占めた。【21ページ】
 - 保護者としては進路選択に関する関与を弱めているわけではなく、進路選択行動に関して『将来の職業』『進学か就職かを選ぶ』などの「アドバイス」を「行ったことがある」とする保護者が60～70%程度を占め、いずれも2019年よりも実施した割合が増加した。一方で『興味を持った学校の入試方法』『どんな学部、学科、コースがあるかを調べる』など、具体的に“調べる”行動は2019年よりも減少。また『興味を持った学校の見学』はコロナ禍の影響により実施者が47%→17%と大幅に減少した。ただし、これらはいずれも「行ったことはないが、今後実施したい」とする割合が高く、3年生になってからの取戻しへのサポートが必要だと考えられる。【25ページ】

▶Ⅱ. 進路・将来にまつわる考え

- 保護者における進学に関する経済支援の認知が上昇。高等教育の修学支援新制度は半数以上が利用意向を示す。
- 「アドミッション・ポリシー」の認知や活用は今後の課題。
 - 家庭の経済事情の進路決定への影響について「影響がある」と回答した保護者は全体の75%。【32ページ】
 - 進学に関する経済支援の認知は高く、特に「高等教育の修学支援新制度（授業料・入学金の減免制度）の創設」の認知率は大幅に上昇した（21%→63%）。進学希望者全体における支援制度の利用意向も高く、「高等教育の修学支援新制度（授業料・入学金の減免制度）」は52%、「貸与型の奨学金」は38%が利用したいと回答した。【33～34ページ】
 - 大学・短大進学希望の高校生の18%、保護者の12%が、『アドミッション・ポリシー』を「知っており、個別大学について調べたことがある」。高校教員では79%が該当することから、高校生、保護者の認知・活用状況とはギャップがある。【35ページ】

▶Ⅲ. 進路・将来にまつわる期待と不安

- 高校生、保護者ともに、「主体性」「実行力」「発信力」が不足しているという認識あり。
- 今後身につけるにあたっては、アクティブ・ラーニングや探究の有効性が認識されつつある。
 - 経済産業省の定義する『社会人基礎力』について、将来必要とされる能力と現在持っていると思う能力について尋ねたところ、高校生、保護者とも「主体性」「実行力」「発信力」が必要かつ不足している能力であると認識している。【47～48ページ】
 - 『社会人基礎力』を身につけるために有効な活動としては、高校生、保護者ともに「部・クラブ活動の時間」がトップ。時系列でみると、「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」「総合的な探究（学習）の時間」などが上昇傾向。主体性や実行力、発信力などの能力を伸長する上で、アクティブ・ラーニングや探究の有効性に対する認識が進みつつある。【53～54ページ】
 - これからの社会は「好ましい」と考える高校生は58%と、これまでで最も高いスコア。コロナ禍や政治不信、高齢化社会に関する不安や懸念を訴えるフリーコメントもみられるが、AIなどの技術や高度な情報化社会、差別や格差を可視化し、“なくしていこう”とする社会の動きを敏感に察知し、選択肢の多い・自由に発言のできる・便利な社会であることを好ましく感じていることが読み取れる。【55～56ページ】

▶Ⅳ. 教育改革の評価と高校での対応状況

- 【高校の教育】や高大連携などの教育改革への期待度が高い。一方で【入学者選抜】は不安大。
 - 高校生、保護者ともにICT活用をはじめとする高校の授業改革や、高大連携などを「期待する」割合が高い。一方で入学者選抜については「不安」の割合が高い。特に「共通テストへの転換」「個別入試で主体性が評価される」点などで「不安」が「期待」を大きく上回る。【57～61ページ】

▶Ⅴ. 教育活動へのICTの活用状況

- 高校生、保護者ともに「オンラインで授業を受けることができた」ことをICT活用の成果として評価。
 - 通っている高校について、高校生の75%、保護者の56%がICTを「活用している」と回答。活用で良かったこととしては「オンラインで授業を受けることができた」ことを半数以上があげる。【65～67ページ】
 - ただし、高校生では「学校や教員によってICTの活用度に差がある」点が問題点としてあがっており、学校全体などの組織的な対応が必要であると認識されている。【68～69ページ】

▶Ⅵ. 家庭での教育

- 「キャリア教育」の認知率は43%で2019年からは横ばい。推進されていくことに対しては83%が好意的。【77ページ】

▶Ⅶ. 学校・教師への要望

- “進路選択における高校生の主体性”を望む保護者の意向が反映され「進路を考えさせる体験・行動」の要望率が上昇。
 - 保護者から高校の進路指導に対する要望としては、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」「進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい」が45%前後で上位。第2位の「進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい」は、2017年より12ポイント上昇しており、ここでも進路選択における主体性を望む意向が読み取れる。【80ページ】

目次

調査トピックス	2
調査概要・回答者プロフィール	4
I 進路選択における親子コミュニケーションの実態とコロナ禍の影響	
1. 新型コロナウイルス感染症の影響による親子の会話内容の変化	5
2. 進路について話す頻度	7
3. 進路について話す内容	8
4. 進路について話さない理由	9
5. 保護者がよく使う言葉／その言葉をどう感じるか	10
6. 希望進路・進路の悩みの共有度	12
7. 保護者からのアドバイス／アドバイスして欲しい内容・理由	14
8. 保護者がアドバイスすることの困難	15
9. 進路選択についての相談相手	17
10. 目指している・あこがれている人	19
11. 進路選択について保護者が取る態度	21
12. 進路選択についての保護者の行動・態度	22
13. 保護者にしてほしい行動・態度	23
14. 保護者にやめてほしい行動・態度	24
15. 保護者の進路選択行動	25
II 進路・将来にまつわる考え	
16. 高校卒業後の希望進路	28
17. 進学先検討で重要な情報	29
18. 進学先検討の重視点	30
19. 家庭の経済事情の進路決定への影響	32
20. 進学に関する経済支援の認知と利用意向	33
21. 「アドミッション・ポリシー」の認知と活用	35
III 進路・将来にまつわる期待と不安	
22. 進路意識	37
23. 進路を考えたときの気持ち	38
24. 進路選択についての気がかり	39
25. 将来についての気がかり	40
26. 将来就きたい・就いてほしい職業／その理由	43
27. 新型コロナウイルス感染症による進路選択や将来への考え方への影響	46
28. 社会人基礎力：将来必要とされる能力と現在持っている能力	47
29. 社会人基礎力：必要な能力を身につけるために有効な活動	53
30. 未来社会への認識：これからの社会は好ましいか／そう思う理由	55
IV 教育改革の評価と高校での対応状況	
31. 教育改革への期待と不安	57
32. 高校での教育改革への対応状況	62
V 教育活動へのICT活用状況	
33. 通っている高校でのICT活用状況	65
34. ICTの導入について良かった点・悪かった点	66
35. 学校や自宅での今後のICT活用	70
VI 家庭での教育	
36. 日常のコミュニケーションや行動と教育改革を踏まえて特に心掛けたいこと	74
37. キャリア教育の認知と期待／意見・要望	77
VII 学校・教師への要望	
38. 家庭と学校の役割に関する認識	78
39. 進路指導への要望	79
40. 新型コロナウイルス感染症による休校時に困っていたこと／その解決方法	81

調査概要・回答者プロフィール

▶ 調査概要

- 調査実施者
 - ・一般社団法人全国高等学校PTA連合会／株式会社リクルート
- 調査対象
 - ・全国の高校2年生とその保護者
 - －全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県、各3校ずつ計27校の公立高校（2年生2クラス分の高校生と保護者）に発送し、計26校より協力を得た
- 調査期間
 - ・2021年9月14日～10月28日
- 調査方法
 - ・学校を通した質問紙による自記式調査／またはWeb画面からの回答
 - －①高校生：ホームルームにてアンケートを配布
 - －②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
 - －③紙調査票に回答、または記載のQRコードからWeb調査画面にアクセスして回答
 - －④紙調査票、またはWebへの回答完了証を、学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 有効回答数
 - ・高校生1,815人／保護者1,529人

▶ 回答者プロフィール

回答者のプロフィール		（％）	
		【高校生】	【保護者】
続柄	父親	*	13.7
	母親	*	84.0
	その他	*	0.9
	無回答	*	1.3
性別 (子どもの性別)	男子	47.0	46.1
	女子	49.3	52.6
	その他	2.0	0.1
	無回答	1.7	1.2
所属学科	普通科	81.8	82.3
	専門学科	18.1	17.7
	総合科	0.1	0.0

		（％）	
		【高校生】	【保護者】
地域分布	北海道	7.7	7.7
	山形県	12.5	13.1
	茨城県	11.8	13.7
	東京都	12.8	11.1
	新潟県	12.8	15.1
	三重県	9.9	9.9
	和歌山県	13.4	12.6
	島根県	10.4	11.4
	沖縄県	8.6	5.4
高校卒業後の希望進路 (子どもの希望進路) 高校卒業後の希望進路	大学	66.2	53.8
	短大	3.0	2.6
	専門職大学	0.9	2.3
	専門職短大	0.2	0.3
	専門学校	13.2	6.8
	海外の大学等	0.3	0.3
	就職	15.3	9.0
	その他	0.7	0.7
	子どもが希望する進路なら何でもよい	*	23.4
	無回答	0.3	0.8

▶ 本報告書に記載のデータに関する注意点

- 過去調査の概要、引用データの概要は以下の通り

「高校生・保護者調査」各回調査の調査概要

	調査期間	調査対象・回収数		備考
		高校生	保護者	
第8回	2017年9～10月	2年生 (n=1,987)	(n=1,722)	
第9回	2019年9～10月	2年生 (n=1,997)	(n=1,759)	1校で異なる調査票が配布されたため、全質問のうち2問については該当校を省いて集計 (n=1,722)
第10回	2021年9～10月	2年生 (n=1,815)	(n=1,529)	今回調査

参考データ「高校教育改革に関する調査」(リクルート進学総研,2021年)

調査期間	調査対象・回収数	備考
	高校教師	
2021年2～3月	(n=1,156)	全国の全日制高等学校に対する郵送・Web調査

● 報告書内の表記について

- ・グラフの数値は、小数点第2位以下を四捨五入して表示している
- ・本文の数値は、グラフ中の数値の小数点第1位を四捨五入して記載している
- ・＜フリーコメント＞末尾カッコ内は以下の属性を表す
 - －高校生：。[都道府県/性別/希望進路]
 - －保護者：。[都道府県/続柄/子どもの性別/希望進路]

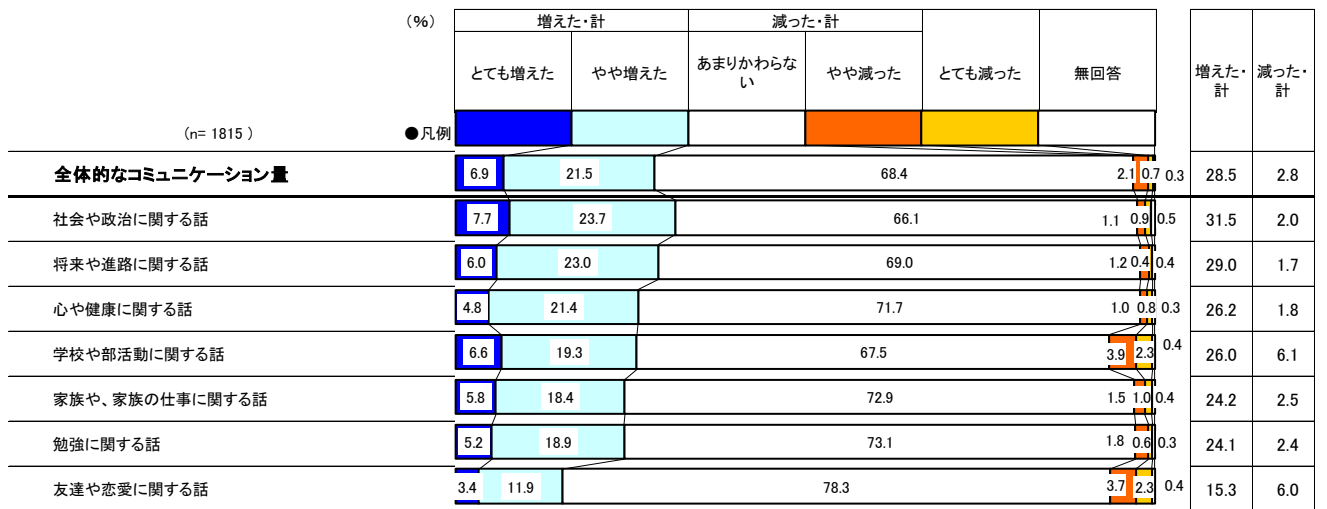
I. 進路選択における親子コミュニケーションの実態とコロナ禍の影響

1. 新型コロナウイルス感染症の影響による親子の会話内容の変化

▶ 高校生、保護者とも30%近くが、コロナ禍で全体的なコミュニケーション量が「増えた」と回答。

- 新型コロナウイルス感染症の影響による親子の会話の量や質の増減について尋ねたところ、【全体的なコミュニケーション量】については、高校生、保護者ともに「とても増えた」「やや増えた」の合計が29%を占めた。
- 「増えた・計」のスコアが高い項目をみると、高校生では【社会や政治に関する話】【将来や進路に関する話】、保護者では【心や健康に関する話】【社会や政治に関する話】がそれぞれ30%前後となっている。
- 一方、高校生、保護者のどちらでも、「減った・計」は10%に満たないが、中では【学校や部活動に関する話】の割合が相対的に高い。

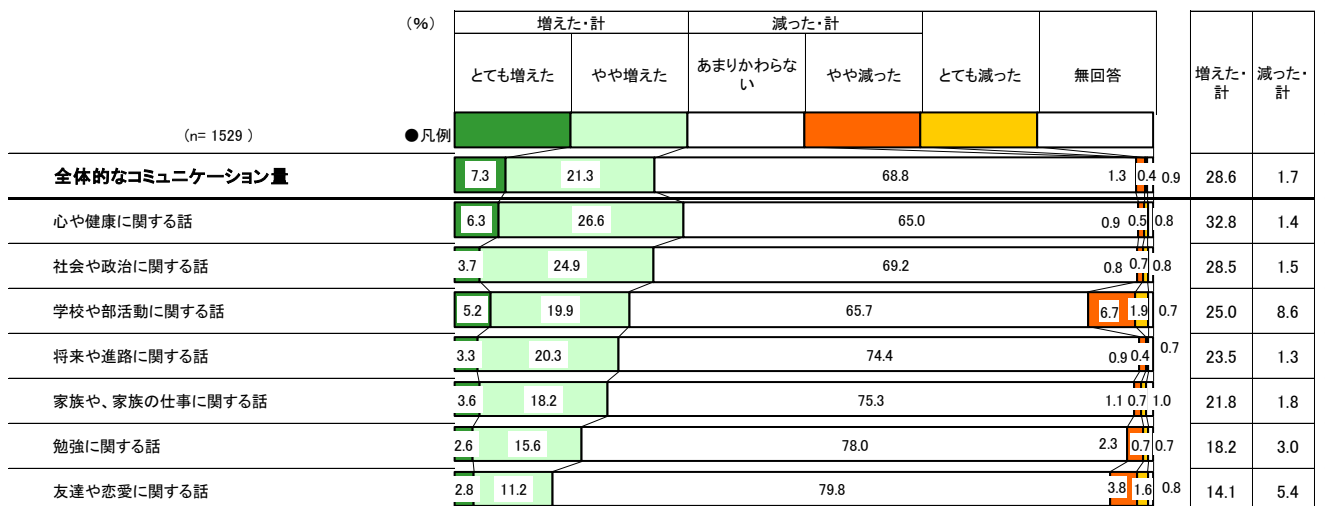
【高校生】 新型コロナウイルス感染症の影響による親子の会話内容の変化（全体／各単一回答）



※【全体的なコミュニケーション量】以外の項目は、「増えた・計」降順ソート

01_K_Q14

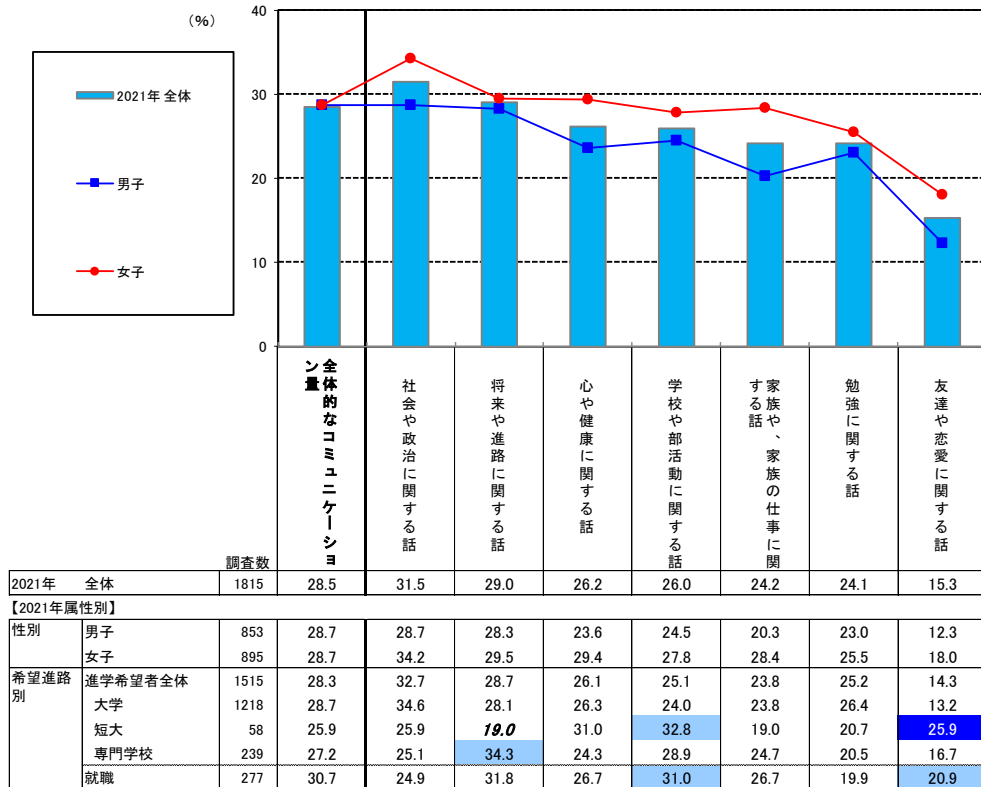
【保護者】 新型コロナウイルス感染症の影響による親子の会話内容の変化（全体／各単一回答）



※【全体的なコミュニケーション量】以外の項目は、「増えた・計」降順ソート

01_H_Q8

【高校生】新型コロナウイルス感染症の影響による親子の会話内容の変化（全体／各単一回答「増えた・計」）



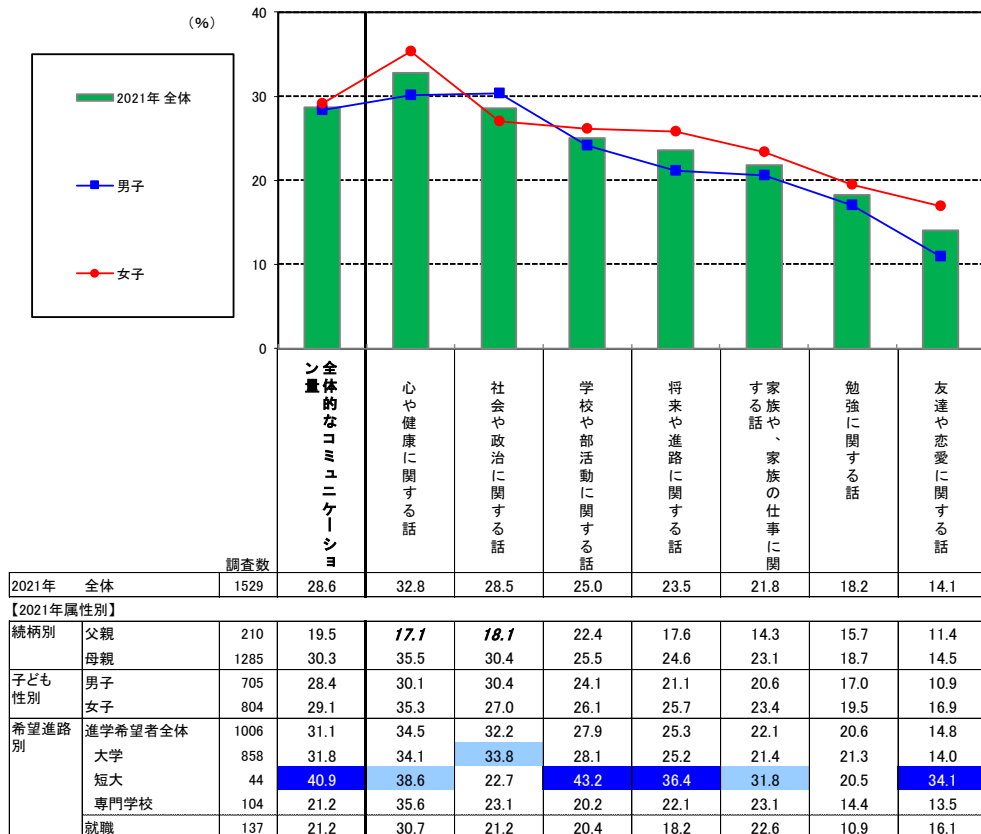
※「全体的なコミュニケーション量」以外は「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

01_K_Q14-1

【保護者】新型コロナウイルス感染症の影響による親子の会話内容の変化（全体／各単一回答「増えた・計」）



※「全体的なコミュニケーション量」以外は「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

01_H_Q8.1

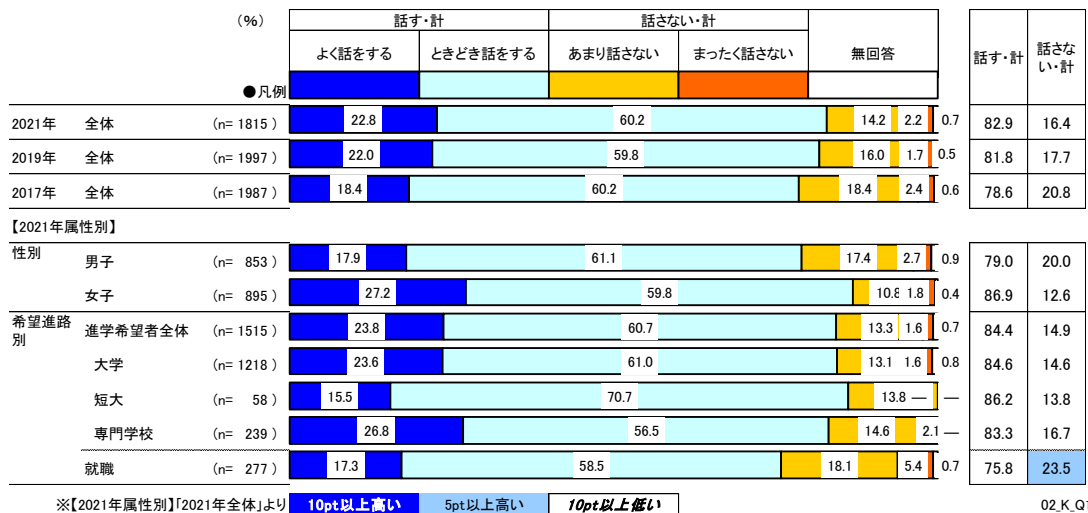
2. 進路について話す頻度

▶ 高校生では83%、保護者では89%が、進路について「話す」。

▶ 時系列でみると、高校生の「話す・計」の割合は過去最も高い。

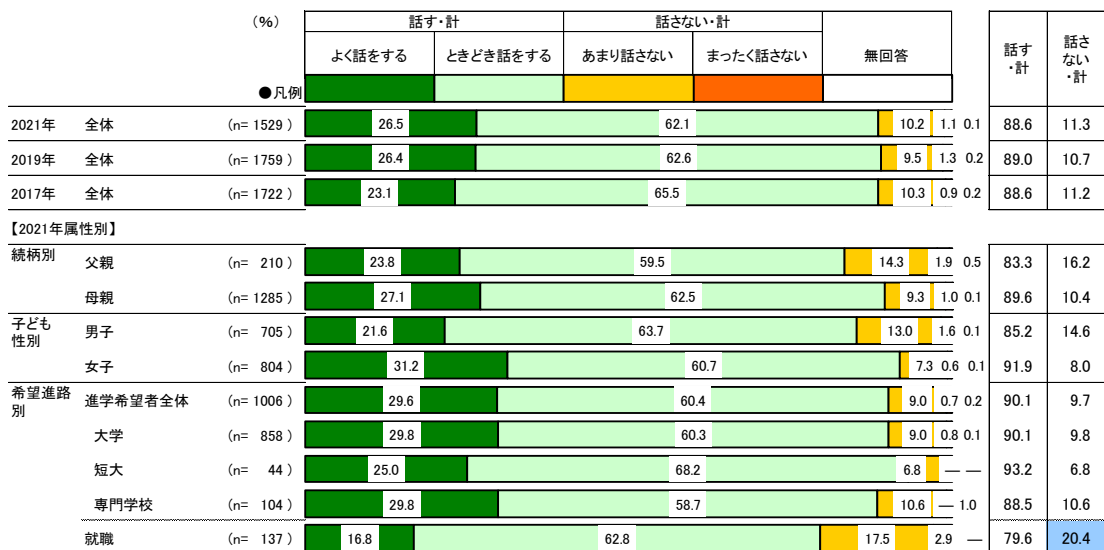
- 高校2年生の段階で、卒業後の進路について高校生、保護者間で話をしているかを尋ねたところ、高校生では「よく話をする」が23%、「ときどき話をする」が60%を占め、合計では83%が「話す」と回答した。
- 時系列でみると、微増ながら「よく話をする」の増加傾向が続き、「話す・計」の割合はこれまでで最も高い。
- 性別にみると、男子（79%）より女子（87%）で「話す・計」の割合が高い。
- 希望進路別にみると、就職希望者（76%）より進学希望者全体（84%）で「話す・計」の割合が高い。
- 保護者では、「よく話をする」が27%、「ときどき話をする」が62%で、合計では89%が「話す」と回答。時系列ではほとんど変化がない。
- 続柄別にみると、「話す・計」の割合は父親（83%）より母親（90%）で高い。
- 子どもの性別にみると、「話す・計」の割合は男子（85%）より女子（92%）で高い。特に「よく話をする」は、女子が男子を10ポイント程度上回っている。

【高校生】進路についての話を保護者としているか（全体／単一回答）



02_K_Q1

【保護者】進路についての話を子どもとしているか（全体／単一回答）

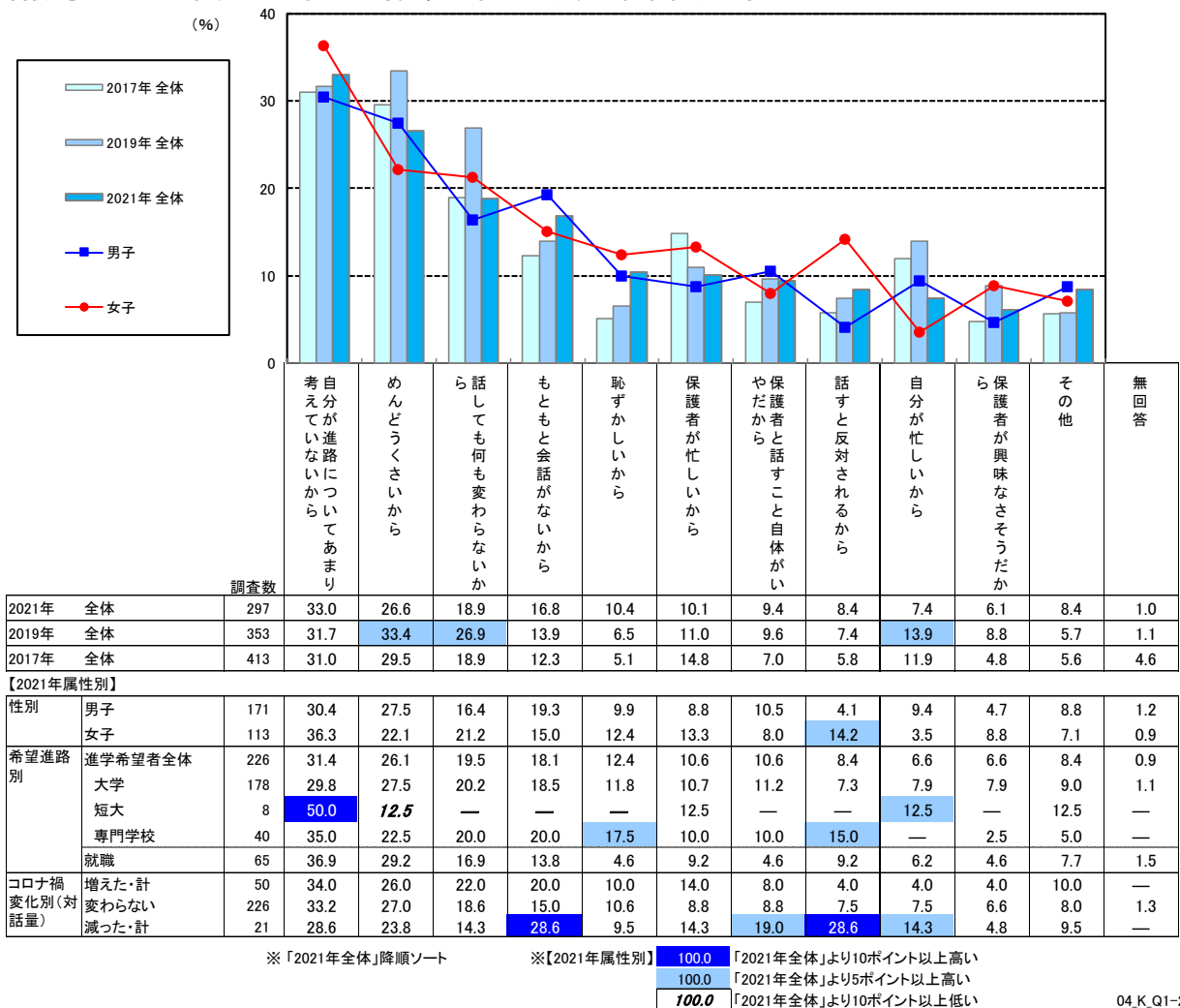


02_H_Q1

4. 進路について話さない理由

- ▶ 進路について話さない理由のトップは「自分が進路についてあまり考えていないから」。
- ▶ 「めんどくさい」「話しても何も変わらない」は前回と比較して大幅に減少。
- 保護者と進路について「あまり話さない」「まったく話さない」と回答した高校生に対して、話をしない理由を尋ねたところ、「自分が進路についてあまり考えていないから」（33%）が最も高く、「めんどくさいから」（27%）が続く。
- 時系列でみると、上位項目の中では「自分が進路についてあまり考えていないから」「もともと会話がないから」「恥ずかしいから」などが増加傾向。逆に「めんどくさいから」「話しても何も変わらないから」などが前回と比較して減少した。
- 性別にみると、男女とも上位項目の顔触れは同じだが、男子では「めんどくさいから」、女子では「自分が進路についてあまり考えていないから」「話しても何も変わらないから」のスコアがそれぞれ相対的に高い。また女子では、「話すと反対されるから」も顕著に高くなっている。

【高校生】 進路について保護者と話さない理由（あまり話さない～まったく話さない／複数回答）

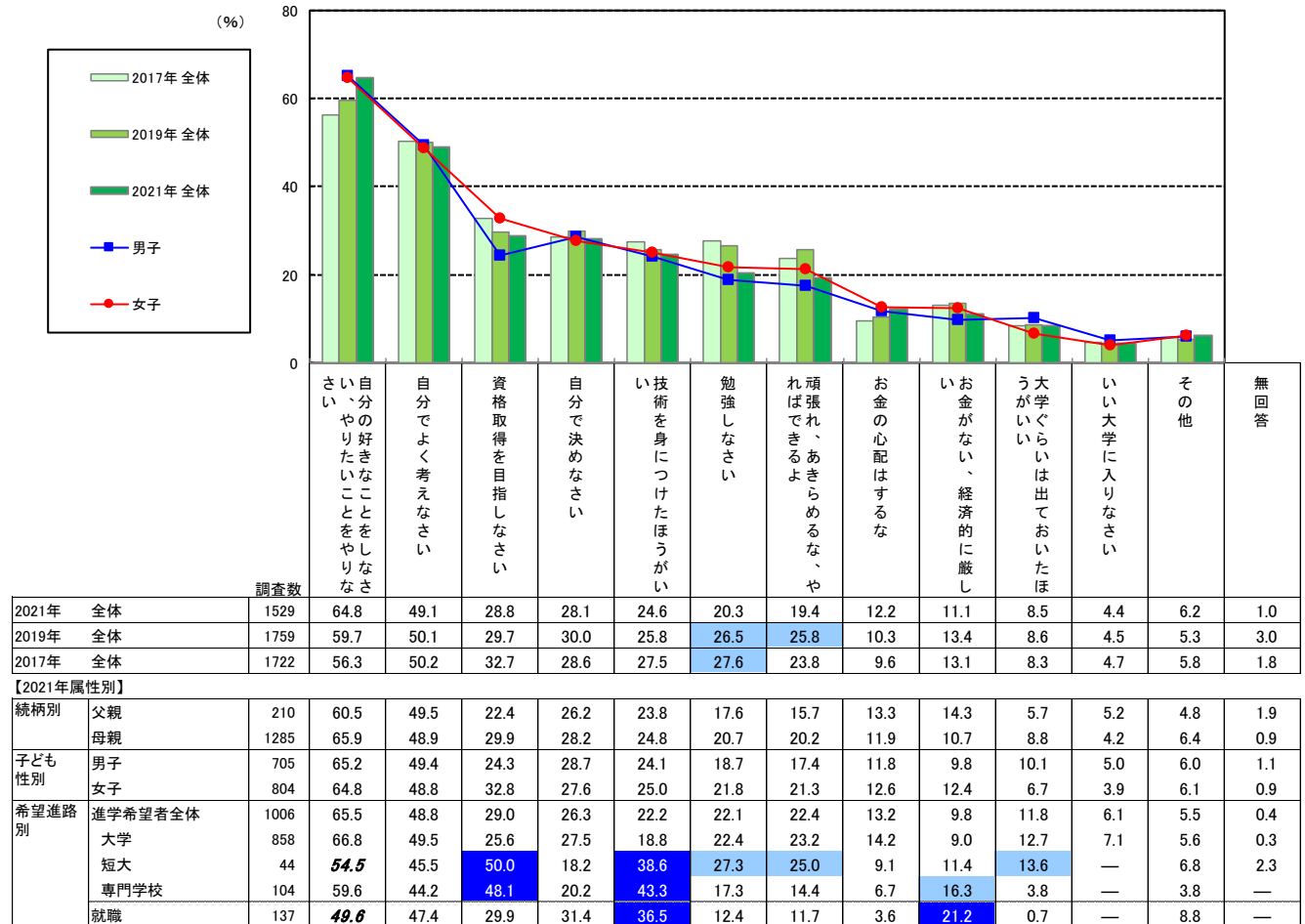


▶保護者自身の認識でも、進路について高校生と話す際によく使う言葉は「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」が最も多い。

▶高校生と同様「自分の好きなことを～」が上昇傾向。一方「資格取得を目指しなさい」は低下。

- 保護者にも同様に高校生と進路との話をする際にどのような言葉を使うかを尋ねたところ、高校生と同様「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」（65%）が突出して高い。次いで「自分でよく考えなさい」「資格取得を目指しなさい」「自分で決めなさい」などが高い。
- 時系列でみると、これも高校生と同様に「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」が上昇。逆に「資格取得を目指しなさい」「技術を身につけたほうがいい」「勉強しなさい」などが低下しており、これまでの価値観よりも、子ども自身の意志を尊重しようとする声掛けが増加したことがうかがえる。
- また、「お金の心配はするな」は上昇、「お金がない、経済的に厳しい」についてはやや低下しており、高校生の認識と一致している。

【保護者】子どもと進路の話をするときに使う言葉（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

05_H_Q7

6. 希望進路・進路の悩みの共有度

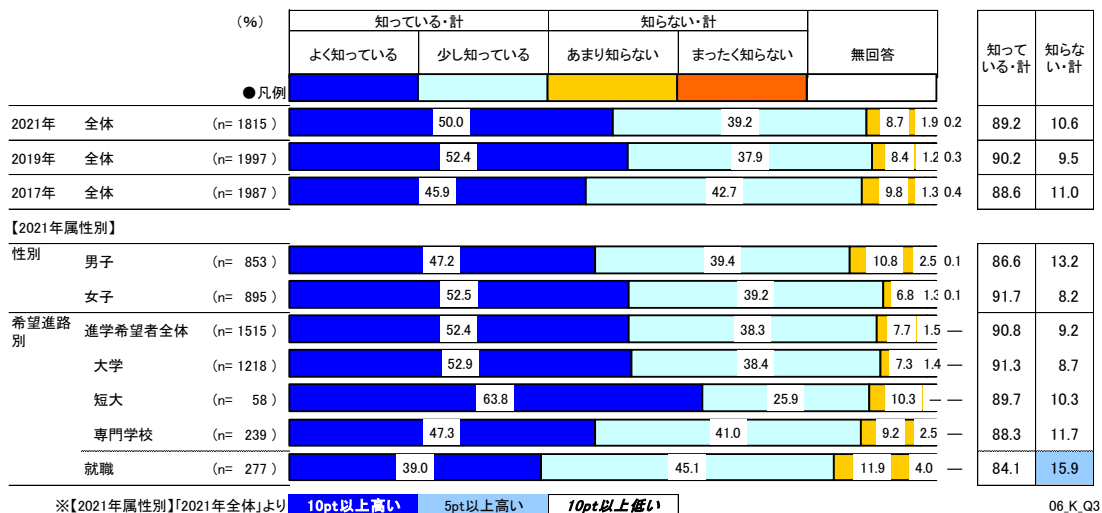
1) 希望進路の共有度

▶ 高校生の89%、保護者の91%が、希望進路や進路に対する考えを「知っている」。

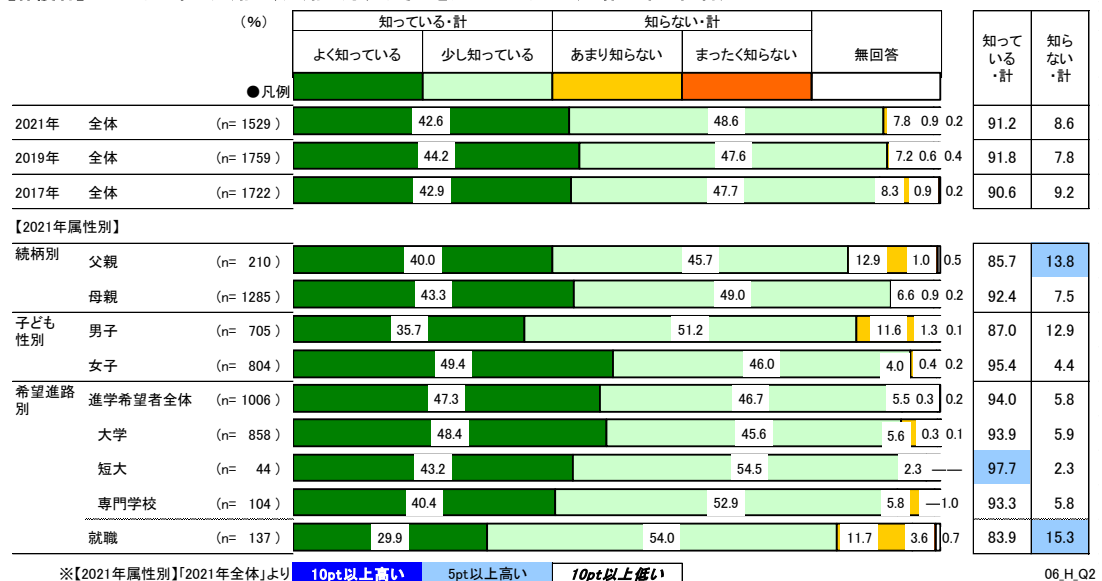
▶ 「よく知っている」割合は、高校生、保護者ともに前回より微減。

- 希望進路や進路に対する考えを保護者は知っているかどうか尋ねたところ、高校生の50%が「よく知っている」と回答、「少し知っている」まで合わせると、合計で89%が「知っている」と回答した。
- 時系列でみると、「よく知っている」割合は前回よりわずかに減少した。
- 性別にみると、男子（87%）より女子（92%）で「知っている・計」の割合が高い。
- 希望進路別にみると、就職希望者（84%）より進学希望者全体（91%）で「知っている・計」の割合が高い。
- 保護者にも同様に、子どもの希望進路や進路に対する考えを知っているかを尋ねたところ、「よく知っている」が43%を占め、「少し知っている」まで合わせると、合計で91%が「知っている」と回答した。
- 保護者でも、「よく知っている」割合が前回より微減した。
- 続柄別にみると、「知っている・計」の割合は、父親（86%）より母親（92%）で高い。
- 子どもの性別にみると、「知っている・計」の割合は男子（87%）より女子（95%）で高く、高校生の傾向と一致している。

【高校生】希望進路や、進路に対する考えを保護者は知っているか（全体／単一回答）



【保護者】子どもの希望進路や、進路に対する考えを知っているか（全体／単一回答）



2) 進路選択の不安の共有度

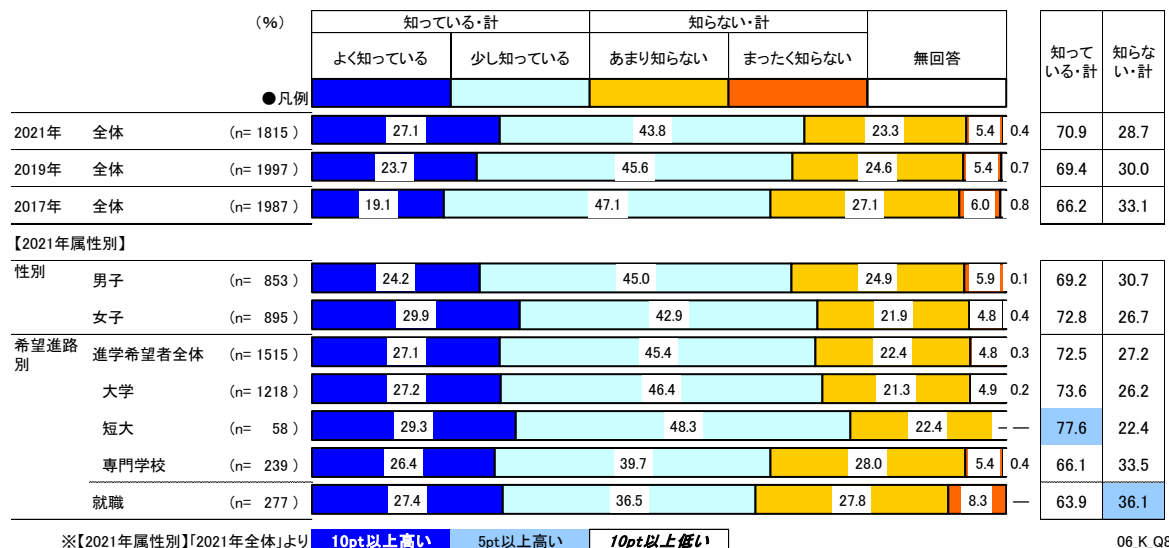
▶ 高校生、保護者ともに合計71%が、保護者が進路選択の悩みや不安について「知っている」と回答。

▶ 悩み・不安の共有度は年々上昇傾向。

- 高校生の進路選択の悩みや不安について、保護者が知っているかどうかを尋ねたところ、高校生では、「よく知っている」が27%を占め、「少し知っている」まで含めると合計で71%が「知っている」と回答した。
- 時系列でみると、「よく知っている」の増加が続いており、2017年（19%）と比較して8ポイント増加した。
- 性別にみると、女子では「よく知っている」が30%を占め、男子（24%）を上回る。

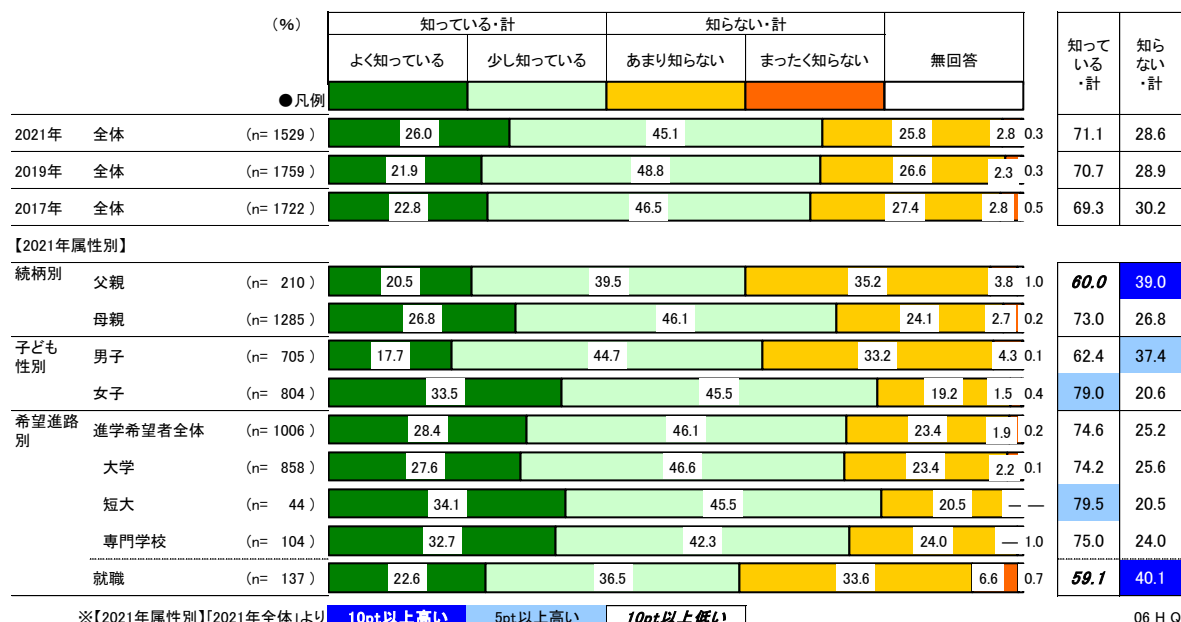
- 保護者にも同様に子どもの進路選択の悩みや不安を知っているか尋ねたところ、「よく知っている」が26%を占め、「少し知っている」まで含めると合計で71%が「知っている」と回答した。
- 時系列でみると、「よく知っている」割合は前回（22%）から4ポイント増加した。
- 続柄別にみると、「知っている・計」は母親（73%）の方が父親（60%）より高い。
- 子どもの性別にみると、「知っている・計」は女子（79%）の方が「男子」（62%）より17ポイント高く、特に「よく知っている」割合の差が大きい。

【高校生】保護者は進路選択の悩みや不安を知っているか（全体／単一回答）



06_K_Q8

【保護者】子どもの進路に関する悩みや不安を知っているか（全体／単一回答）



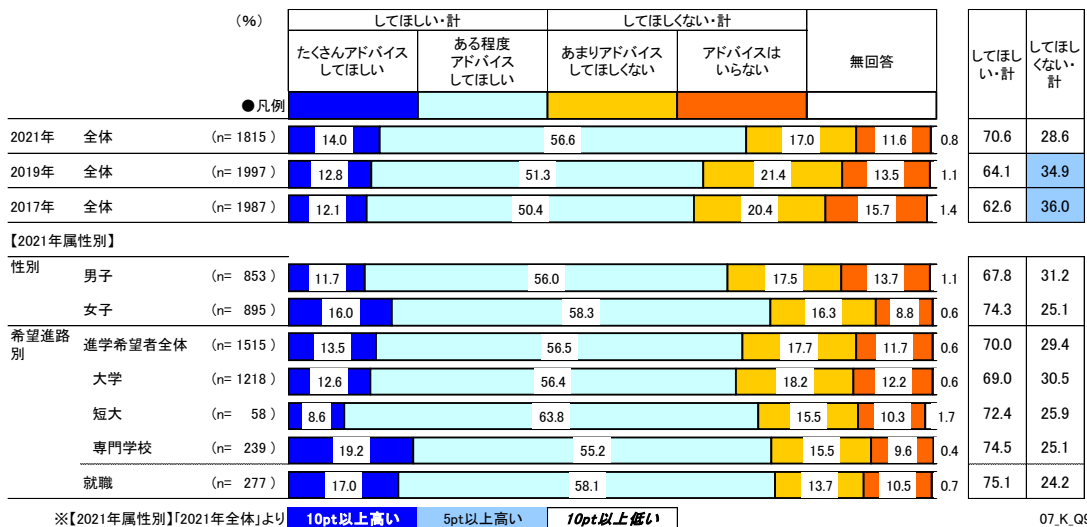
06_H_Q3

7. 保護者からのアドバイス／アドバイスして欲しい内容・理由

- ▶ 高校生の71%が、保護者からアドバイスを「してほしい」。時系列では増加傾向。
- ▶ 保護者の80%がアドバイスを「している」。特に「よくしている」割合の増加傾向が続く。

- 高校生に対して、保護者に進路選択に際してのアドバイスをしてほしいか尋ねたところ、「たくさんアドバイスしてほしい」が14%、「ある程度アドバイスしてほしい」が57%と、合計71%が「してほしい」と回答した。時系列ではこの割合が徐々に増加している。
- 保護者に対して、高校生の進路に関する悩みについて相談にのったりアドバイスしているかを尋ねたところ、「よくしている」が29%と3割近くを占め、「少ししている」まで含めると合計80%が「している」と回答した。

【高校生】進路選択に際して、保護者にアドバイスしてほしいか（全体／単一回答）

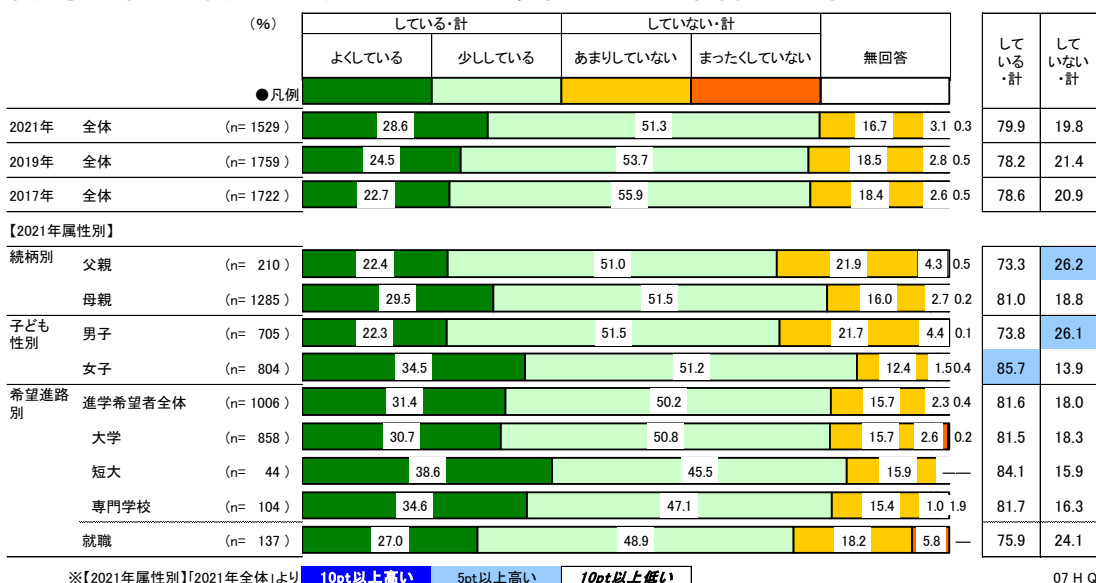


07_K_Q9

＜フリーコメント＞ 保護者にアドバイスしてほしい内容や理由【高校生】

- たくさんアドバイスしてほしい～ある程度アドバイスしてほしい
 - － 人生経験のある親などからたくさん失敗したことやこれからのために必要なことをたくさん聞きたい。[北海道/男子/就職]
 - － 大学での学びや経験がその後どのように活かされているかを知りたい。[新潟県/女子/大学]
 - － アドバイスしてもらいつつ、自分でも調べていきたい。[新潟県/男子/大学]
- あまりアドバイスしてほしくない～アドバイスはいらない
 - － アドバイスが多いと、何が正しいか分からなくなるから。[新潟県/男子/大学]
 - － 最近の大学事情について何も知らないし、話しても有名大学や国公立を無責任に勧めてくるから。[山形県/女子/大学]

【保護者】子どもの進路に関する悩みや不安について、相談に乗ったりアドバイスしているか（全体／単一回答）



07_H_Q4

8. 保護者がアドバイスすることの困難

1) 子どもの進路選択についてアドバイスすることは難しいか

▶保護者の70%が進路選択について子どもにアドバイスすることは「難しい」と感じている。

- 進路選択について子どもにアドバイスすることの難しさについてどのように感じているかを尋ねたところ、「非常に難しい」が17%を占め、「やや難しい」を含めると合計で70%が「難しい」と回答した。
- 時系列でみると、2019年に比べて「非常に難しい」割合が低下した。
- 続柄別にみると、「難しい・計」の割合は、母親(71%)が父親(64%)を上回った。
- 子どもの性別にみると、「難しい・計」の割合は性差が小さい。
- 希望進路別にみると、「難しい・計」の割合は、進学希望者全体(73%)の方が就職希望者(56%)より高い。
- 子どもとの進路に関する対話頻度別にみると、話すとは回答した層に比べて話さない層の方が「難しい・計」の割合が高く、81%を占める。
- 進路に対する考えの認知別にみると、考えを共有していない層ほど「難しい・計」の割合が高い。子どもの進路について知らないとは回答した層では、とりわけ「非常に難しい」割合が高くなっている。

【保護者】進路選択について子どもにアドバイスすることは難しいか（全体／単一回答）

		(%)	難しい・計		難しいとは感じていない	その他	無回答		難しい・計
●凡例			非常に難しい	やや難しい					
2021年	全体	(n= 1529)	16.9	53.2			29.1	0.5	0.4
2019年	全体	(n= 1759)	21.7	51.4			25.6	0.6	0.7
2017年	全体	(n= 1722)	19.6	51.9			27.8	0.2	0.6
【2021年属性別】									
続柄別	父親	(n= 210)	16.2	47.6			34.8	0.5	1.0
	母親	(n= 1285)	17.0	53.9			28.4	0.4	0.3
子ども性別	男子	(n= 705)	16.5	51.9			30.9	0.4	0.3
	女子	(n= 804)	17.2	54.0			28.0	0.4	0.5
希望進路別	進学希望者全体	(n= 1006)	17.0	55.5			27.0	0.2	0.3
	大学	(n= 858)	17.2	56.6			25.6	0.2	0.2
	短大	(n= 44)	20.5	43.2			36.4	—	—
	専門学校	(n= 104)	13.5	51.0			34.6	—	1.0
	就職	(n= 137)	13.1	42.3			43.8	0.7	—
進路対話頻度別	話す・計	(n= 1354)	15.9	52.8			30.6	0.4	0.3
	話さない・計	(n= 173)	24.9	56.1			17.3	1.2	0.6
進路に対する考えの認知別	よく知っている	(n= 651)	12.7	51.2			35.6	0.2	0.3
	少し知っている	(n= 743)	17.8	55.5			25.8	0.5	0.4
	知らない・計	(n= 132)	32.6	50.8			15.2	1.5	—

※【2021年属性別】「2021年全体」より

10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

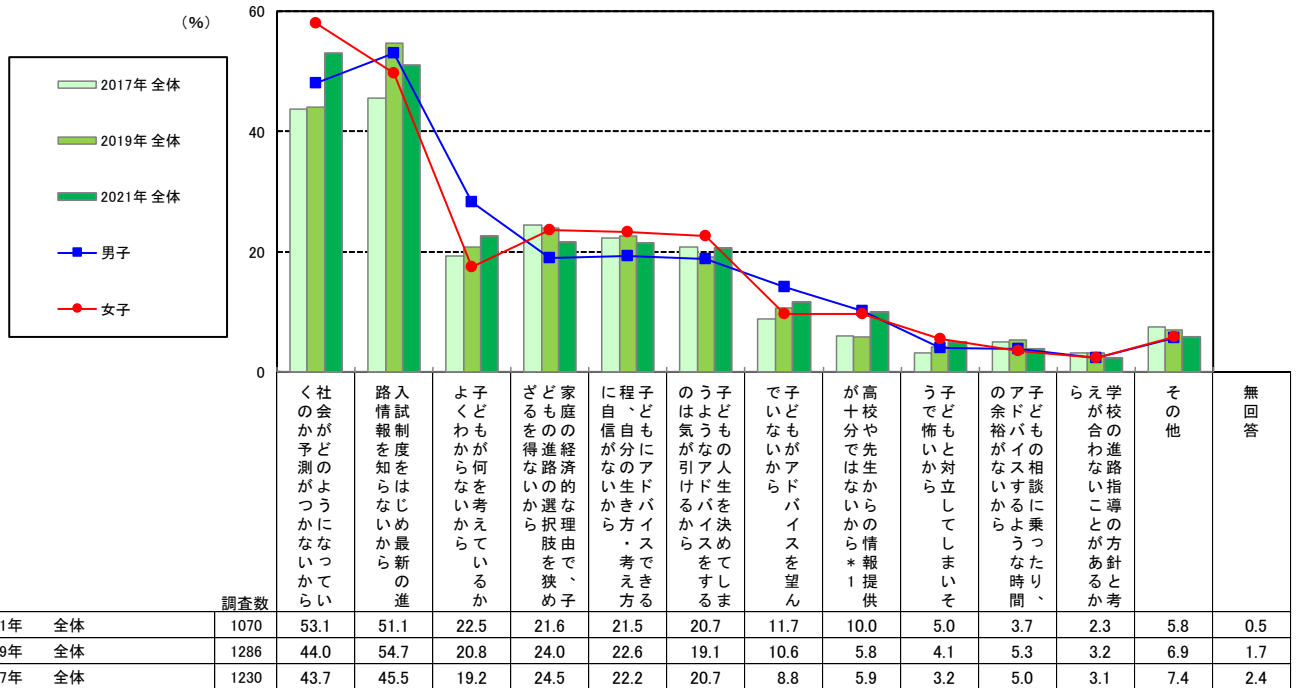
08_H.Q5

2) 子どもの進路選択についてアドバイスすることが難しい理由

▶ アドバイスに困難を感じる理由は、「社会がどのようなようになっていくのか予測がつかないから」「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」が50%以上で並ぶ。

- アドバイスが「難しい」と感じている保護者にその要因を尋ねたところ、「社会がどのようにっていくのか予測がつかないから」「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」がいずれも50%以上と高い。
- 特に「社会がどのようにっていくのか予測がつかないから」は、前回（44%）より9ポイント上昇した。

【保護者】 進路選択についてアドバイスを難しいと感じる要因（アドバイスが「難しい」回答者／複数回答）



【2021年属性別】																
続柄別	父親	134	45.5	46.3	33.6	17.9	13.4	14.9	13.4	11.2	5.2	6.0	2.2	6.0	0.7	
	母親	910	54.8	52.2	20.8	22.2	22.6	21.6	11.5	9.7	4.7	3.2	2.2	5.6	0.3	
子ども性別	男子	481	48.0	53.0	28.3	18.9	19.3	18.7	14.1	10.2	4.0	3.7	2.3	5.6	0.8	
	女子	572	58.0	49.7	17.5	23.6	23.3	22.6	9.6	9.6	5.4	3.5	2.3	5.8	—	
希望進路別	進学希望者全体	728	51.9	56.5	20.3	19.8	21.4	19.9	11.0	11.0	5.1	4.0	2.3	5.4	0.4	
	大学	633	52.9	57.7	19.7	18.0	20.5	18.2	10.9	10.6	5.1	4.1	2.7	5.5	0.5	
	短大	28	53.6	60.7	14.3	21.4	39.3	28.6	—	3.6	7.1	7.1	—	3.6	—	
	専門学校	67	41.8	43.3	28.4	35.8	22.4	32.8	16.4	17.9	4.5	1.5	—	4.5	—	
	就職	76	52.6	23.7	36.8	42.1	18.4	26.3	13.2	11.8	6.6	1.3	6.6	3.9	1.3	
	進路対話頻度別	話す・計	929	55.8	51.9	18.0	20.9	20.9	21.1	8.4	9.9	4.0	3.9	2.5	5.8	0.3
		話さない・計	140	35.7	46.4	52.1	26.4	25.7	17.9	33.6	10.7	11.4	2.9	1.4	5.0	1.4
進路に対する考えの認知別	よく知っている	416	56.5	51.9	6.0	21.4	20.9	19.2	5.8	8.2	3.1	3.4	2.9	7.0	0.2	
	少し知っている	543	54.1	52.3	25.4	21.5	22.8	23.6	12.3	10.9	5.0	4.2	2.2	5.3	0.6	
	知らない・計	110	35.5	41.8	70.9	22.7	17.3	10.9	30.9	11.8	11.8	2.7	0.9	3.6	0.9	

※「2021年全体」降順ソート

*1) 2019年まで「教師からの情報提供が足りないなど高校が頼りにならないから」

※【2021年属性別】

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

08 H Q5-1

▶<フリーコメント> 子どもの進路について心配なことや気がかり【保護者】

- これから先社会がどう変化していくのか分からない為に、子どもに希望を持てるアドバイスができそうにない。[和歌山県/母親/男子/専門学校]
- 希望の職業につくため学部を選択をどのようにしたらよいのか。子供の能力と合わせ考えることが難しい。[東京都/父親/女子/大学]
- コロナ禍で高校に入り、色々経験して進路を決めようとしていたのにそれができず、狭い視野の中で進路選択をしていかなければならない事が心配です。[北海道/母親/男子/子の希望なら何でも]
- 2年生という学年は、まだ進路選択に迷う時期で選択肢が広すぎて何から手をつけていけばいいか困る。オープンキャンパスもオンラインになり、コロナ禍での進路選択は最新情報のチェックやHPなどのこまめなチェックが必要になると思う。分かりやすい情報が欲しい。[島根県/母親/女子/大学]
- どういう手続きでどうなるか分かる資料を早い段階でほしい。[島根県/父親/男子/子の希望なら何でも]
- 進路の方向性は理解してるが進路先の選択肢について知識が少ないので心配です。自分の将来の目標に対してどうすべきか？どの学校が適しているのか？経済的なことも含めて2年生までに話し合いたいと思っています。[沖縄県/父親/男子/専門職大学]
- なりたい職業や夢はあるが（教師）、現代の教育現場は厳しいことばかり耳に入るので、そんなところに飛び込んで大丈夫なのか心配。またそこを目指すのは相当体力的にもタフにならなければいけないと思うので、挫折するのではないかと心配。[島根県/母親/男子/大学]

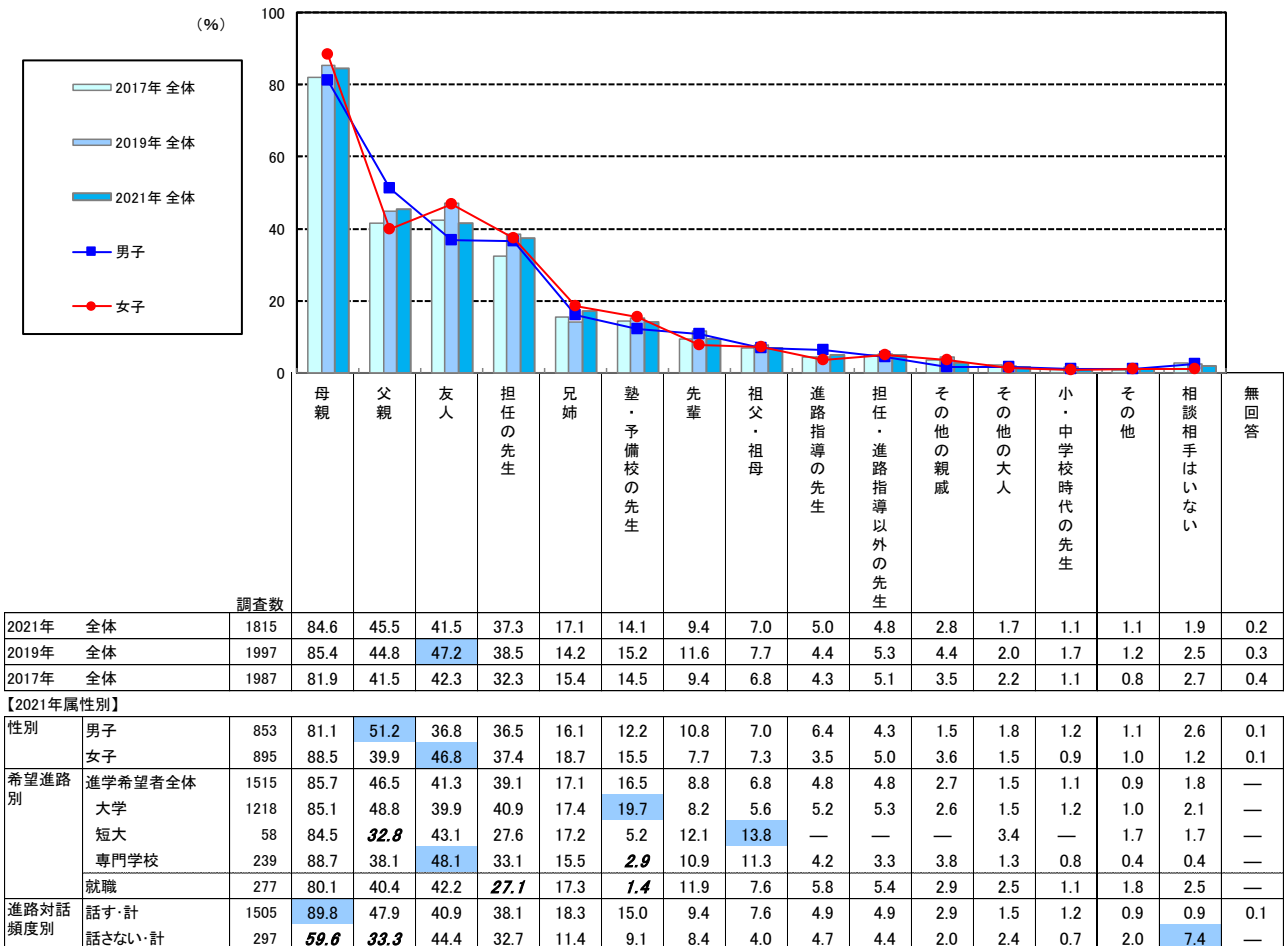
9. 進路選択についての相談相手

▶ 高校生が進路を考えるうえで相談する相手としては、「母親」が突出して高い。

▶ 時系列では「父親」が増加傾向。

- 高校生に対して進路を考えるうえで誰と相談するかを尋ねたところ、「母親」（85%）が突出して高く、以下「父親」「友人」「担任の先生」などが40%前後で続く。
- 時系列でみると、「母親」は安定して80%以上を維持。「父親」（46%）は2017年（42%）2019年（45%）と比べて微増した。この他「兄姉」も微増しており、近親者への相談が増加した。逆に前回2番目に多かった「友人」は6ポイント低下した。
- 性別にみると、男女とも第1位は「母親」となっているが、第2位は男子では「父親」、女子では「友人」が続いている。
- 最もよく相談する相手について、その理由を自由回答で尋ねたところ、【母親】については、最も身近な存在であり、情報を調べるなど親身に高校生に寄り添う行動をしている点が理由として挙がっている。
- 【父親】については、母親と同様に身近で親身である点や、進路選択や将来の仕事についての経験や知識が豊富な点が理由となっている。
- 【友人】は、普段から話していて気軽に相談しやすい点が理由となっている。リアルな友人よりもSNSなどインターネット上の友人の方が“より気軽”だとする意見もみられる。
- 【担任の先生】については、自身の成績について熟知していることや、受験に関する情報・知識が豊富であることを要因とする意見が多い。

【高校生】 進路についての相談相手（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

09_K_Q10

▶<フリーコメント> 進路選択について一番の相談相手、その理由【高校生】

- 母親
 - 1番身近な人で経験もしているから。[三重県/女子/短大]
 - アドバイスをたくさんしてくれるから。[東京都/男子/大学]
 - 自分が少し分からないところがあって聞くと教えてくれて、いつも一緒にいるから聞きやすい。[茨城県/女子/大学]
 - 自分が母と同じ高校にいる。話しやすい。[山形県/女子/大学]
 - 自分のことについて一番理解してくれているから。[茨城県/女子/大学]
 - 大学を調べてくれるなど積極的に行動してくれるから。[山形県/女子/大学]
- 父親
 - 「人」をよく知っているから。[島根県/男子/大学]
 - 1番身近な人だし昔から自分のことを知ってるから。[北海道/男子/就職]
 - よく進路について教えてくれるから。[和歌山県/無回答/就職]
 - 家族の中で大学に進学しており、今後の進路決定のうえで適確なアドバイスをくれそうだから。[沖縄県/男子/大学]
 - 学習面でもいろいろサポートしてもらっているから。[新潟県/男子/大学]
 - 最終的にお金も出してくれるのは父だし、父は家族の中でも一番しっかりしているから。[三重県/女子/専門学校]
 - 志望校が父親の母校だから。[茨城県/男子/大学]
- 友人
 - 気が楽だから。[新潟県/男子/大学]
 - 気軽に話し合えるから。[東京都/女子/大学]
 - 現時点で同じ方向性だから。[北海道/男子/大学]
 - 肯定的で相談しやすいから。[和歌山県/女子/専門学校]
 - 身内関係なく、思っていることをそのまま話せるから。[三重県/女子/大学]
 - 他の人の考えを聞くと関心が深まる。[東京都/女子/大学]
 - 友達だと自分の事をよく知ってるから気にしながら言うけど、ネットの友達だと大体でしか知らないから色んな選択肢出してくれるから。[和歌山県/男子/専門学校]
- 担任の先生
 - 経験豊富で信用できる。[三重県/女子/大学]
 - 担任の先生の方が就職について色々な事を教えてくれそう。[北海道/女子/就職]
 - 自分のことを考えてくれるから 考え方や知らなかった道、これからやるべきことを教えてもらえるから。[島根県/女子/大学]
 - 知識があって、一番近くにいる存在だから。[東京都/男子/大学]
 - 専門家だから信頼できる。[和歌山県/男子/大学]
 - 面談があるから。[三重県/男子/大学]
- 兄姉
 - すでに大学にかよっており、知識が多いから。[新潟県/男子/大学]
 - 姉の影響で進路が決まったから。[沖縄県/男子/大学]
 - ちゃんと自分の話を聞いてくれて1番理解してくれている。[新潟県/女子/専門学校]
 - 現役大学生だから。[島根県/女子/大学]
 - 肯定するだけではなく、悪い所を言ってくれるから。[島根県/女子/大学]
 - 歳が近く、社会人だから。[北海道/男子/就職]
 - 姉が今大学生なので、姉の周りの話をしてくれたり、姉自身の経験を教えてくれるから。[山形県/女子/大学]
 - 大学にいていていろいろな情報をもっているから。[新潟県/男子/大学]

10. 目指している・あこがれている人

1) 目指している人・あこがれている人の有無と具体像

▶ 高校生の19%が、自分の将来を考えると、目指している人やあこがれている人が「いる」。

- 高校生に対して、自分の将来を考えると、目指している人やあこがれている人がいるかどうかを尋ねたところ、19%が「いる」と回答した。
- 性別にみると、男子（17%）より女子（20%）で「いる」割合がやや高い。
- 希望進路別にみると、進学希望者全体（20%）の方が、就職希望者（12%）よりも「いる」割合が高い。
- 目指している人・あこがれている人について、「いる」と回答した高校生に、具体的な対象を自由回答で尋ねたところ、3人に1人程度が著名人の名前をあげた。その他では父・母・兄・姉などの近親者や先輩・友人といった身近な人物や、特定の職業に従事する人などがあげられた。
- 「先生・恩師・部活顧問」や「特定の職業従事者」に関する意見からは、「昔お世話になった」「祖母がお世話になった」など、これまでに接した経験を通じてあこがれを持っている様子が見取れる。

【高校生】 目指している・あこがれている人はいるか（全体／単一回答）

（％）			いる	いない	無回答
● 凡例					
2021年	全体	(n= 1815)	18.7	80.8	0.5
【2021年属性別】					
性別	男子	(n= 853)	16.9	82.6	0.5
	女子	(n= 895)	20.2	79.4	0.3
希望進路別	進学希望者全体	(n= 1515)	19.7	79.9	0.3
	大学	(n= 1218)	19.7	79.9	0.4
	短大	(n= 58)	22.4	77.6	—
	専門学校	(n= 239)	19.2	80.8	—
	就職	(n= 277)	12.3	87.0	0.7
進路選択の意識別	考えている・計	(n= 1478)	21.2	78.3	0.5
	考えていない・計	(n= 332)	7.5	92.5	—

10_K_Q16

【高校生】 目指している・あこがれている人の具体像（目指している人が「いる」かつ自由回答で記入あり／自由回答）

(n=300)		< 具体的な記入内容例 >		(%)
著名人	34.0	大谷 翔平/辻口博啓さん/野口英世/杉原千畝/孫正義/スティーブ・ジョブズ/スティーブ・ウォズニアック/セルゲイ・ブリン/ヒカキンさん/Fisher's/など		
先生・恩師・部活顧問	14.3	ちっちゃい時に面倒見てもらった先生/小さい頃の、塾の英語の先生/中学の先生、教育実習に来てくれた先生/中学校の頃のバスケットボールクラブのコーチ		
兄弟・祖父など血縁者	13.7	兄のように自立したい/難関大学に現役合格した兄/祖父と祖母/親戚(母親のいとこ)/など		
母	11.0			
特定の職業従事者	11.0	スポーツトレーナーや、リハビリ師/患者さんだけでなく、家族にも寄り添える医師/昔泊まったホテルのホテルマン/保育士さんなど先生/漫画家さん、イラストレーターさん/など		
父	10.0			
先輩・友人	7.0	海外留学した先輩/大学の先輩方/部活動の部長さん/など		
その他の知人	2.3	友達のお兄さん/親戚、友達の兄/など		
その他	6.7	楽しそうに仕事とか大学生活を送っている人/自立している人/これは理想像になるが、前向きで、親身で、礼儀正しく、信頼される人になりたい。/好きなことを仕事にしている人		

10_K_Q16t 目指す人カウ

2) 将来像に向けての行動開始状況と具体的な内容

▶ 高校生の19%が、将来像に向けて行動を開始している。

- 高校生に対して、自分の将来像に向けて何か行動を起こすなど始めていることがあるかどうかを尋ねたところ、19%が「ある」と回答。また、「始めたいがまだやっていない」が49%を占め、合計では7割程度が将来像に向けての行動を始めているか始めたいと思っていることがわかる。
- 性別にみると、行動を開始していることが「ある」割合は、男子（20%）の方が女子（17%）よりわずかながら高い。女子では「始めたいがまだやっていない」割合が高い。
- 希望進路別にみると、「ある」割合は、進学希望者全体で19%、就職希望者で16%となっている。
- 進路選択の意識別にみると、高校2年生の時点で進路を考えていると回答した層では、将来像に向けて開始している行動が「ある」割合が22%を占めており、考えていない層（4%）を大幅に上回っている。
- 将来像に向けての行動の具体的な内容としては、受験に向けた勉強をするという意見が最も多いが、進学先や就職先に関する情報収集や、関連した技術・資格を習得するための行動を開始しているという意見も多くみられた。

【高校生】 将来像に向けての行動開始状況（全体／単一回答）

			(%)	ある	始めたいがまだやっていない	ない	無回答	
● 凡例								
2021年	全体	(n= 1815)		19.0	49.4		30.5	1.2
【2021年属性別】								
性別	男子	(n= 853)		19.9	46.9		31.8	1.4
	女子	(n= 895)		17.3	52.8		28.9	0.9
希望進路別	進学希望者全体	(n= 1515)		19.3	50.8		28.8	1.2
	大学	(n= 1218)		18.2	50.6		29.9	1.3
	短大	(n= 58)		24.1	43.1		31.0	1.7
	専門学校	(n= 239)		23.4	53.6		22.6	0.4
	就職	(n= 277)		16.2	43.7		39.7	0.4
進路選択の意識別	考えている・計	(n= 1478)		22.4	51.2		25.2	1.2
	考えていない・計	(n= 332)		3.9	41.3		54.2	0.6

10_K_Q16-1

▶ <フリーコメント> 「将来像に向けての行動」の具体的な内容【高校生】

・受験勉強や将来のための勉強・学習

- ・今できる勉強をする。[新潟県/女子/大学]
- ・受験勉強を今からやり始めた。[茨城県/男子/大学]
- ・大学進学のため学習塾に通う。[和歌山県/女子/大学]
- ・早めに課題を終わらせて、将来のための勉強をする。[山形県/女子/専門学校]
- ・苦手な教科は人に聞いて分かるまでやってます。[和歌山県/男子/就職]

・大学や入試、職業に関する情報収集

- ・就きたいと思っている仕事をしている先輩に話を聞いている。[北海道/男子/専門学校]
- ・大学が高校生向けに授業をオンラインでしてくれるものがあるので、それに参加している。[沖縄県/女子/大学]
- ・薬剤士の仕事について調べたり、大学のHPをみたり。[沖縄県/女子/大学]
- ・英語の先生になるために、まずは海外留学をして英語力を高めるために留学について情報収集をしている。[山形県/女子/海外の大学など]
- ・行きたい学部はどれくらいの学力が必要なのかを調べている。[三重県/女子/大学]
- ・学校について調べたりオープンキャンパスに行ったりした。[島根県/女子/短大]

・技術習得や資格取得

- ・自分の髪の毛のセルフカット、休日のヘアセット。[新潟県/男子/専門学校]
- ・プログラミング学習、中国語、3DCG。[三重県/女子/大学]
- ・絵の練習。[新潟県/男子/専門学校]
- ・器楽のレッスンを受けている。[山形県/男子/大学]
- ・具体的な会社像を紙に書き経営システムを検討中。[北海道/女子/その他]
- ・専門分野の書籍を読んだり講義を受ける。[三重県/女子/大学]
- ・服飾に関する専門の勉強。[山形県/女子/専門学校]

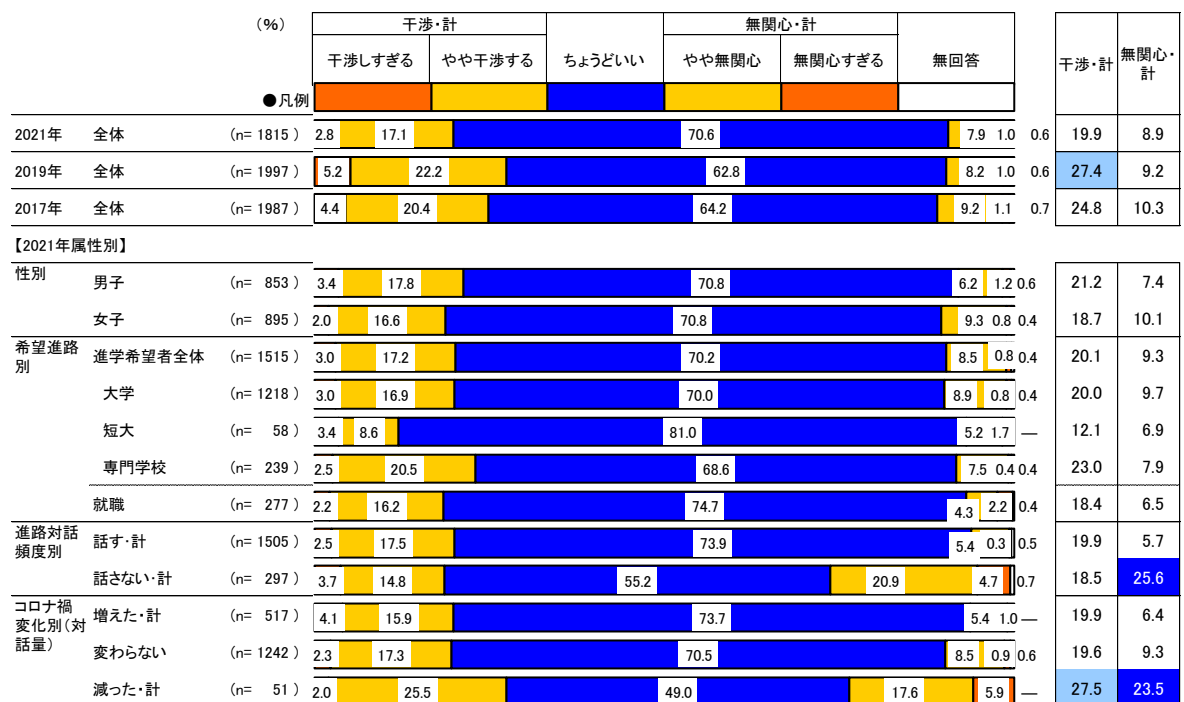
11. 進路選択について保護者が取る態度

▶ 進路選択に関する保護者の態度について、高校生の71%が「ちょうどいい」。2019年と比較して+8ポイントの大幅増加。

▶ 「干渉」と感じるのは20%、「無関心」は9%。

- 高校生に、進路選択に関する保護者の態度について尋ねたところ、71%が「ちょうどいい」と回答した。一方、「干渉・計」は20%、「無関心・計」は9%となっている。
- 時系列でみると、「干渉・計」は2019年（27%）と比較して8ポイント減少し、「ちょうどいい」が増加している。
- 性別にみると、「ちょうどいい」割合は男女とも71%となっているが、男子では「干渉・計」、女子では「無関心・計」がそれぞれ全体と比較してわずかに高い。
- 希望進路別にみると、「ちょうどいい」割合は、進学希望者全体（70%）より就職希望者（75%）で高い。
- 保護者との進路に関する対話頻度別にみると、進路について話す層では「ちょうどいい」が74%を占めているが、話さない層では55%と低く、「無関心・計」が26%を占める。

【高校生】 進路選択に関する保護者の態度（全体／単一回答）



※【2021年属性別】「2021年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

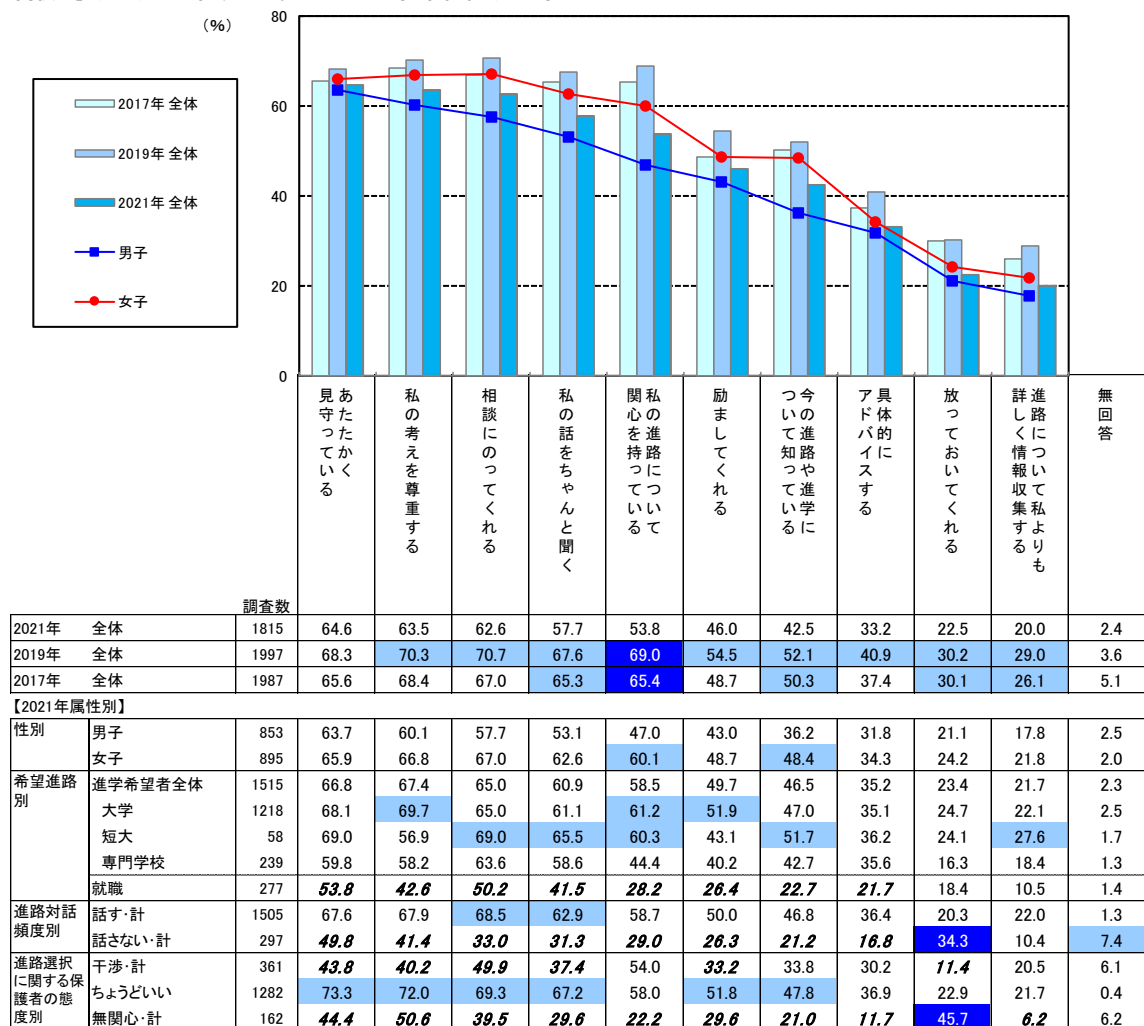
11_K_Q13

12. 進路選択についての保護者の行動・態度

▶進路に関する保護者の行動や態度は、「あたたかく見守っている」「私の考えを尊重する」「相談にのってくれる」が60%以上で拮抗。

- 高校生に対して、進路に関する保護者の行動や態度としてあてはまるものを尋ねたところ、「あたたかく見守っている」（65%）、「私の考えを尊重する」（64%）、「相談にのってくれる」（63%）がいずれも60%超で並んだ。
- 時系列でみると、ほとんどの項目は2017年、2019年よりもスコアが低下しているが、中では「あたたかく見守っている」の低下が小さく、今回は第1位となった。特に「私の進路について関心を持っている」の低下幅が大きく、2019年よりも15ポイント低下した。
- 性別にみると、男子より女子でスコアの高い項目が多く、特に「私の進路について関心を持っている」「今の進路や進学について知っている」などのスコアが高い。
- 希望進路別にみると、就職希望者より進学希望者全体で総じてスコアが高い。
- 進路選択に関する保護者の態度別にみると、ちょうどいいと回答した層では「あたたかく見守っている」「私の考えを尊重する」が70%を超えている。一方、干渉と回答した層では「私の進路について関心を持っている」が第1位。無関心層では「私の考えを尊重する」に次いで「放っておいてくれる」が高くなっている。

【高校生】進路選択で保護者にあてはまること（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

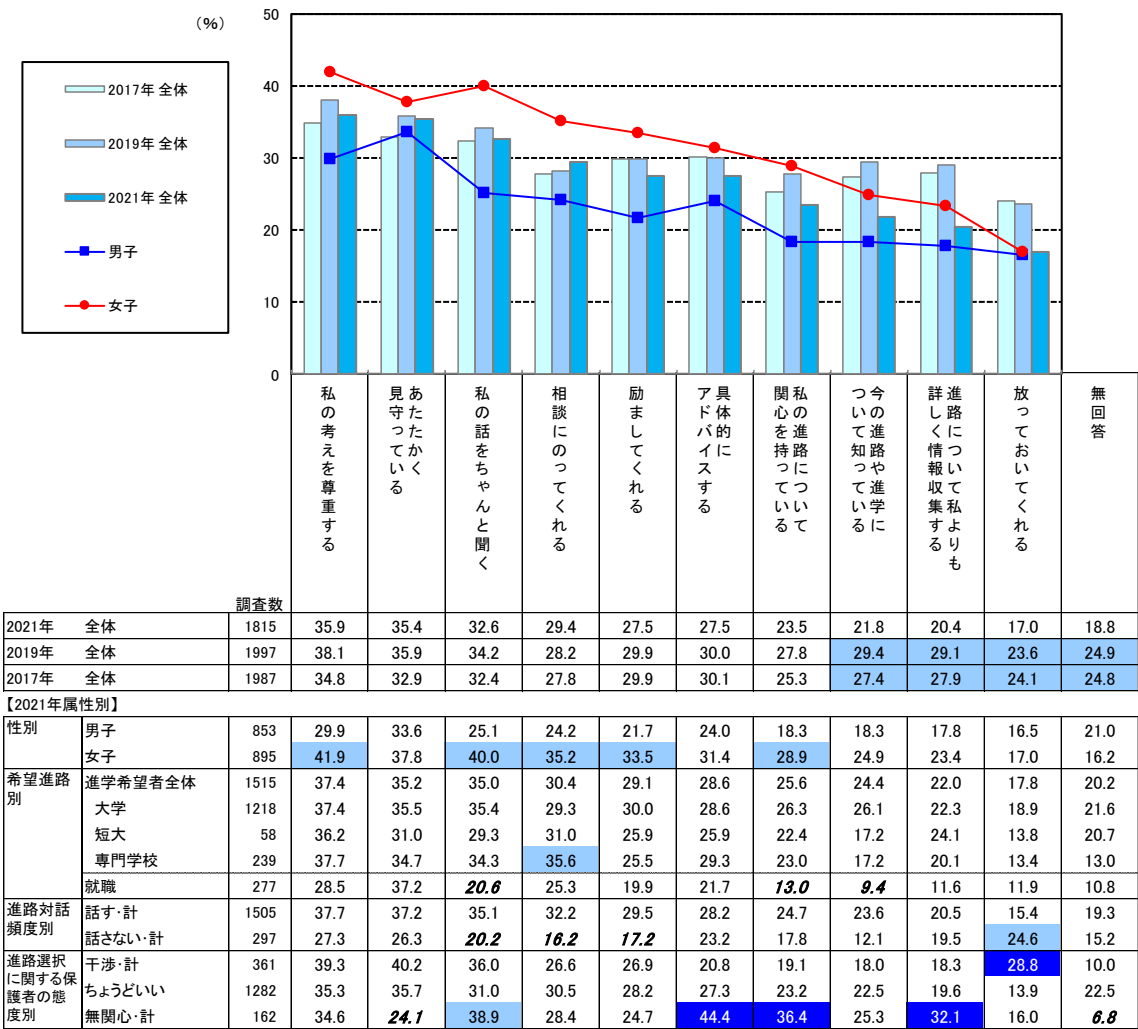
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

12_K_Q11-1

13. 保護者にしてほしい行動・態度

- ▶ 高校生が進路選択で保護者に望む行動・態度は、「私の考えを尊重する」「あたたかく見守っている」。
- 高校生に、進路選択に関する行動や態度として、保護者に「してほしい」ということを尋ねたところ、「私の考えを尊重する」「あたたかく見守っている」がほぼ同率で並んだ。僅差で「私の話をちゃんと聞く」が続く。
 - 時系列でみると、全体的にスコアが低下した項目が多いが、「相談にのってくれる」はやや増加した。
 - 性別にみると、ほぼすべての項目で男子より女子でスコアが高い。
 - 希望進路別にみると、進学希望者全体では「私の考えを尊重する」、就職希望者では「あたたかく見守っている」がそれぞれ第1位。
 - 進路選択に関する保護者の態度別にみると、保護者が干渉すると感じている層では「放っておいてくれる」が全体と比較して10ポイント以上高い。一方、無関心と感じている層では「具体的にアドバイスする」「私の進路について関心を持っている」「進路について私よりも詳しく情報収集する」のスコアが全体と比較して10ポイント以上高く、保護者の態度として、詳細な情報収集や具体的なアドバイスが求められていることがわかる。

【高校生】 進路選択で保護者にしてほしいこと（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

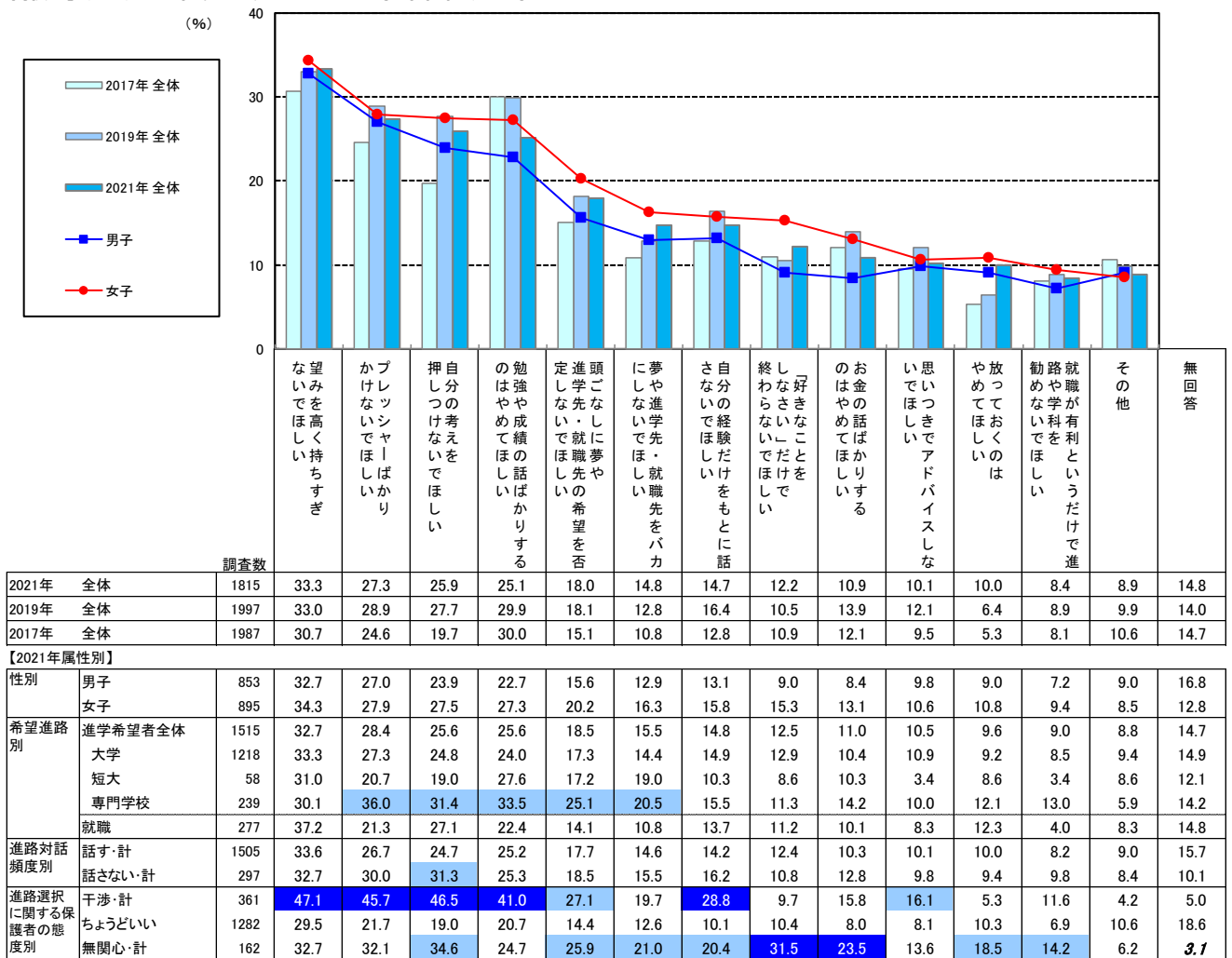
14. 保護者にやめてほしい行動・態度

▶進路を考えるうえで保護者にやめてほしい行動・態度は、「望みを高く持ちすぎないでほしい」。

▶時系列では「望みを高く持ちすぎないでほしい」「バカにしないでほしい」が増加。

- 高校生に対して、進路を考えるうえで保護者にやめてほしい行動や態度を尋ねたところ、「望みを高く持ちすぎないでほしい」（33%）が最も高く、以下「プレッシャーばかりかけないでほしい」「自分の考えを押しつけないでほしい」「勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい」が25%以上で続く。
- 時系列でみると、「望みを高く持ちすぎないでほしい」が増加傾向である他、「夢や進学先・就職先をバカにしないでほしい」「『好きなことをしなさい』だけで終わらないでほしい」「放っておくのはやめてほしい」なども増加している。逆に、「勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい」や「お金の話ばかりするのはやめてほしい」は2019年より3～5ポイント程度減少した。
- 性別にみると、男女とも上位の顔ぶれは変わらず、特に「望みを高く持ちすぎないでほしい」「プレッシャーばかりかけないでほしい」はスコアの男女差も小さく、性別によらず共通した意向として読み取れる。
- 進路選択に関する保護者の態度別にみると、保護者が干渉すると感じている層では、「望みを高く持ちすぎないでほしい」「プレッシャーばかりかけないでほしい」など上位4項目がすべて全体より10ポイント以上高く、高望みやプレッシャー、偏った情報による考えの押し付けをやめてほしいと感じる高校生が多いことがわかる。
- また保護者が無関心だと感じている層では、「『好きなことをしなさい』だけで終わらないでほしい」「お金の話ばかりするのはやめてほしい」などが全体と比較して10ポイント以上高い。

【高校生】進路選択で保護者にやめてほしいこと（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

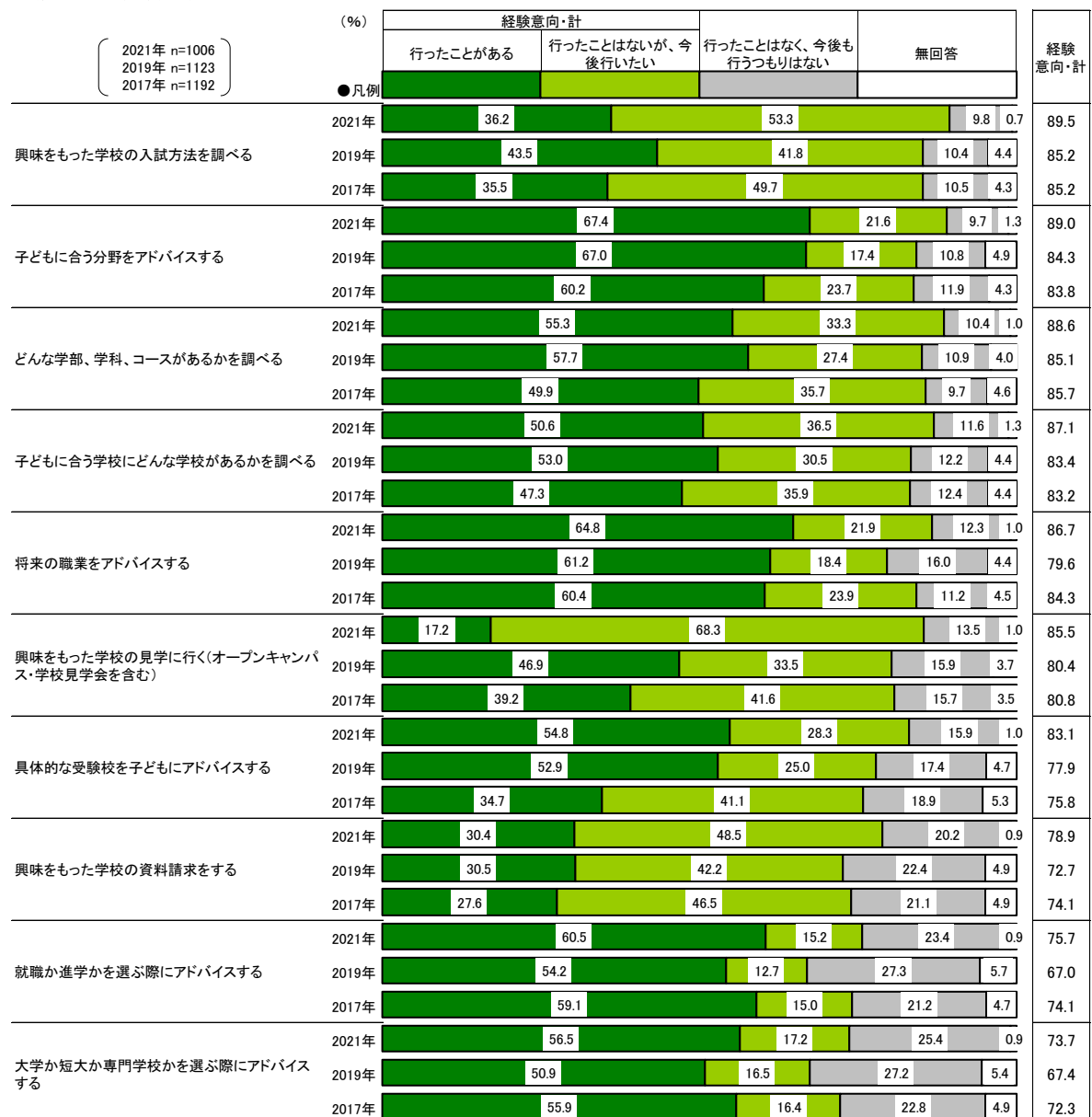
15. 保護者の進路選択行動

1) 子どもの進路選択行動への関与状況

- ▶「行ったことがある」行動は、進路選択、職業、分野に関する“アドバイス”が多い。
- ▶「今後行いたい」行動としては、子どもが興味を持った進学先に関する情報収集。特に今回実施者が大幅に減少した「学校見学」については、7割が今後実施意向あり。

- 子どもの進学を希望する保護者に対して、子どもが高校2年生の時点で、保護者として進路選択行動にどのように関わっているかを尋ねた。「行ったことがある」行動としては、【子どもに合う分野をアドバイスする】（67%）、【将来の職業をアドバイスする】（65%）、【就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする】（61%）、【大学か短大か専門学校かを選ぶ】（57%）、【具体的な受験校を子どもにアドバイスする】（55%）など、進路選択や職業や分野などに関する“アドバイス”の割合が高くなっている。
- 一方、「行ったことはないが、今後行いたい」行動としては、【興味をもった学校の見学に行く（オープンキャンパス・学校見学を含む）】が68%で突出して高い。学校見学については「行ったことがある」割合が2019年と比較して大幅に低下（47%→17%）しており、コロナ禍で十分に実施できなかったことから、今後実施したい意向が非常に高いといえる。
- また、【興味をもった学校の資料請求をする】【興味をもった学校の入試方法を調べる】なども50%前後が「今後行いたい」としており、いずれも2019年と比較して増加。学校見学だけでなく、関連する情報収集行動を十分に行いたい意向が強いことがわかる。

【保護者】進路選択行動の関わり方（進学希望者／各単一回答）



※「経験意向・計」のスコアで降順ソート

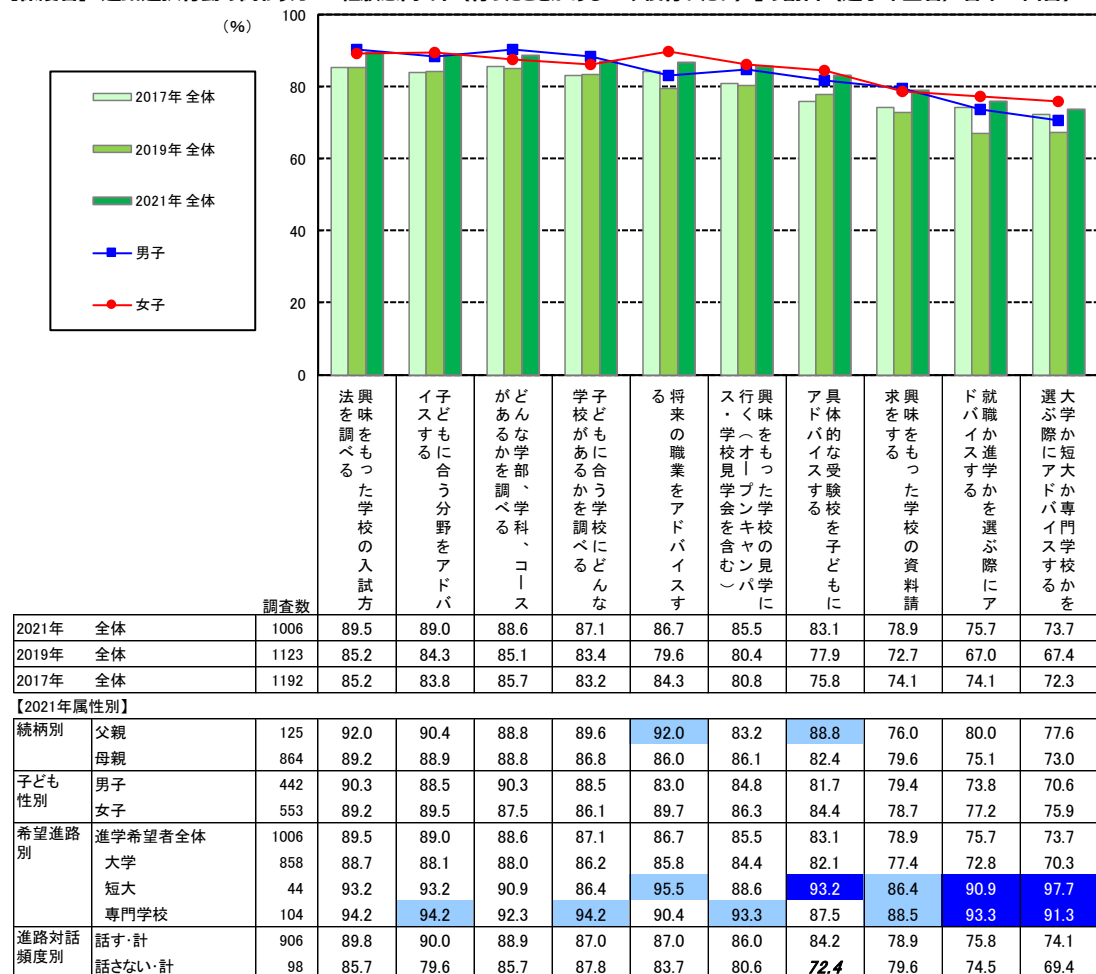
15_H.Q9M

2) 子どもの進路選択行動への関与状況：経験意向・計

▶ 関与の経験意向（「行ったことがある」「今後行いたい」の合計）は、進学先を選ぶための学校や学部・学科・コースなどの情報や入試に関する“情報収集”と、子どもに合う分野や職業のアドバイス。

- 進路選択への関与として「行ったことがある」または「今後行いたい」とする『経験意向』のスコアは、10項目中7項目で80%を超えている。
- また2019年と比較するとすべての項目でスコアが上昇している。保護者の関与意向は全体的に強まっており、コロナ禍でのコミュニケーション量増加も後押しして“アドバイス”行動は「行ったことがある」スコアが上昇した一方、これまでの時点で不足したと感じている「調べる」「見学する」などの具体的な行動についても、「今後行いたい」という意向が強いことがうかがえる。

【保護者】進路選択行動の関わり方：「経験意向・計（行ったことがある+今後行いたい）」の割合（進学希望者／各単一回答）



※「2021年全体」降順ソート ※【2021年属性別】

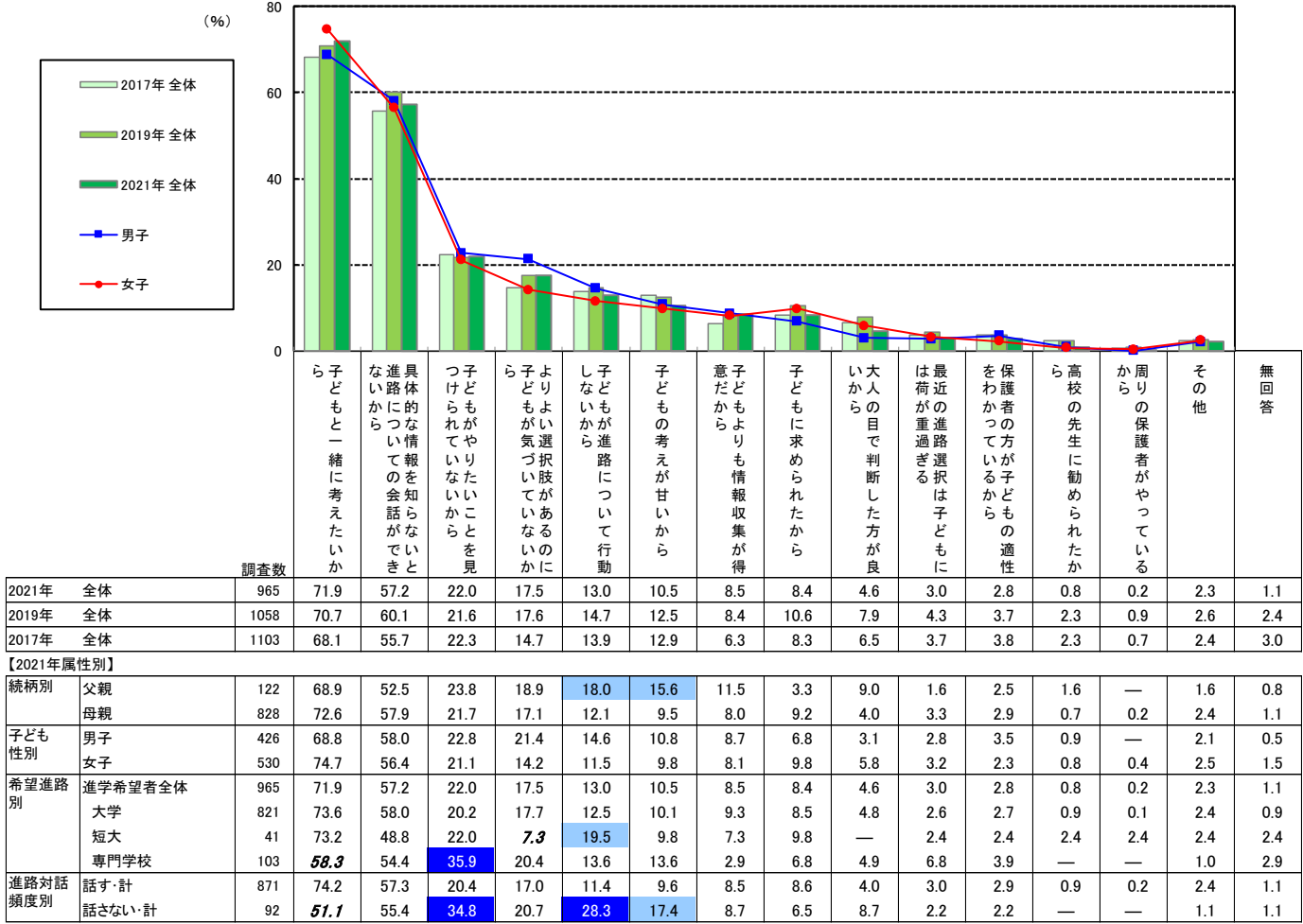
100.0	「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0	「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0	「2021年全体」より10ポイント以上低い

3) 子どもの進路選択行動に具体的に关わる理由

- ▶ 保護者が子どもの進路選択に关与する理由のトップは、「子どもと一緒に考えたいから」。
- ▶ 時系列では「子どもと一緒に考えたいから」のスコアが上昇した。

- 進路選択に关するさまざまな行動について、1つでも「行ったことがある」「行ったことはないが今後行いたい」と回答した保護者に対して、具体的に行動する理由を尋ねたところ、「子どもと一緒に考えたいから」（72%）が最も高く、次いで「具体的な情報を知らないで進路についての会話ができないから」が高い。
- 時系列でみると、トップの「子どもと一緒に考えたいから」が上昇傾向となっている。
- 続柄別にみると、父親・母親のいずれでも上位項目の顔触れに差はないものの、「子どもが進路について行動しないから」「子どもの考えが甘いから」などは、父親でスコアが高くなっている。
- 子どもの性別にみると、上位項目の顔触れに差はないものの、「子どもと一緒に考えたいから」は女子で、「よりよい選択肢があるのに子どもが気づいていないから」は男子でスコアが高い傾向がみられる。
- 保護者との進路に关する対話頻度別にみると、話さない層では、「子どもがやりたいことを見つけられていないから」「子どもが進路について行動しないから」「子どもの考えが甘いから」などのスコアが高い。

【保護者】子どもの進路選択に关わる理由（進学希望者：いずれか進路選択行動への関与あり／複数回答）



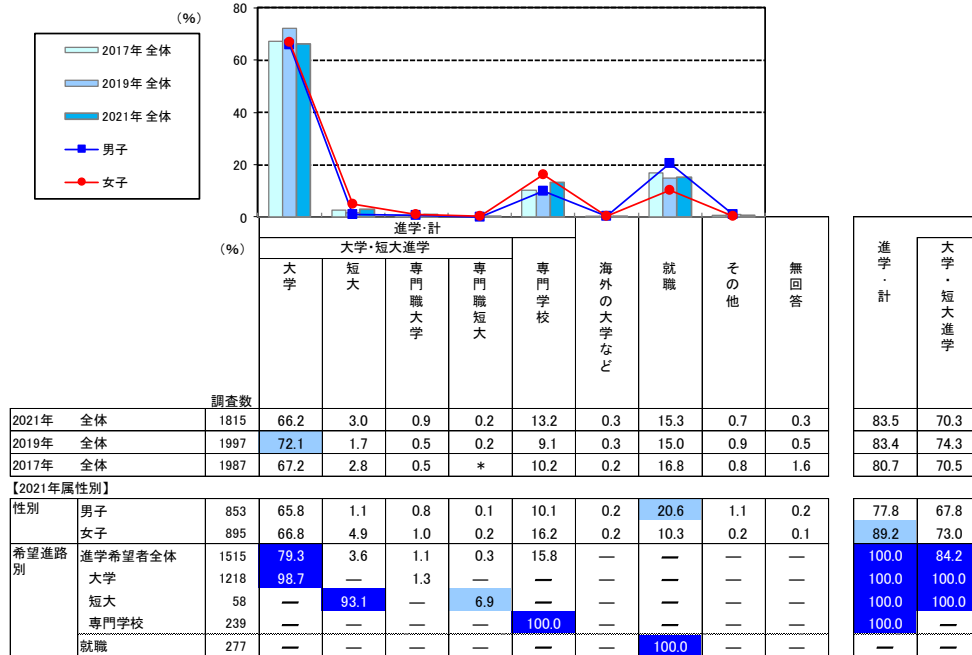
※「2021年全体」降順ソート ※【2021年属性別】 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

Ⅱ 進路・将来にまつわる考え

16. 高校卒業後の希望進路

- ▶ 高校生のうち「大学」進学希望者が66%。短大や専門学校も含めると合計で84%が進学を希望。
- ▶ 保護者では「大学」進学希望者が54%。合計では66%が進学を希望しているが、「子どもが希望する進路なら何でもいい」も23%。

【高校生】高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）

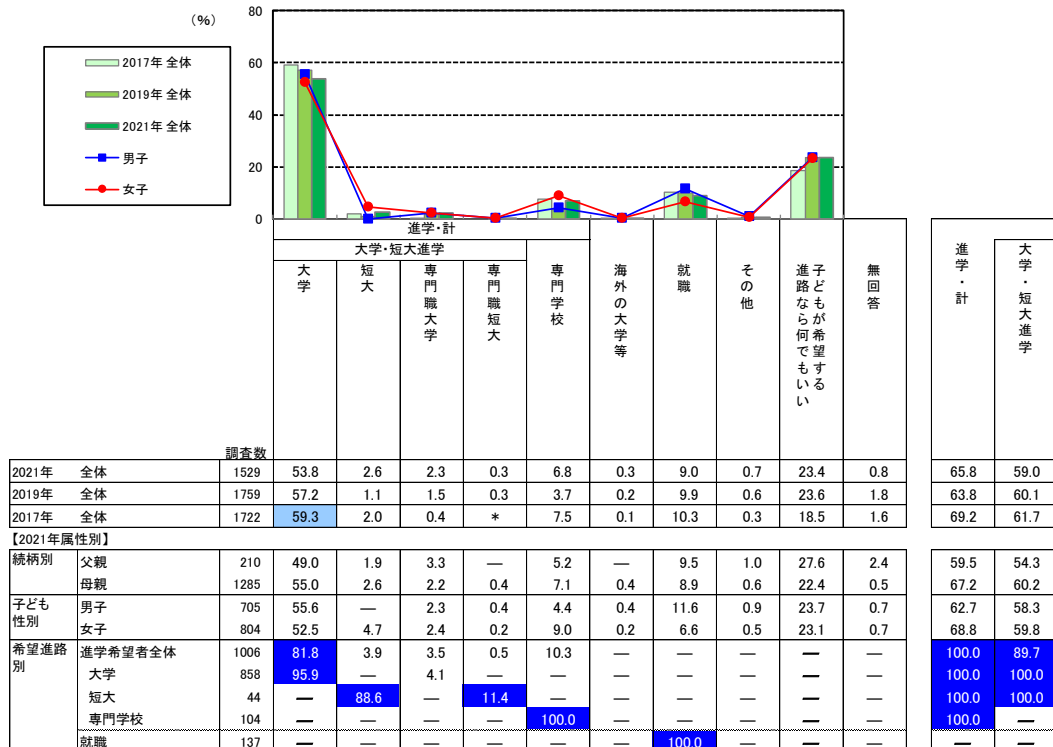


※「*」は該当項目なし

※【2021年属性別】 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

16_K_Q5

【保護者】高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）



※「*」は該当項目なし

※【2021年属性別】 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

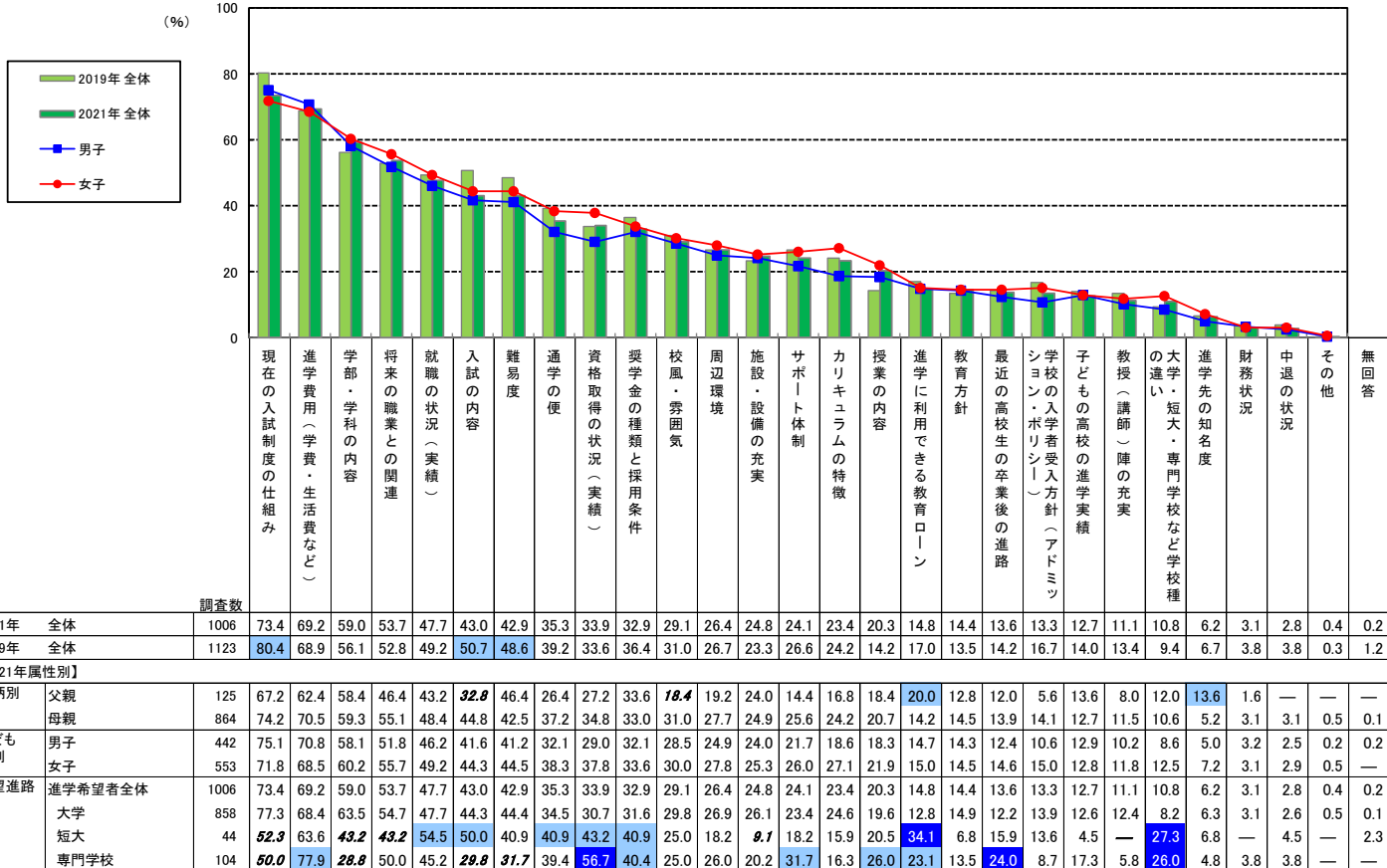
16_H_Q11

17. 進学先検討で重要な情報

▶子どもの進学を希望する保護者にとって、進学先検討のために重要な情報のトップは「現在の入試制度の仕組み」。

- 子どもに大学・短大・専門学校への進学を希望している保護者に対して、進学先を検討するにあたってどのような情報が重要だと思うかを尋ねたところ、「現在の入試制度の仕組み」（73%）が最も高く、以下「進学費用（学費・生活費など）」（69%）、「学部・学科の内容」（59%）、「将来の職業との関連」（54%）などが続く。
- 時系列でみると、「現在の入試制度の仕組み」は2019年より7ポイント低下。この他「入試の内容」「難易度」なども5ポイント以上低下しており、“入試制度に関する情報”の重要度が相対的に低下。
- 一方、上位項目の中では「学部・学科の内容」がわずかに上昇している他、下位項目で「授業の内容」が2019年より6ポイント上昇した。

【保護者】進学先検討で重要な情報（進学希望者／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

18. 進学先検討の重視点

- ▶ 子どもの進学を希望する保護者が進学先を検討するにあたって重視することは、【教育内容・制度】【卒業後】に関する事柄が上位。

子どもの進学を希望する保護者が進学先を検討するにあたって重視すること			
1位	【教育内容・制度】	子どもの学びたい学部・学科・コースがある	86%
2位	【教育内容・制度】	子どもの興味や可能性が上げられる	52%
3位	【卒業後】	卒業後に社会で活躍できる	49%
4位	【卒業後】	就職に有利である	49%
5位	【教育内容・制度】	社会で役立つ力が身につく	47%
6位	【卒業後】	将来の選択肢が増える	43%
7位	【教育内容・制度】	資格取得に有利である	39%
8位	【ブランド性】	校風や雰囲気が良い	38%
9位	【学生生活】	学生生活が楽しめる	38%
10位	【入試難易度】	学費が高くない	37%

- 子どもの進学を希望する保護者に対して、進学先を検討するにあたってどのようなことを重視するかを尋ねたところ、上記の項目のスコアが高く、【教育内容・制度】に関する項目や、【卒業後】の就職に関する項目が上位となっている。特に「子どもの学びたい学部・学科・コースがある」が突出して高く、「子どもの興味や可能性が上げられる」も含め、子ども自身の希望に沿った教育を受けられることを重視する保護者が多いことがわかる。
- 時系列でみると、全体的にスコアの低下した項目が多い。ただし「子どもの学びたい学部・学科・コースがある」「社会で役立つ力が身につく」「卒業後に社会で活躍できる」などは2019年よりも2～4ポイント程度上昇した。一方で「就職に有利である」は徐々に低下しており、『就職』よりも広い意味で『社会で役立つ力』を身につけさせたいという意向が強まっていることが推測できる。
- また、「学費が高くない」は徐々に低下しており、2017年と比較すると11ポイント低い。
- 続柄別にみると、全体的に父親より母親のスコアが高く、重視する点が多岐に渡る。特に差が大きいのは以下の項目である。
 - ・【教育内容・制度】教育方針・カリキュラムが魅力的である
 - ・【学生生活】学生生活が楽しめる
 - ・【ブランド性】校風や雰囲気が良い
- ただし【ブランド性】に関する項目では父親のスコアが高い項目がみられ、「有名である」「伝統や実績がある」などは母親より3～7ポイント高い。

【保護者】進学先検討で重視すること(進学希望者／複数回答)

(%)

		2021年 全体 2019年 全体 2017年 全体	(順位) ※上位 10位	2021年 全体 (n=1006)	2019年 全体 (n=1123)	2017年 全体 (n=1192)	【2021年属性別】								
							2021年 全体 (n=1006)	続柄別		子ども性別		進学希望者 全体 (n=1006)	希望進路別		
								父親 (n=125)	母親 (n=864)	男子 (n=442)	女子 (n=553)		大学 (n=858)	短大 (n=44)	専門学校 (n=104)
教育内容・制度	子どもの学びたい学部・学科・コースがある		(1位)	86.1	81.4	82.0	86.1	80.8	87.4	86.2	86.8	86.1	87.4	84.1	76.0
	子どもの興味や可能性が広げられる		(2位)	52.3	60.5	58.6	52.3	48.0	53.2	51.6	53.0	52.3	53.5	45.5	45.2
	社会で役立つ力が身につく		(5位)	46.6	42.7	46.7	46.6	42.4	47.7	46.8	46.7	46.6	45.9	45.5	52.9
	資格取得に有利である		(7位)	38.7	39.4	43.8	38.7	29.6	40.0	34.2	42.7	38.7	34.0	65.9	65.4
	教育方針・カリキュラムが魅力的である			36.1	35.4	35.4	36.1	24.0	38.0	35.1	37.1	36.1	37.9	25.0	26.0
	専門分野を深く学べる			28.9	31.9	35.0	28.9	25.6	29.4	29.0	28.9	28.9	28.3	25.0	35.6
	教育内容のレベルが高い			25.2	25.5	22.8	25.2	18.4	26.0	23.8	26.2	25.2	27.7	6.8	12.5
	教養が身につく			19.0	18.8	19.3	19.0	17.6	19.2	17.6	20.1	19.0	19.5	20.5	14.4
	国際的なセンスが身につく			12.1	13.2	9.5	12.1	14.4	11.7	12.2	11.8	12.1	13.6	2.3	3.8
構成要員	ICT活用が進んでいる			6.2	*	*	6.2	6.4	6.0	7.9	4.7	6.2	7.0	—	1.9
	学生の面倒見が良い			18.5	25.9	21.1	18.5	14.4	19.2	19.2	18.1	18.5	19.0	13.6	16.3
	教授・講師陣が魅力的である			14.9	19.1	17.4	14.9	8.8	15.6	14.5	15.2	14.9	16.4	4.5	6.7
	学生の学力が高い			12.3	15.4	12.9	12.3	10.4	12.5	11.3	13.2	12.3	14.0	2.3	2.9
	先輩・卒業生が魅力的である			7.6	9.6	8.1	7.6	5.6	8.0	8.1	7.2	7.6	8.4	2.3	2.9
学生生活	学生生活が楽しめる		(9位)	37.5	43.2	45.9	37.5	24.0	39.7	35.3	39.6	37.5	38.5	31.8	31.7
	学習設備や環境が整っている			28.3	28.2	25.2	28.3	23.2	29.2	28.3	28.6	28.3	29.5	13.6	25.0
	寮や奨学金などが充実している			17.3	19.2	18.6	17.3	16.0	17.6	17.2	17.4	17.3	17.0	13.6	21.2
	キャンパスがきれいである			10.7	13.3	11.4	10.7	8.0	11.2	8.6	12.7	10.7	10.5	13.6	11.5
	クラブ・サークル活動が盛んである			8.5	9.3	7.1	8.5	11.2	8.2	9.5	7.8	8.5	9.6	—	3.8
立地・環境	勉強するのに良い環境である			34.8	36.4	39.0	34.8	25.6	36.3	34.8	34.9	34.8	36.5	20.5	26.9
	交通の便が良い			29.7	33.8	29.0	29.7	26.4	30.7	28.3	31.5	29.7	29.1	36.4	31.7
	自宅から通える			25.9	25.6	24.4	25.9	20.0	27.3	23.5	28.4	25.9	24.5	40.9	31.7
	生活に便利な立地である			17.6	19.1	14.8	17.6	18.4	17.7	15.8	19.2	17.6	17.8	18.2	15.4
入試難易度	学費が高くない			36.7	45.9	47.3	36.7	34.4	37.3	37.3	36.3	36.7	36.6	34.1	38.5
	偏差値が子どもに合っている			18.5	24.3	26.6	18.5	11.2	19.7	17.4	19.5	18.5	19.6	15.9	10.6
	入試方法が子どもに合っている			13.4	18.2	17.6	13.4	7.2	14.2	12.9	13.6	13.4	14.0	6.8	11.5
卒業後	卒業後に社会で活躍できる		(3位)	49.4	47.2	46.9	49.4	46.4	50.1	49.3	49.7	49.4	49.0	50.0	52.9
	就職に有利である		(4位)	48.9	53.5	55.7	48.9	48.0	49.5	48.6	49.7	48.9	47.7	52.3	57.7
	将来の選択肢が増える		(6位)	42.8	47.0	45.5	42.8	33.6	44.6	44.1	42.5	42.8	45.3	25.0	29.8
ブランド性	校風や雰囲気が良い		(8位)	38.4	38.6	38.7	38.4	24.0	40.9	37.6	39.6	38.4	38.9	34.1	35.6
	活気がある感じがする			23.3	25.4	25.4	23.3	20.0	24.1	22.6	24.1	23.3	23.4	22.7	22.1
	伝統や実績がある			19.2	25.6	21.5	19.2	22.4	18.6	18.3	19.9	19.2	21.2	4.5	8.7
	周囲の人からの評判が良い			12.1	17.5	14.0	12.1	12.0	12.3	9.7	14.1	12.1	12.4	13.6	9.6
	学校が発展していく可能性がある			10.5	12.7	11.4	10.5	8.0	10.9	11.8	9.8	10.5	11.4	9.1	3.8
	有名である			6.8	10.6	8.0	6.8	12.8	5.9	6.3	7.1	6.8	7.8	2.3	—
	規模が大きい			1.6	3.5	2.2	1.6	4.0	1.2	1.6	1.4	1.6	1.9	—	—
その他				0.4	0.6	0.3	0.4	—	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3	—	1.0
無回答				0.6	0.9	2.0	0.6	—	0.3	0.5	0.2	0.6	0.6	2.3	—

※ カテゴリーごとに「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

18_H.Q14

19. 家庭の経済事情の進路決定への影響

▶保護者の75%が、家庭の経済事情が子どもの進路決定に「影響がある」と回答。

- 保護者に対して、家庭の経済事情が子どもの進路決定にどの程度影響があるかを尋ねたところ、「非常に影響がある」が31%、「ある程度影響がある」が43%を占め、合計では75%が影響があると回答した。
- 時系列では大きい変化はみられず、ほぼ横ばいとなっている。
- 続柄別にみると、父親（73%）より母親（75%）で「影響がある・計」の割合がわずかに高い。
- 子どもの性別にみると、男子（72%）より女子（77%）で「影響がある・計」の割合が高い。
- 希望進路別にみると、「影響がある・計」の割合は進学希望者全体（76%）、就職希望者（77%）ともに75%超で並ぶが、「非常に影響がある」割合は就職希望者では39%と、進学希望者全体（29%）を10ポイント上回った。

【保護者】 家庭の経済事情の進路決定への影響（全体／単一回答）

			(%)		影響がある・計		どちらとも いえない	影響がない・計		無回答		影響が ある・計	影響が ない・計
					非常に 影響がある	ある程度 影響がある		あまり 影響がない	まったく 影響がない				
●凡例													
2021年	全体	(n= 1529)			31.2	43.3		12.3	9.0	3.5	0.8	74.5	12.4
2019年	全体	(n= 1759)			32.2	42.9		11.1	8.6	3.4	1.8	75.1	12.0
2017年	全体	(n= 1722)			30.6	43.6		14.2	7.6	2.0	2.0	74.2	9.6
【2021年属性別】													
続柄別	父親	(n= 210)			30.0	43.3		11.0	9.5	4.8	1.4	73.3	14.3
	母親	(n= 1285)			31.8	43.0		12.5	8.9	3.3	0.5	74.8	12.2
子ども 性別	男子	(n= 705)			30.4	41.4		13.9	8.9	4.4	1.0	71.8	13.3
	女子	(n= 804)			32.2	44.9		11.1	9.1	2.5	0.2	77.1	11.6
希望進路 別	進学希望者全体	(n= 1006)			29.2	47.0		10.2	10.2	3.2	0.1	76.2	13.4
	大学	(n= 858)			29.3	46.7		9.8	10.7	3.4	0.1	76.0	14.1
	短大	(n= 44)			25.0	52.3		9.1	13.6	-	-	77.3	13.6
	専門学校	(n= 104)			30.8	47.1		14.4	4.8	2.9	-	77.9	7.7
	就職	(n= 137)			39.4	38.0		13.9	5.8	2.2	0.7	77.4	8.0

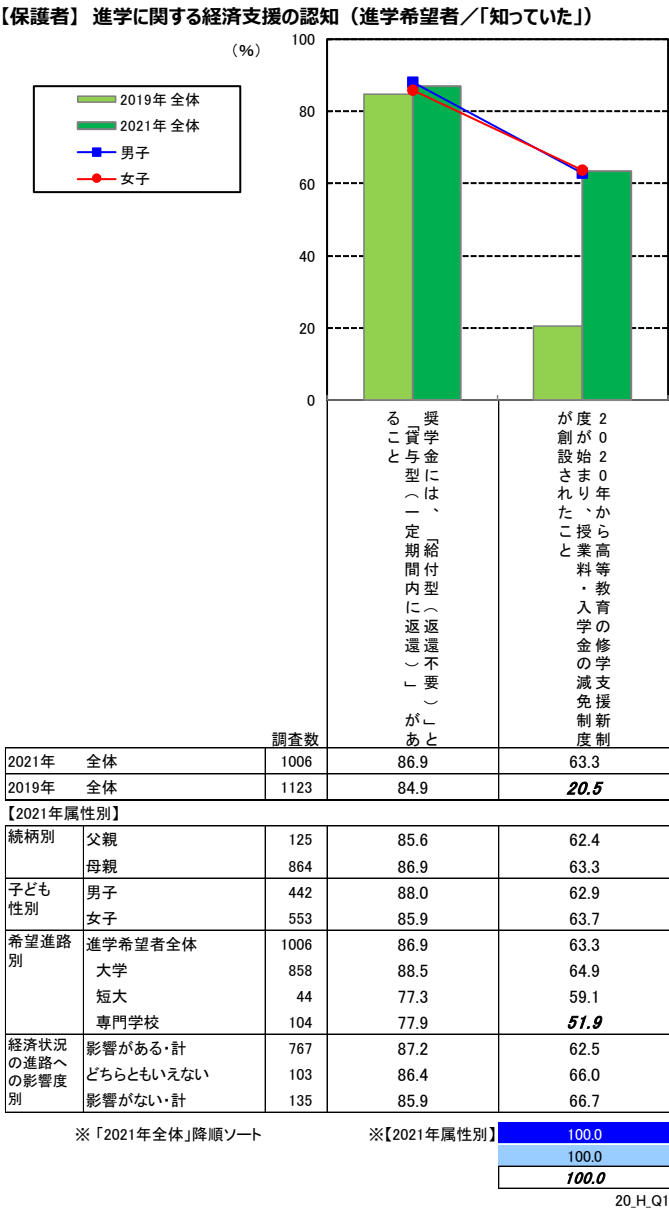
※「2021年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

19_H.Q10

20. 進学に関する経済支援の認知と利用意向

1) 経済支援制度の認知

- ▶ 子どもの進学を希望する保護者のうち、9割近くが奨学金には給付型・貸与型があることを認知。
- ▶ 「2020年から高等教育の修学支援新制度が始まり、授業料・入学金の減免制度が創設されたこと」の認知は63%。2019年（21%）より40ポイント以上上昇し約3倍に。
 - 子どもの進学を希望する保護者に対して、進学に関する経済支援の2点について知っていたかどうかを尋ねたところ、「奨学金には、『給付型（返還不要）』と『貸与型（一定期間内に返還）』があること」は87%、「2020年から高等教育の修学支援新制度が始まり、授業料・入学金の減免制度が創設されたこと」は63%が、それぞれ「知っている」と回答した。
 - 時系列でみると、いずれも2019年より認知率が上昇し、特に「2020年から高等教育の修学支援新制度が始まり、授業料・入学金の減免制度が創設されたこと」については2019年（21%）から約3倍に上昇した。
 - 希望進路別にみると、いずれの項目も大学進学意向者の認知率が最も高い。
 - 家庭の経済状況の進路への影響度別にみると、経済状況の影響があると回答した層では、「2020年から高等教育の修学支援新制度が始まり、授業料・入学金の減免制度が創設されたこと」の認知率は63%で、経済状況の影響がないと回答した層（67%）、どちらともいえないと回答した層（66%）よりも低くなっている。



2) 経済支援制度の利用意向

▶ 子どもの進学を希望する保護者の半数強が、「高等教育の修学支援制度」の利用意向あり。

- 子どもの進学を希望する保護者に対して経済支援制度の利用意向を尋ねたところ、「『高等教育の修学支援』について」は、「ぜひ利用したい」が26%を占め、4人に1人が強い意向を示した。「できれば利用したい」まで含めると、進学希望者全体の52%が利用したいと回答している。
- また「貸与型（一定期間内に返還）の奨学金」についても、合計で38%が利用したいと回答した。
- 希望進路別にみると、専門学校進学希望者では制度の利用意向が高く、特に「貸与型（一定期間内に返還）の奨学金」の利用意向が54%と半数を超えている。
- 家庭の経済状況の進路への影響度別にみると、影響があると回答した層では、「『高等教育の修学支援制度』について」は56%、「貸与型（一定期間内に返還）の奨学金」は43%が利用意向ありと回答しており、他の層と比較して利用意向が高い。

【保護者】 経済支援制度の利用意向（進学希望者／各単一回答）

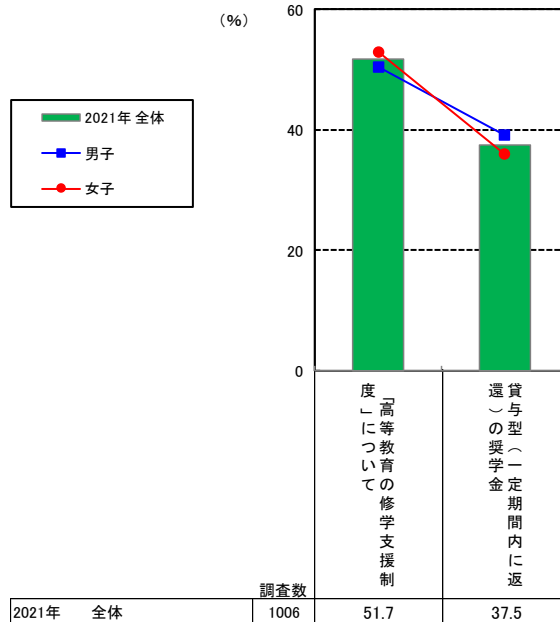
	(n=1006)	● 凡例	利用したい・計		利用したくない・計		考えたことがないの でわからない	無回答		利用したい・計	利用したくない・計
			ぜひ利用したい	できれば利用したい	あまり利用したくない	まったく利用したくない					
「高等教育の修学支援制度」について			25.9	25.7	12.4	7.5	26.6	1.8		51.7	19.9
貸与型（一定期間内に返還）の奨学金			18.0	19.5	33.3	12.6	15.7	0.9		37.5	45.9

※「利用したい・計」降順ソート

20_H_Q12-1M

※「利用したい・計」降順ソート

20_H.Q12-1M

【保護者】 経済支援制度の利用意向
(進学希望者／「利用したい・計」)

【2021年属性別】			
続柄別	父親	125	53.6
	母親	864	51.6
子ども性別	男子	442	50.5
	女子	553	53.0
希望進路別	進学希望者全体	1006	51.7
	大学	858	50.7
	短大	44	54.5
	専門学校	104	58.7
経済状況の進路への影響度別	影響がある・計	767	56.3
	どちらともいえない	103	45.6
	影響がない・計	135	29.6

※「2021年全体」降順ソート

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

20_H.Q12-1

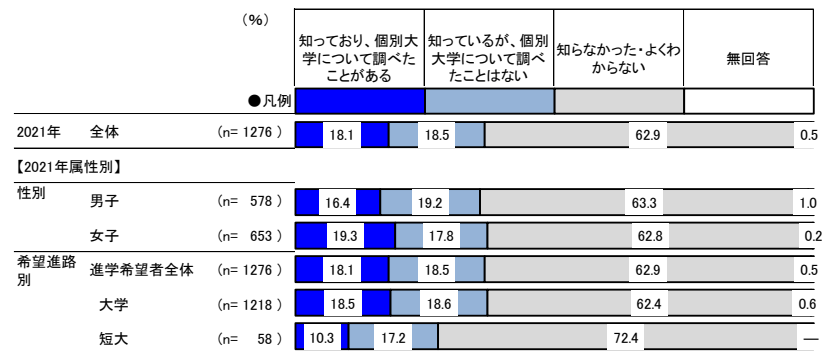
21. 「アドミッション・ポリシー」の認知と活用

1) アドミッション・ポリシーの認知

▶ 高校生の18%、保護者の11%がアドミッション・ポリシーを「知っており、個別大学について調べたことがある」。高校教員の認知と比較すると、高校生、保護者ともに認知率が低い。

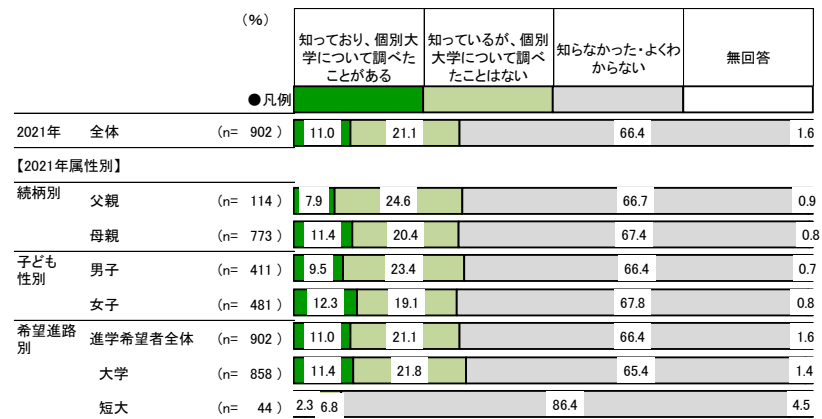
- 大学・短大進学希望の高校生に対して、大学の「アドミッション・ポリシー」を知っているかどうかを尋ねたところ、「知っており、個別大学について調べたことがある」が18%を占めた。「知っているが、個別大学について調べたことはない」(19%)まで含めると、37%が認知している。
- 子どもの大学・短大進学を希望する保護者にも同様に尋ねたところ、「知っており、個別大学について調べたことがある」は11%で高校生よりも低く、「知っているが、個別大学について調べたことはない」(21%)まで含めて32%の認知となった。
- 参考として、高校教員に対して尋ねた結果をみると、高校教員では、「知っており、個別大学について調べたことがある」が79%を占め、「知っているが、個別大学について調べたことはない」(18%)を含めると97%が認知。これに比べると、高校生や保護者における「アドミッション・ポリシー」の浸透はまだ進んでいない。

【高校生】アドミッション・ポリシーの認知(大学・短大進学希望者/単一回答)



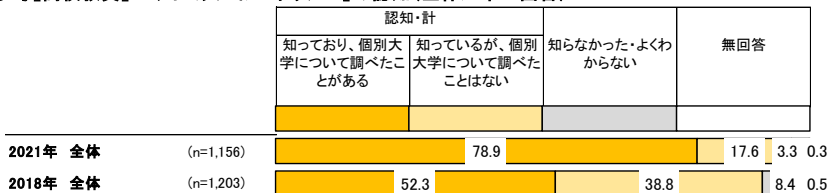
21_K.Q15

【保護者】アドミッション・ポリシーの認知(大学・短大進学希望者/単一回答)



21_H.Q34

参考【高校教員】「アドミッション・ポリシー」の認知(全体/単一回答)



※出典:リクルート進学総研(2021年)「高校教育改革に関する調査2021」

21_教師Q16

▼この質問では、以下を「アドミッション・ポリシー」の説明として提示したうえで認知度を尋ねた。

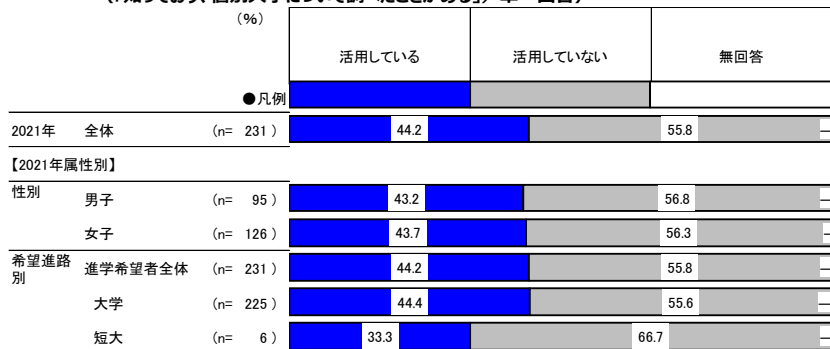
2017年から、すべての大学に「ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)」「カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)」「アドミッション・ポリシー(入学受け入れの方針)」を策定し、公表することが義務化されました。

2) 進路選択への活用

▶ アドミッション・ポリシーについて「知っており、個別大学について調べたことがある」高校生のうち、44%が進路選択にアドミッション・ポリシーを「活用している」。保護者では50%が活用。

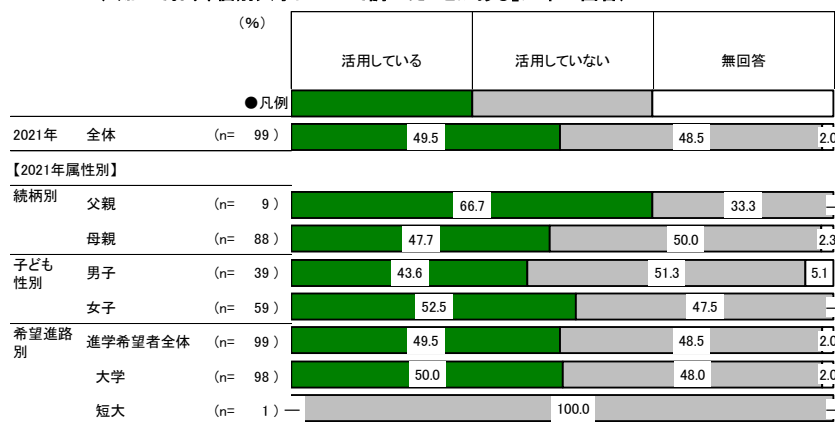
- アドミッション・ポリシーについて「知っており、個別大学について調べたことがある」と回答した高校生、保護者に対して、進路選択にアドミッション・ポリシーを活用しているかどうかを尋ねたところ、高校生では44%、保護者では50%が「活用している」と回答した。

【高校生】進路選択へのアドミッション・ポリシーの活用
(「知っており、個別大学について調べたことがある」／単一回答)



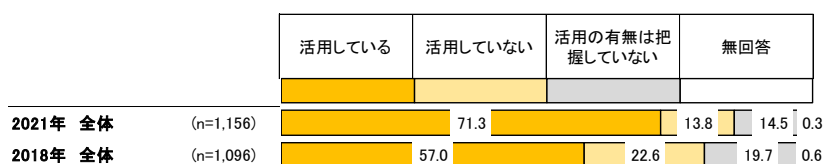
21_K.Q15-1

【保護者】進路選択へのアドミッション・ポリシーの活用
(「知っており、個別大学について調べたことがある」／単一回答)



21_H.Q34-1

参考【高校教員】「アドミッション・ポリシー」の進路指導への活用(全体／単一回答) (%)



※2018年は「アドミッション・ポリシー」認知校ベース

※出典：リクルート進学総研(2021年)「高校教育改革に関する調査2021」 21_教師Q17

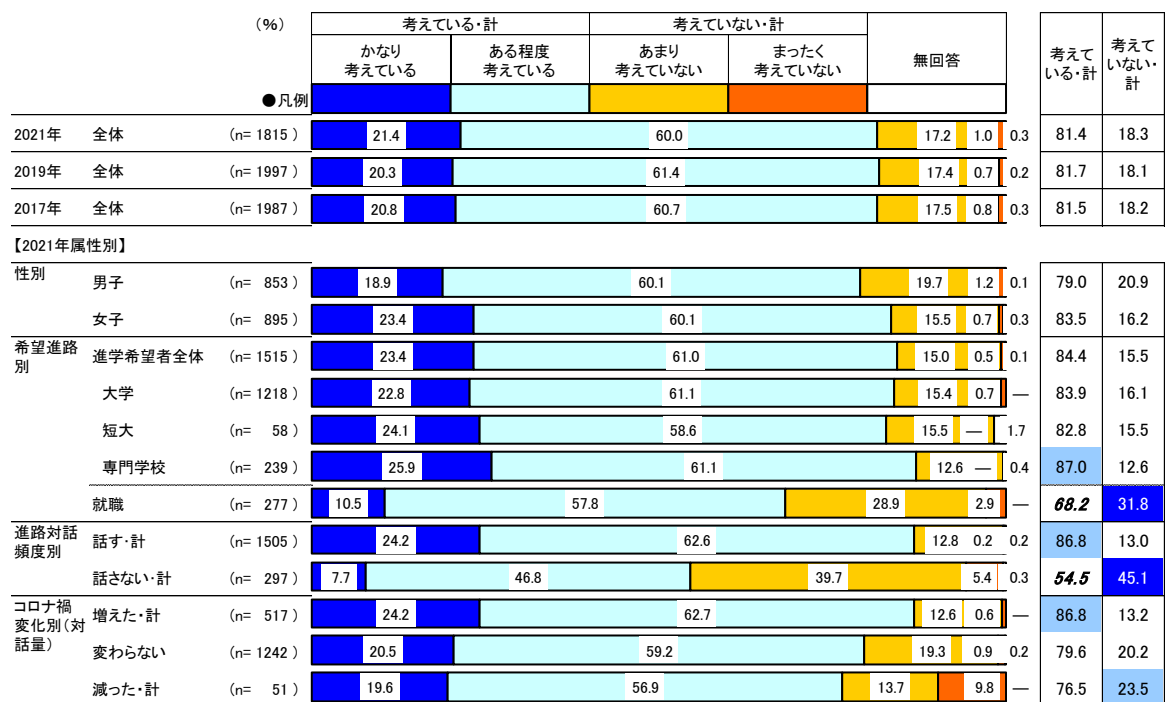
Ⅲ 進路・将来にまつわる期待と不安

22. 進路意識

▶ 高校生の81%が、高校2年生の段階で進路について「考えている」。

- 高校生に対して、高校2年生の時点で、進路選択についてどの程度考えているか尋ねたところ、「かなり考えている」が21%、「ある程度考えている」が60%を占め、合計では81%が考えていると回答した。
- 時系列でみると、「考えている・計」にはほとんど変化がみられない。
- 性別にみると、男子（19%）より女子（23%）で「かなり考えている」割合が高い。
- 希望進路別にみると、進学希望者全体では「考えている・計」が84%を占めるが、就職希望者では68%と低い。
- 進路に関する保護者との対話の頻度別にみると、進路について話す層では、進路について「考えている・計」が87%と高い。一方で話さない層では「考えていない」が45%を占めた。
- コロナ禍における保護者との全体的なコミュニケーション量の変化別にみると、コミュニケーションが増えたと回答した層では、進路について「考えている・計」が87%程度と高い。

【高校生】 自分の進路選択について考えているか（全体／単一回答）



※【2021年属性別】「2021年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

22_K_Q4

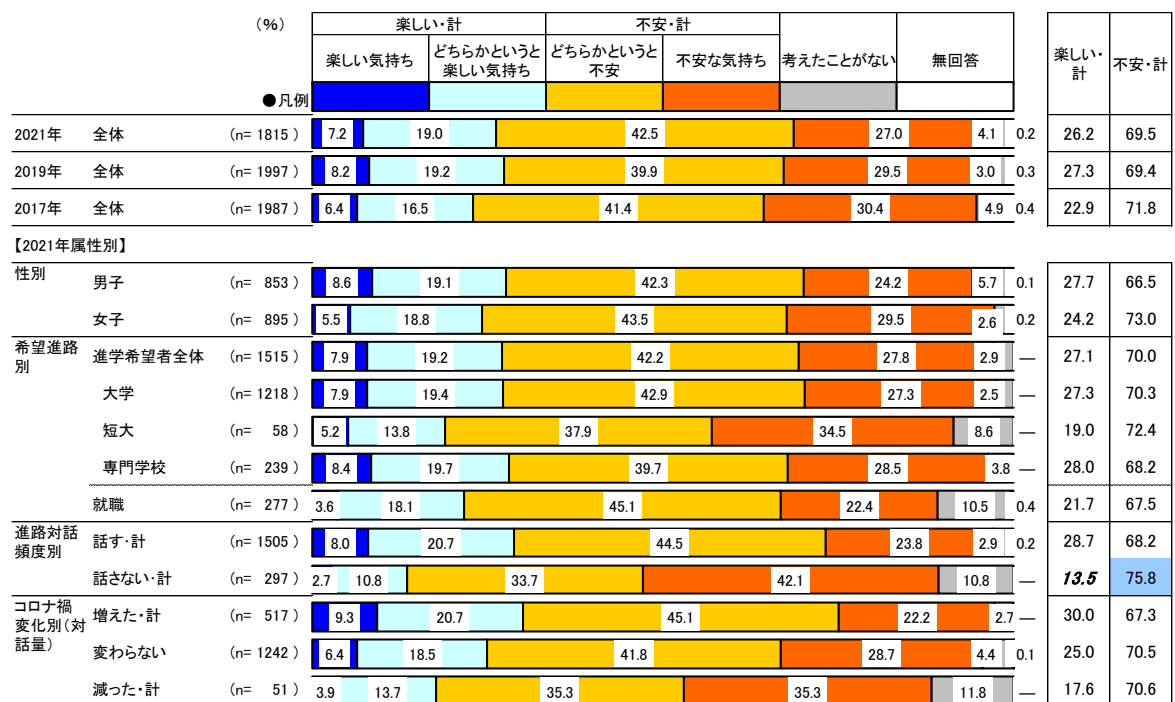
23. 進路を考えるときの気持ち

▶ 高校生が進路を考えるときの気持ちは、「楽しい」が26%、「不安」が70%。

▶ 時系列ではほとんど変化がないが、明確な「不安な気持ち」を表明する割合は減少傾向。

- 高校生に対して、進路を考えるときにどのような気持ちになるかを尋ねたところ、「楽しい気持ち」「どちらかというと楽しい気持ち」が合計で26%を占め、4人に1人程度が「楽しい」と回答している。一方、「不安な気持ち」「どちらかというと不安」は合計で70%を占めており、不安を感じる高校生が圧倒的に多い。
- 時系列でみると、「楽しい・計」「不安・計」ともに前回と比較して顕著な変化はみられないが、「不安な気持ち」は減少傾向にあり、2017年（30%）より3ポイント近く減少している。
- 性別にみると、「楽しい・計」の割合は男子（28%）の方が女子（24%）よりわずかに高い。
- 希望進路別にみると、進学希望者全体では「楽しい・計」が27%、就職希望者では22%を占めている。
- 保護者との進路に関する対話頻度別にみると、進路について話す層では「楽しい・計」が29%であるのに対し、話さない層では14%にとどまっている。
- また、コロナ禍での全体的なコミュニケーション量の変化別にみると、保護者とのコミュニケーションが増えた層では「楽しい・計」が30%、減った層では18%。

【高校生】 進路を考えると、どんな気持ちになるか（全体／単一回答）



※【2021年属性別】「2021年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

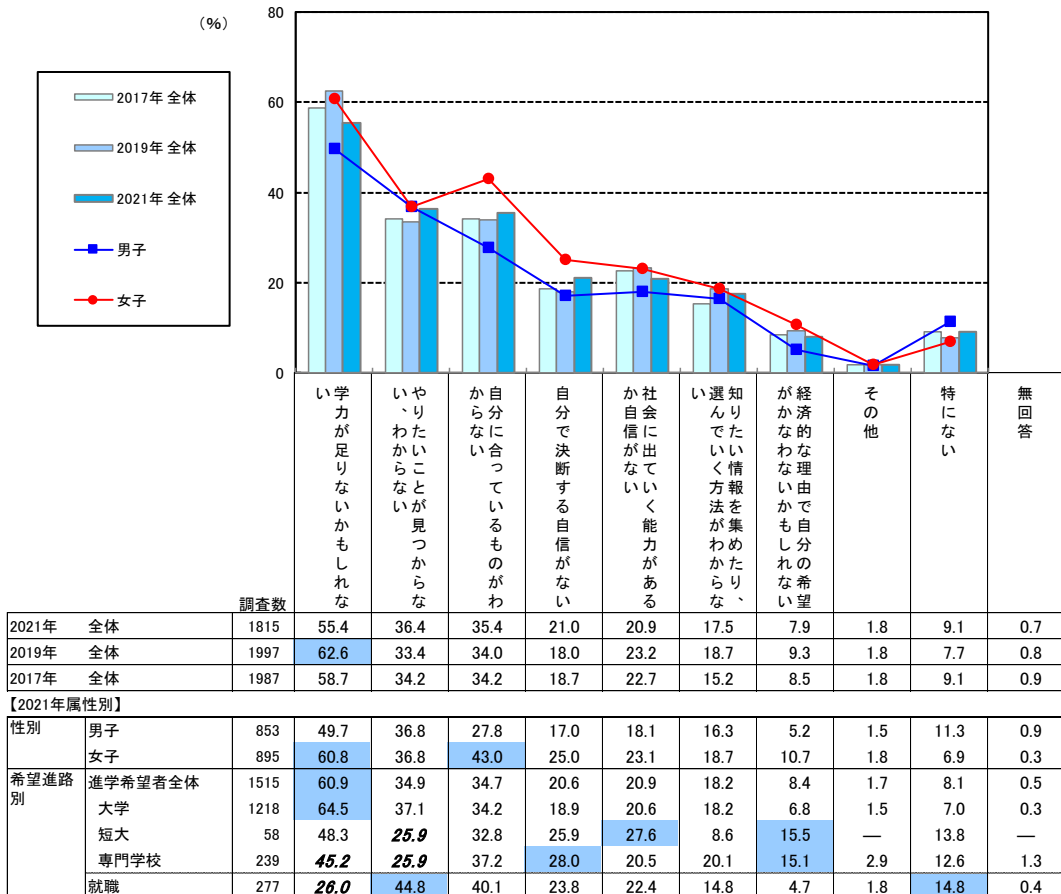
23_K_Q6

24. 進路選択についての気付き

- ▶ 高校生にとって進路選択について気がかりなことは、「学力が足りないかもしれない」が突出。
- ▶ 次いで「やりたいことが見つからない、わからない」「自分に合っているものがわからない」など進路のを見つけ方そのものについての不安。

- 高校生に対して、進路選択について気がかりなことがあるかを尋ねたところ、「学力が足りないかもしれない」（55%）が突出して高く、次いで「やりたいことが見つからない、わからない」（36%）、「自分に合っているものがわからない」（35%）が高い。
- 時系列でみると、「学力が足りないかもしれない」は2019年と比較して7ポイント低下。逆に「やりたいことが見つからない、わからない」「自分で決断する自信がない」はわずかに上昇した。
- 性別にみると、男子より女子でスコアの高い項目が多く、特に「学力が足りないかもしれない」「自分に合っているものがわからない」が顕著に高い。
- 希望進路別にみると、大学進学希望者全体では特に「学力が足りないかもしれない」が高く、65%にのぼる。一方、短大進学希望者、専門学校進学希望者でも「学力が足りないかもしれない」が最も高いが、短大進学希望者では「社会に出ていく能力があるか自信がない」「経済的な理由で自分の希望がかなわないかもしれない」、専門学校進学希望者では「自分で決断する自信がない」「経済的な理由で自分の希望がかなわないかもしれない」などが全体と比較して5ポイント以上高い。
- 就職希望者では、「やりたいことが見つからない、わからない」（45%）が最も高く、「自分に合っているものがわからない」（40%）も40%を超えている。

【高校生】進路選択についての気付き（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート ※【2021年属性別】

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

24_K_Q7

25. 将来についての気がり

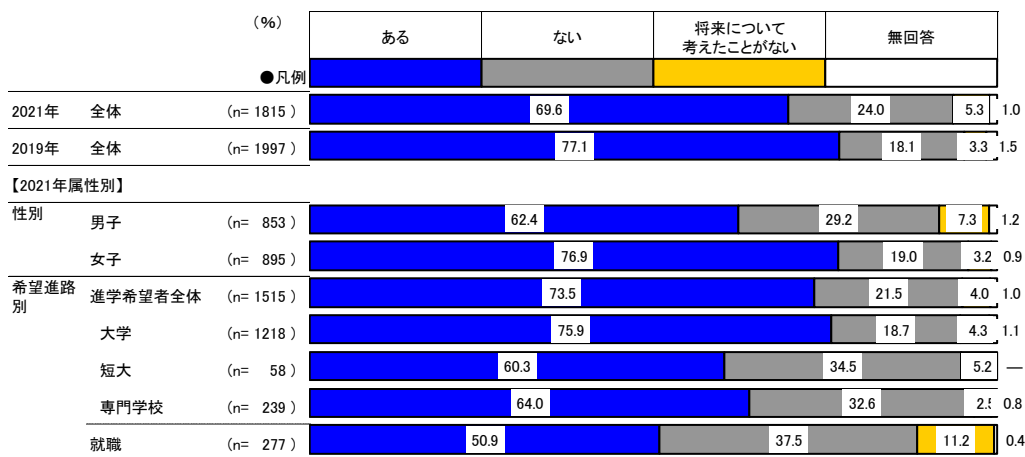
1) 高校生の将来について気がりはあるか

▶ 高校生の70%、保護者の71%が、高校生の将来について気がりなことが「ある」と回答。

▶ 時系列では「ある」割合が前回より減少した。

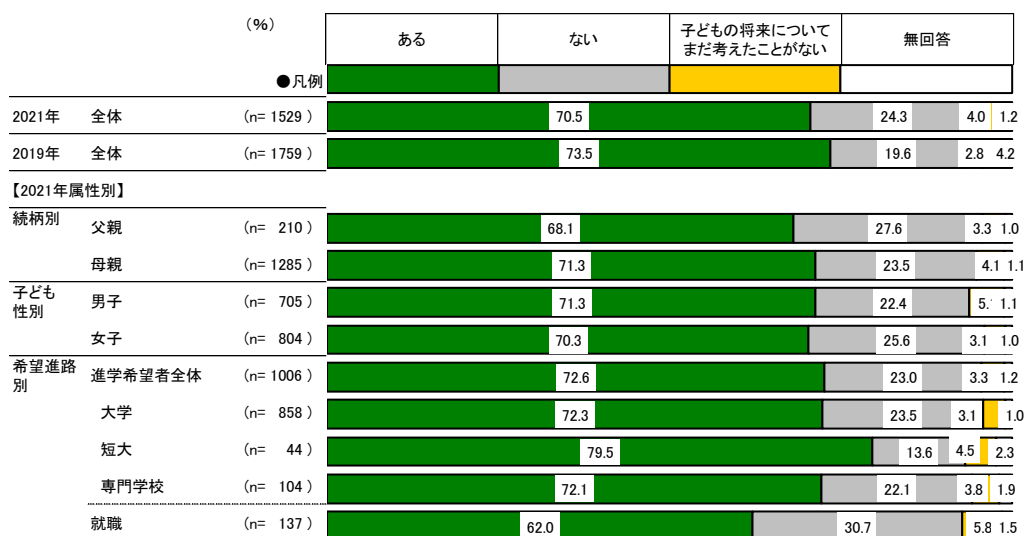
- 高校生に対して、自分の将来について気がりなことがあるかどうかを尋ねたところ、70%が「ある」と回答した。時系列でみると、2019年（77%）よりも減少した。
- 性別にみると、男子（62%）より女子（77%）で「ある」割合が高い。
- 希望進路別にみると、進学希望者全体では「ある」が74%を占め、就職希望者（51%）を20ポイント以上上回る。
- 保護者にも同様に、子どもの将来について気がりなことがあるかどうかを尋ねたところ、71%が「ある」と回答。時系列でみると、高校生と同様2019年（74%）よりも減少している。
- 続柄別にみると、父親（68%）より母親（71%）で「ある」割合がやや高い。子どもの性別でもほぼ同率となっている。

【高校生】 将来について気がりなことはあるか（全体／単一回答）



25_K.Q17

【保護者】 子どもの将来について気がりなことはあるか（全体／単一回答）



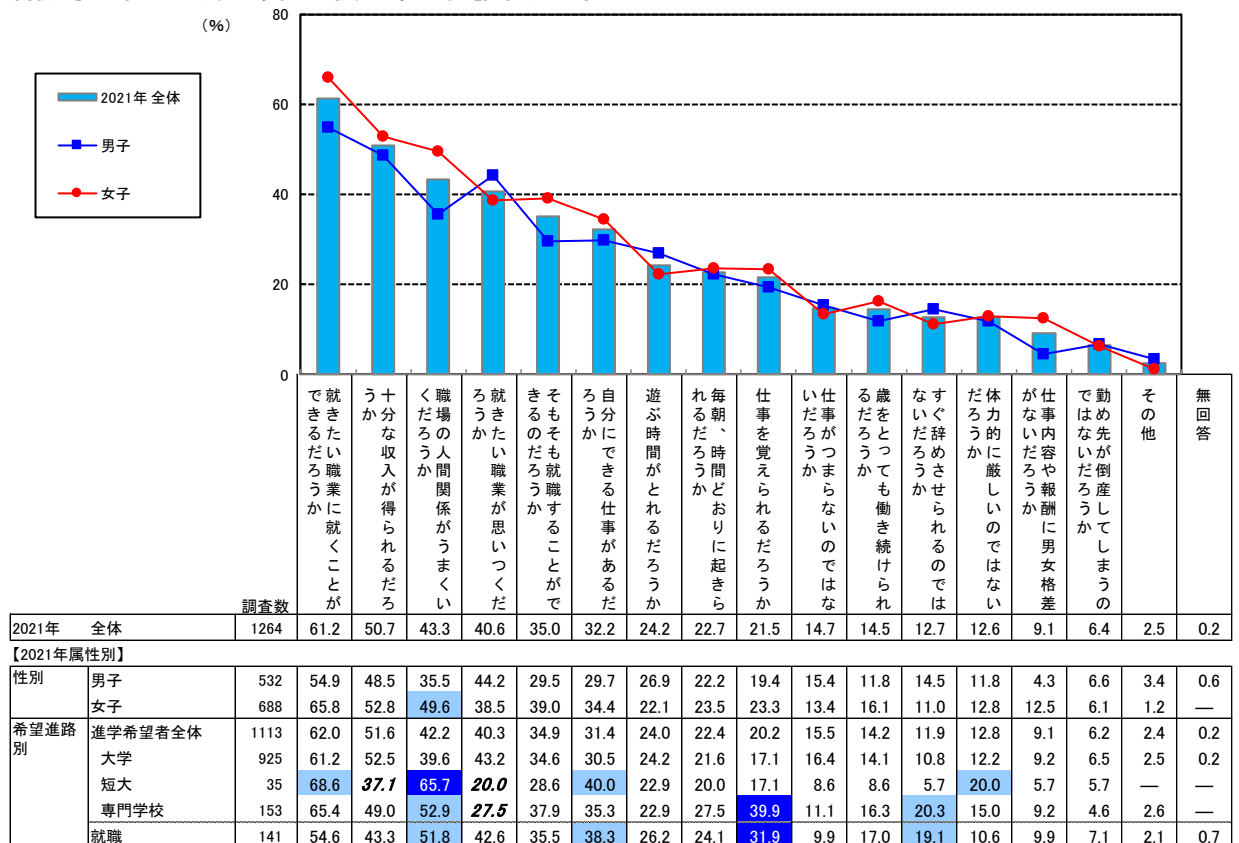
25_H.Q15

2) 将来について気がかりなこと

▶ 高校生自身が将来について気がかりに思っていることのトップは「就きたい職業に就けるか」。

- 将来について気がかりなことが「ある」と回答した高校生に対して、気がかりなこととしてあてはまることを尋ねたところ、「就きたい職業に就くことができるだろうか」（61%）が最も高く、以下「十分な収入が得られるだろうか」（51%）、「職場の人間関係がうまくいだろうか」（43%）、「就きたい職業が思いつくだろうか」（41%）などが続く。
- 性別にみると、特に上位項目では男子よりも女子でスコアの高い項目が多く、特に「職場の人間関係がうまくいだろうか」で差が大きい。しかし、「就きたい職業が思いつくだろうか」では男子の方が高い。

【高校生】 将来について気がかりなこと（気がかりが「ある」／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い

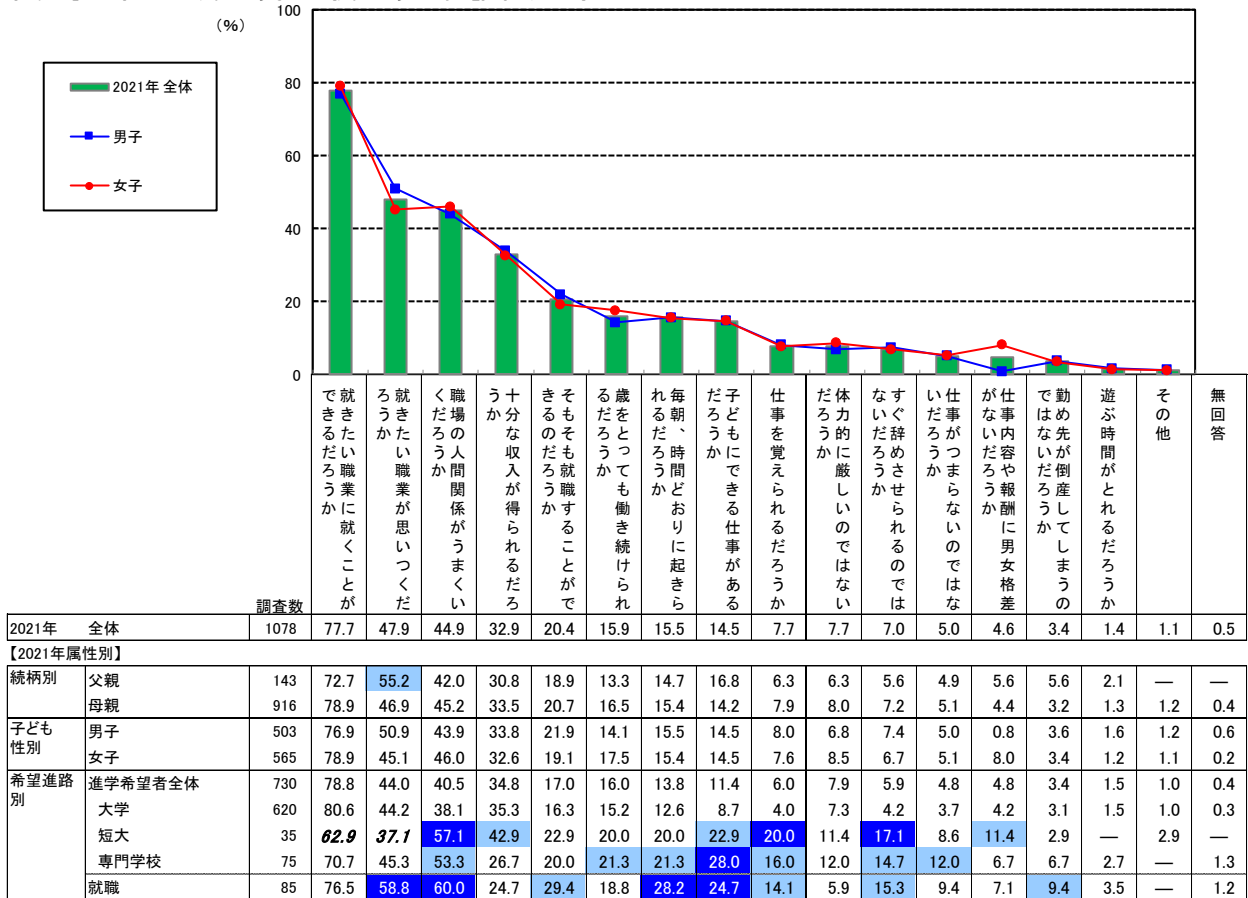
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

25_K_Q17-1

▶保護者が子どもの将来について気がかりに思っていることのトップも「就きたい職業に就けるか」。

- 子どもの将来について気がかりなことが「ある」と回答した保護者に対して、気がかりなこととしてあてはまることを尋ねたところ、「就きたい職業に就くことができるだろうか」（78%）が最も高く、以下「就きたい職業が思いつくだろうか」（48%）、「職場の人間関係がうまくいだろうか」（45%）、「十分な収入が得られるだろうか」（33%）などが続く。
- トップの項目は高校生と同じだが、よりスコアが高く突出している。

【保護者】 将来について気がかりなこと（気がかりが「ある」／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート ※【2021年属性別】 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

26. 将来就きたい・就いてほしい職業／その理由

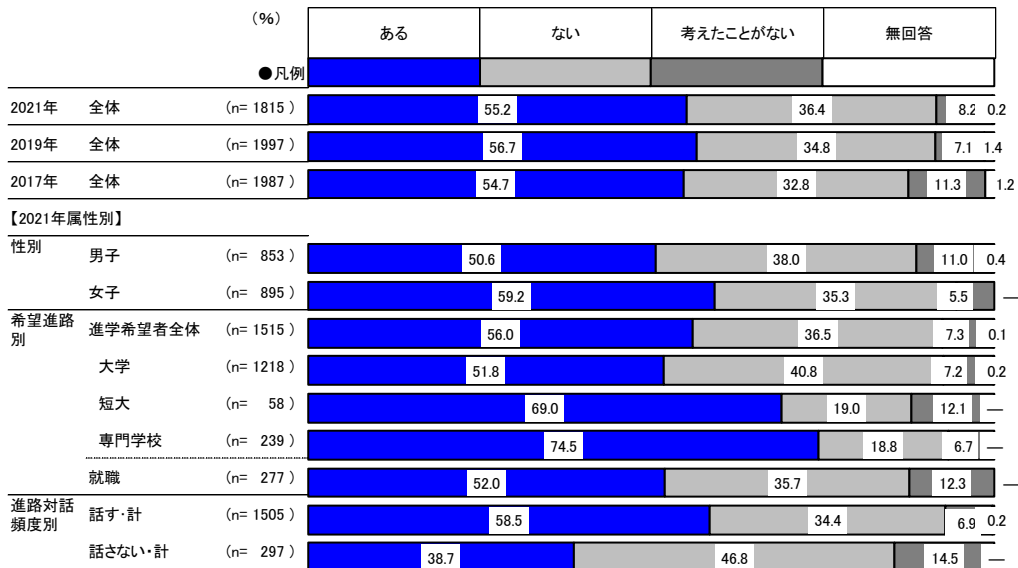
1) 高校生が将来就きたい職業

▶ 高校生の55%が、将来就きたい職業が「ある」と回答。

▶ 就きたい職業は、「公務員」「教師」が上位。

- 高校生に対して、将来就きたい職業があるかどうかを尋ねたところ、55%が「ある」と回答した。
- 時系列ではあまり大きい変化はみられない。
- 性別にみると、男子（51%）より女子（59%）で「ある」割合が高い。
- 希望進路別にみると、就職希望者（52%）より進学希望者全体（56%）の方が「ある」割合がやや高い。進学希望者全体の中でも、短大進学希望者、専門学校進学希望者で「ある」割合が顕著に高い。
- 就きたい職業が「ある」と回答した高校生に対して、就きたい職業を具体的に尋ねたところ、全体では「公務員」（9%）、「教師」（9%）、「建築士・建築関連」（7%）などが上位となった。
- 性別にみると、男子では「建築士・建築関連」、女子では「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」がトップ。
- 「公務員」については、雇用や収入が「安定している」ことを理由とする高校生が多いが、「地元に貢献したい」「国を良くしたい」などの理由もみられた。また、2番目に多い「教師」については、学校生活での教師との接触経験から「あこがれを持った」ことを理由とする高校生が多い。

【高校生】将来、就きたい職業があるか（全体／単一回答）



26_K.Q18

【高校生】就きたい職業ランキング（就きたい職業が「ある」かつ 職業回答者／自由回答）

全体	(n=873)
1 公務員	80 9.2%
2 教師	79 9.0%
3 建築士・建築関連	60 6.9%
4 医師・歯科医師・獣医	53 6.1%
5 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	52 6.0%
6 看護師	51 5.8%
7 薬剤師	38 4.4%
8 技術者・研究者	35 4.0%
9 美容師・ヘアメイクアーティスト・美容関連	25 2.9%
10 イラストレーター・アニメーター・ゲーム関連	23 2.6%
11 会社員	22 2.5%
12 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	21 2.4%
13 俳優・ミュージシャン・声優・芸能関連	20 2.3%
14 エンジニア・プログラマー・IT関連	18 2.1%
製造業(自動車・造船など)	18 2.1%
16 トリマー・動物関連	16 1.8%
17 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	15 1.7%
18 学校職員・塾講師・教育関連	14 1.6%
インストラクター・スポーツトレーナー	14 1.6%
プロスポーツ選手・スポーツ関連	14 1.6%

男子	(n=361)
1 建築士・建築関連	47 13.0%
2 公務員	39 10.8%
3 教師	32 8.9%
4 技術者・研究者	23 6.4%
5 医師・歯科医師・獣医	22 6.1%
6 エンジニア・プログラマー・IT関連	18 5.0%
7 製造業(自動車・造船など)	16 4.4%
8 薬剤師	15 4.2%
9 イラストレーター・アニメーター・ゲーム関連	13 3.6%
10 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	11 3.0%
プロスポーツ選手・スポーツ関連	11 3.0%

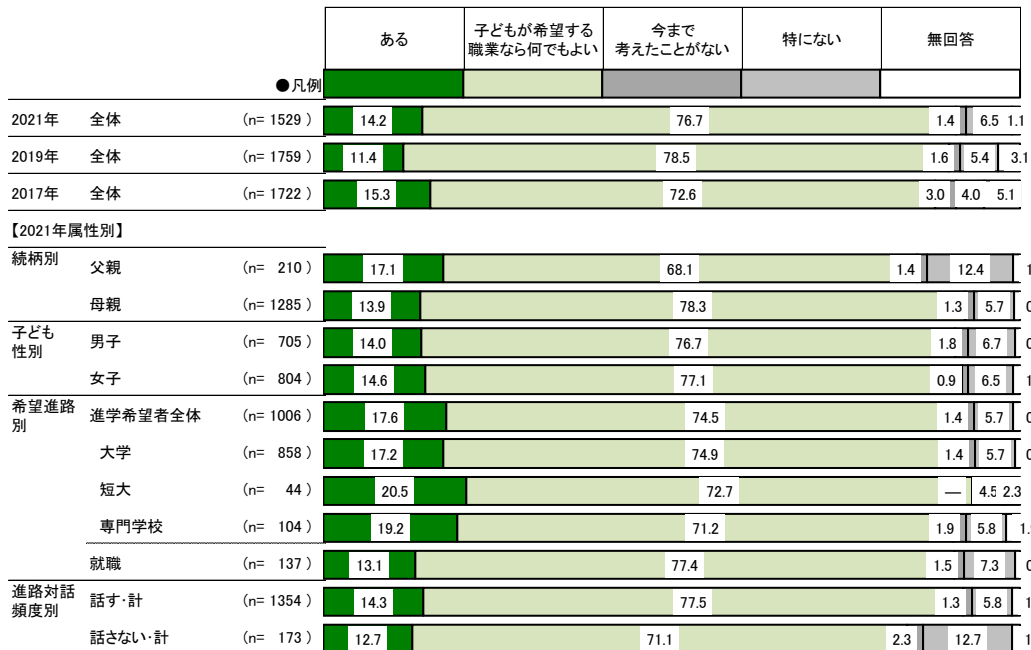
女子	(n=480)
1 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	49 10.2%
2 教師	40 8.3%
看護師	40 8.3%
4 公務員	36 7.5%
5 医師・歯科医師・獣医	30 6.3%
6 薬剤師	21 4.4%
7 美容師・ヘアメイクアーティスト・美容関連	20 4.2%
8 会社員	18 3.8%
9 俳優・ミュージシャン・声優・芸能関連	14 2.9%
10 建築士・建築関連	12 2.5%

2) 保護者が子どもに将来就いてほしい職業

▶保護者の77%が、「子どもが希望する職業なら何でもよい」。将来就いてほしい職業が「ある」と回答したのは14%

- 保護者に対して、将来就いてほしい職業があるかどうかを尋ねたところ、「子どもの希望する職業なら何でもよい」が77%。一方、14%が「ある」と回答した。
- 時系列では、2019年と比較して「ある」割合が微増した。
- 続柄別にみると、父親（17%）の方が母親（14%）より「ある」割合が高いが、父親では「特になし」も12%と、母親と比較して高い。
- 就いてほしい職業が「ある」と回答した保護者に対して、就いてほしい職業を具体的に尋ねたところ、「公務員」（37%）が突出して高い。
- 理由としては「安定している」ことをあげる意見が圧倒的に多い。また、看護師、医師、医療事務、薬剤師などの医療関連の職業については、安定した職を得られる資格が取得できることを理由とする意見が多いが、親の希望という以前に、「子どもが目指している」ことが前提として挙げられている。

【保護者】 将来、子どもに就いてほしい職業はあるか（全体／単一回答）



【保護者】就いてほしい職業ランキング(就いてほしい職業が「ある」かつ 職業回答者／自由回答)

26_H_Q16

全体 (n=191)	
1 公務員	70 36.6%
2 看護師	20 10.5%
3 医師・歯科医師・獣医	17 8.9%
医療事務・医療関連	17 8.9%
5 薬剤師	10 5.2%
6 教師	8 4.2%
保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	8 4.2%
8 技術者・研究者	7 3.7%
9 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	6 3.1%
10 エンジニア・プログラマー・IT関連	4 2.1%
11 建築士・建築関連	3 1.6%
12 学校職員・塾講師・教育関連	2 1.0%
救急救命士	2 1.0%
社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2 1.0%
会社員	2 1.0%
16 弁護士・裁判官・法律関係	1 0.5%
会計士・税理士・行政書士	1 0.5%
歯科衛生士・歯科技工士	1 0.5%
放射線技師・臨床検査技師	1 0.5%
管理栄養士・栄養士	1 0.5%
保健師	1 0.5%
通訳・翻訳・語学・国際関連	1 0.5%
俳優・ミュージシャン・声優・芸能関連	1 0.5%
店員・テーマパーク・サービス関連	1 0.5%
食品関連(加工・開発・製造など)	1 0.5%
デザイナー・設計士	1 0.5%
社長・経営者・起業家	1 0.5%

子どもの性別：男子 (n=84)	
1 公務員	36 42.9%
2 医師・歯科医師・獣医	9 10.7%
3 医療事務・医療関連	8 9.5%
4 看護師	5 6.0%
薬剤師	5 6.0%
6 技術者・研究者	4 4.8%
7 建築士・建築関連	3 3.6%
8 教師	2 2.4%
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	2 2.4%
エンジニア・プログラマー・IT関連	2 2.4%

子どもの性別：女子 (n=106)	
1 公務員	34 32.1%
2 看護師	15 14.2%
3 医療事務・医療関連	9 8.5%
4 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	8 7.5%
医師・歯科医師・獣医	8 7.5%
6 教師	6 5.7%
7 薬剤師	5 4.7%
8 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	4 3.8%
9 技術者・研究者	3 2.8%
10 社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2 1.9%
エンジニア・プログラマー・IT関連	2 1.9%

▶ 将来就きたい職業の理由【高校生】

- ・ **公務員（希望率9％）**
 - ・ 人のために働く姿がかっこいいと思ったから。法学に興味があるので、それを大学で学び、生かしたいから。[東京都/女子/大学]
 - ・ 地域のために働きたいから。[山形県/女子/就職]
 - ・ 新潟県内で一生暮らしたいから。社会貢献できるから。[新潟県/女子/大学]
 - ・ 一般の会社員よりも定期的に課や部が変わるので、マンネリ化しなさそうだから。地域について、もっとこうしたほうがいいのではないかなと思うことがあるから。[茨城県/女子/大学]
 - ・ 安定した仕事につきたいから。[新潟県/女子/大学]
 - ・ 給料が安定していて休みもしっかりあるから。[山形県/男子/大学]
 - ・ 国をより良くしたい 収入が安定している。[山形県/その他/大学]
- ・ **教師（希望率9％）**
 - ・ “先生”という人が身近にいたことがきっかけで、尊敬、憧れを持ったから。[和歌山県/女子/大学]
 - ・ ずっと憧れを持っていたから。[三重県/女子/大学]
 - ・ （自分のもつ）生徒や児童が、よりよい方向（将来）へ進んでほしいと思い、そうなるよう指導したいから。[三重県/男子/大学]
 - ・ 教えるのが好きだし、先生って大変だけど楽しそう。[東京都/女子/大学]
 - ・ 子どもの未来をつくって支えていきたいから。[北海道/男子/大学]
 - ・ 子どもたちが辛い思いをして学校に行くことがないようにしたいから。[新潟県/女子/大学]
 - ・ 自分が中学校高校の先生に知らなかった分野の興味を持たせてくれたので同じように私が子どもたちに視野を広げて色々なことに興味を持ってもらいたい。[東京都/女子/大学]
 - ・ 人と問題を解いた喜びを共有するのが好きだから。[三重県/無回答/大学]
- ・ **建築士・建築関連（希望率7％）**
 - ・ デザインが好きだから、憧れているから。[東京都/女子/大学]
 - ・ 家（建物）が好きだから。人生で1番大きい買い物に関われる、家を買う人が幸せになるために協力できることはとても幸せでやりがいのあることだと思うから。[三重県/女子/大学]
 - ・ 自分の考えた家が建っていたらすごいと思うから。[和歌山県/男子/大学]
 - ・ 高校に入って建築に興味を持ったから。[和歌山県/男子/専門学校]
- ・ **医師・歯科医師・獣医（希望率6％）**
 - ・ 過疎地や発展途上国での医療支援をして全ての人が平等に医療を受けられるようにしたいから。[沖縄県/女子/大学]
 - ・ 自分が小さいころからお世話になっていたし、あこがれていたから。[沖縄県/女子/大学]
 - ・ 生きる上で最も根本的で大切な部分である身体を支える職は意義があると思うから。そして感謝される職だから。[三重県/男子/大学]
 - ・ 責任が重い分やりがい強く感じられ、やりがいを感じることをやる気につながる自分にとって相性が良いと思ったから。[沖縄県/男子/大学]
- ・ **保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連（希望率6％）**
 - ・ 子どもと接するのが好きだから。[山形県/男子/大学]
 - ・ 子どもが大好きという理由もあるが、色んなことを教えたり、子どもの嬉しい顔を見ると、とても嬉しい気持ちになるから。[三重県/女子/専門学校]
 - ・ 小さい子どもが好き、絵本の読み聞かせが得意。ピアノが弾けて歌うのが好きな私には合っているのではないかなと思ったからです。[三重県/女子/専門学校]
 - ・ 小さい時から保育士にあこがれていた。色んな事を教えてくれて、今でもその事を思い出す時があって、自分もそんな風になりたいと思った。[三重県/女子/短大]

▶ 将来就いてほしい職業の理由【保護者】

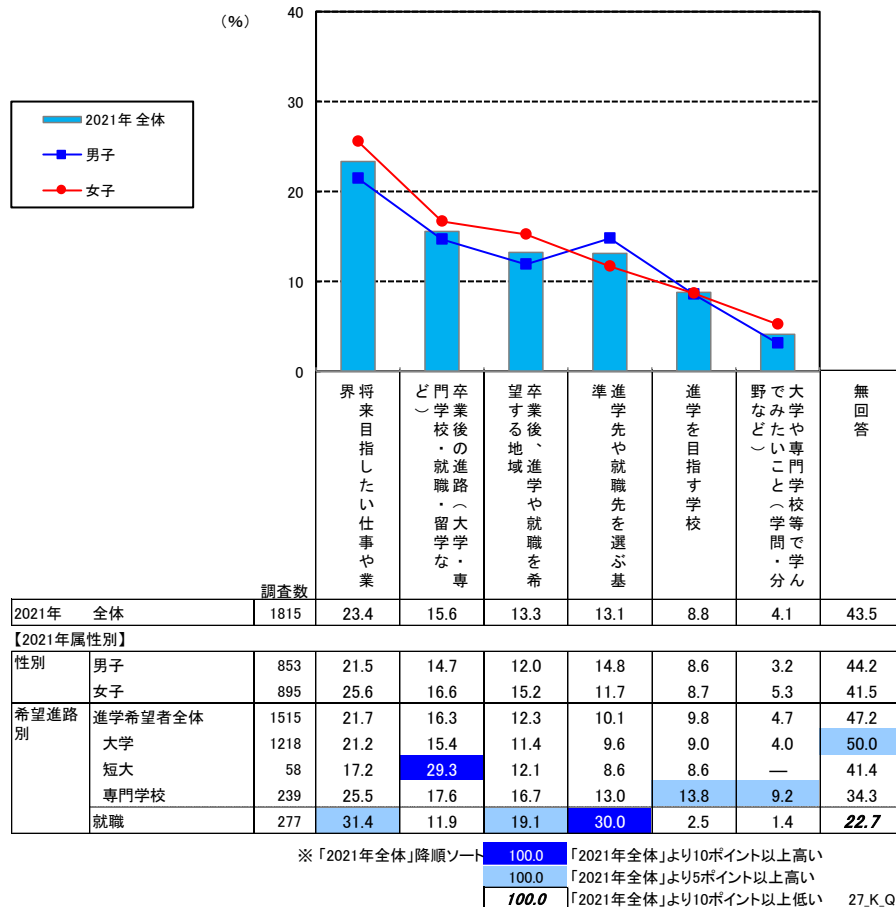
- ・ **公務員（希望率37％）**
 - ・ 安定した職業だから。自分、配偶者、親が公務員で有り難みがわかるから。福利厚生を正々堂々と享受できる。[島根県/母親/女/大学]
 - ・ 社会に役に立つ人になってほしい。[島根県/母親/男/大学]
 - ・ 経済的な安定と働き手に保証がある。有休や福利厚生の充実。[山形県/母親/女/大学]
 - ・ 安定している。地元に残り、地元の為に働いて欲しい。[山形県/母親/女/大学]
 - ・ 子どもに合っていると思うから、安定した収入が確保され、生活がおちつくと思うから。[茨城県/母親/男/大学]
 - ・ 公務員=面白くないと言われがちだが、実際社会を動かすやりがいのある仕事であり、安定もしている。[和歌山県/母親/男/大学]
 - ・ 親が契約社員等の為、子どもには安定した職業で長く働いてほしい。[沖縄県/母親/女/大学]
- ・ **看護師（希望率11％）**
 - ・ 本人もなりたい意志があるようだし、安定しているから。[新潟県/母親/男/専門学校]
 - ・ 職に困らない。[沖縄県/母親/女/子の希望なら何でも]
 - ・ 国家試験は大変だろうが、その後は安定した求人がありそうだから。[新潟県/母親/女/専門学校]
 - ・ 国家資格を取ってほしいので。[三重県/母親/女/専門学校]
 - ・ 一生困らないような資格を身につけ、自立して生きていって欲しいから。“自分にしか出来ない事”を探し、「人のために」尽くして欲しい。[山形県/母親/女/大学]
 - ・ 病院に限らず介護施設や他の所でも働ける。男子なので結婚しても夜勤できる。人の役に立てる。[山形県/母親/男/子の希望なら何でも]
 - ・ 人の役に立てる仕事をしてもらいたい。[山形県/父親/女/専門学校]
- ・ **医師・歯科医師・獣医（希望率9％）**
 - ・ 本人の意思であり希望であるから。[茨城県/母親/女/大学]
 - ・ 昔から本人が熱望しており、是非実現して欲しいから。[茨城県/父親/男/大学]
 - ・ 子どもが幼い頃から希望している職業だから。目標を達成することができるよう、日々努力しているのを見ているから。[沖縄県/母親/男/大学]
- ・ **医療事務・医療関連（希望率9％）**
 - ・ 本人の子どもの頃からの夢だったので叶えて欲しい。親から見て、先の職業は合わないかと不安もあり、専門職として資格を取り社会へ貢献してほしい。[和歌山県/母親/男/大学]
 - ・ 資格があれば、どこでも働けるため。[山形県/母親/女/大学]
 - ・ 何か資格を持っていれば、結婚後なども仕事するのに有利なものとなりそうなので。[北海道/母親/女/子の希望なら何でも]
 - ・ 私が医療従事者だから。[山形県/母親/男/大学]
 - ・ 手に職。これからの時代、大事な職業だから。[山形県/母親/男/専門学校]
 - ・ コロナ禍であろうと、どんな事があろうと、医療関係の仕事は無くならないと思うので。[沖縄県/母親/女/大学]
- ・ **薬剤師（希望率5％）**
 - ・ 女性でも安定した収入が見込めること。将来の子育てとの両立。[沖縄県/母親/女/大学]
 - ・ 求人がどの時代にもあり、どこで生活する事になっても働ける資格を持ってほしいと思うから。[新潟県/母親/男/大学]
 - ・ 子どもが色々考え、将来就きたい仕事と言っているの。[新潟県/母親/男/大学]

27. 新型コロナウイルス感染症による進路選択や将来への考え方への影響

▶ 新型コロナウイルス感染症による進路選択や将来への考え方への影響のトップは、「将来目指したい仕事や業界」に対する影響。

- 新型コロナウイルス感染症により、進路選択や将来への考え方に影響があったものを尋ねたところ、「将来目指したい仕事や業界」（23%）が最も高く、次いで「卒業後の進路（大学・専門学校・就職・留学など）」（16%）が高い。
- 希望進路別にみると、進学希望者全体より就職希望者でスコアの高い項目が多く、「進学先や就職先を選ぶ基準」（30%）は進学希望者全体を20ポイント上回る。

【高校生】 新型コロナウイルス感染症による進路選択や将来への考え方への影響（全体／複数回答）



▶ 影響を受けた具体的な内容【高校生】

< 目指したい仕事や業界の広がり・変化 >

- 長期の休校で学力が低下した。医療体制の逼迫から、医療に対してより感心を持つようになった。[三重県/女子/大学]
- アニメの力は人に希望を与えることができると思い、アニメ業界の様々な仕事に興味を持った。[新潟県/男子/大学]
- 夏休みに本にふれたりする機会が多くなったので心理学か文学部でまよっていたが文学部にしようと思ったから。[茨城県/女子/大学]
- 自分は本当は何がしたいのか考えるきっかけになった。[島根県/女子/大学]
- 人間が本当に必要とされている仕事がわかるようになってきて、その仕事は安定すると思うから。[新潟県/男子/大学]
- 学校が抱える問題をどう解決するか、自分だったらどうするか、考えていたからです。[三重県/女子/大学]
- コロナウイルスが蔓延したことで情報系の分野が大きく進歩したので、自分の進路にいい影響が出たと思っている。[島根県/男子/専門学校]

< 進路の変更・諦め >

- もともとは看護師を目指していた時期もありましたが、テレビやインターネット、SNSで看護師さんの大変さを知り、自分はこの大変さに耐えられるメンタルはないと思い諦めてしまいました。[茨城県/女子/大学]
- 大学へ行ったら海外へ留学してみたいという気持ちがあったが、ここ数年は難しそうだったから。[新潟県/女子/大学]
- 病気が大規模にはやったとき、仕事によっては収入がなくなりやっていけなくなったり、辞めさせられたりすることがよく分かり、職は慎重に選ばないと思った。[三重県/女子/大学]
- 感染者が多くいる所だから（希望のエリアを変更した）。[山形県/女子/専門学校]

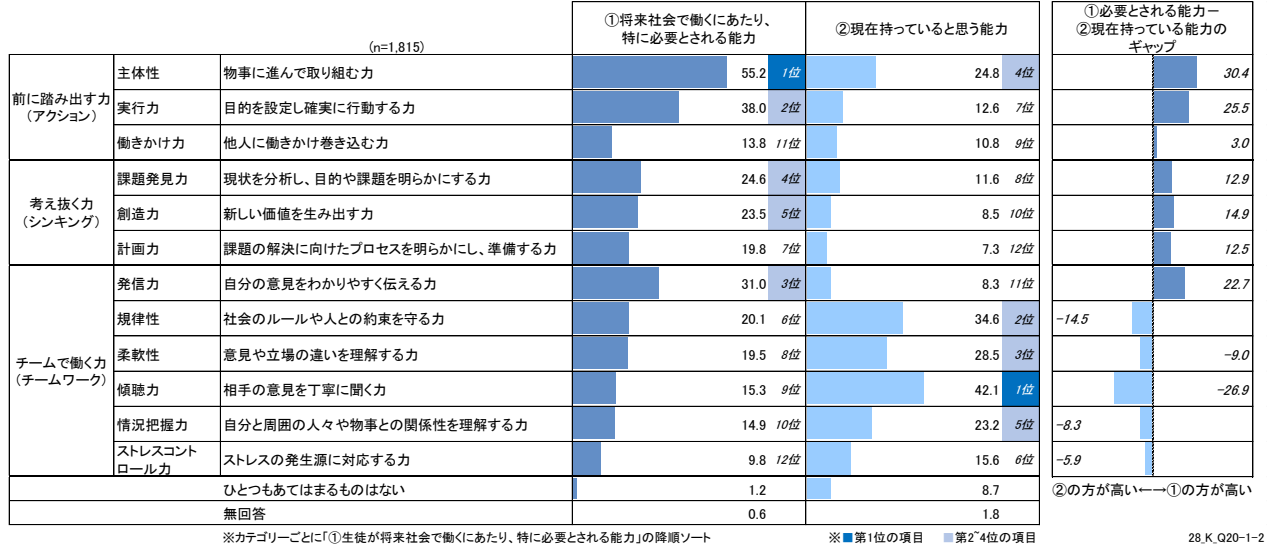
28. 社会人基礎力：将来必要とされる能力と現在持っている能力

- ▶ 高校生が考える“将来必要とされる能力”は、「主体性」(55%)、「実行力」(38%)、「発信力」(31%)。
- ▶ “現在持っている能力”は、「傾聴力」(42%)、「規律性」(35%)、「柔軟性」(29%)。
- ▶ 将来必要とされるが現在の自分に不足している能力は、「主体性」「実行力」「発信力」。
- 経済産業省で定義されている『社会人基礎力』(12の能力要素)のうち、「将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」を、それぞれ3つまで高校生に選んでもらった。
- 高校生が考える＜将来必要とされる能力＞は、「主体性：物事に進んで取り組む力」(55%)がトップ。以下、「実行力：目的を設定し確実に行動する力」(38%)、「発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力」(31%)、「課題発見力：現状を分析し、目的や課題を明らかにする力」(25%)「創造力：新しい価値を生み出す力」(24%)が続く。
- 高校生が＜現在持っていると思う能力＞は、「傾聴力：相手の意見を丁寧に聞く力」(42%)がトップ。以下、「規律性：社会のルールや人との約束を守る力」(35%)、「柔軟性：意見や立場の違いを理解する力」(29%)、「主体性：物事に進んで取り組む力」(25%)、「状況把握力：自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力」(23%)が続く。
- 高校生が、将来必要とされるが現在の自分に不足している能力は何だと考えているか、＜将来必要とされる能力 - 現在持っている能力とのギャップ＞をみると、「主体性：物事に進んで取り組む力」が最も高い（必要-現在持っているスコアの差が30ポイント）。以下、「実行力：目的を設定し確実に行動する力」(26ポイント差)、「発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力」(23ポイント差)が続く。
- ▶ 保護者が考える、子どもに将来必要な能力は、「主体性」(56%)、「実行力」(38%)、「発信力」(27%)。
- ▶ 子どもが現在持っている能力は、「規律性」(51%)、「主体性」(33%)、「傾聴力」(31%)。
- ▶ 将来必要とされるが、現在の子どもの不足している能力は、「主体性」「発信力」「実行力」。
- 保護者からも、「将来、社会で働くにあたり特に必要とされる能力」と「子どもが現在持っている能力」をそれぞれ3つまで選んでもらった。
- 保護者が考える＜将来必要とされる能力＞は、「主体性：物事に進んで取り組む力」(56%)がトップ。以下、「実行力：目的を設定し確実に行動する力」(38%)、「発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力」(27%)、「規律性：社会のルールや人との約束を守る力」(26%)、「柔軟性：意見や立場の違いを理解する力」(23%)が続く。
- 保護者からみて子どもが＜現在持っていると思う能力＞は、「規律性：社会のルールや人との約束を守る力」(51%)がトップ。以下、「主体性：物事に進んで取り組む力」(33%)、「傾聴力：相手の意見を丁寧に聞く力」(31%)、「柔軟性：意見や立場の違いを理解する力」(26%)、「状況把握力：自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力」(26%)が続く。
- 保護者が、子どもにとって将来必要とされるが現状では不足していると考えている能力について、＜将来必要とされる能力 - 現在持っている能力とのギャップ＞をみると、「主体性：物事に進んで取り組む力」(必要-現状の差が23ポイント)が最も高く、「発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力」(18ポイント差)、「実行力：目的を設定し確実に行動する力」(12ポイント差)が続く。

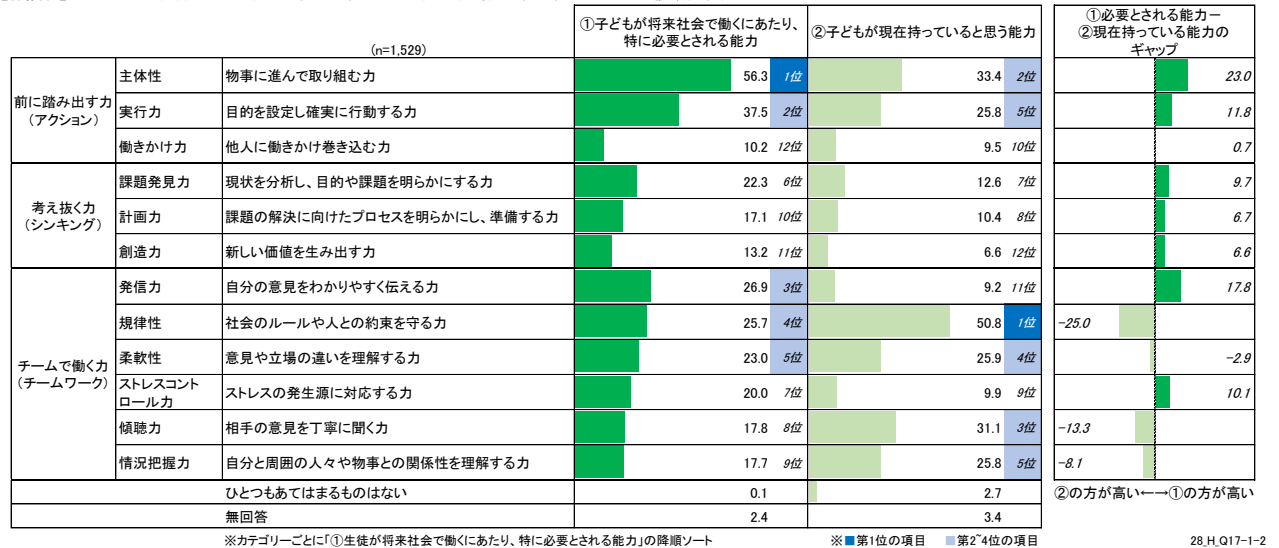
参考）高校教員 ※出典：リクルート進学総研（2021年），高校教育改革に関する調査2021

- ▶ 教員が考える生徒に将来必要な能力は、「主体性」(55%)、「課題発見力」(42%)、「創造力」(32%)。
- ▶ 生徒が現在持っている能力は、「規律性」(58%)、「傾聴力」(35%)、「柔軟性」(22%)。
- ▶ 将来必要とされるが、現在の生徒に不足している能力は、「主体性」「課題発見力」「創造力」。
- 参考として、高校教員に対して行った「高校教育改革に関する調査」の結果を引用する。
- 教員からみた場合も、将来社会で働くにあたり必要とされる能力のトップは、高校生や保護者と同様に「主体性」(55%)となっているが、次いで「課題発見力：現状を分析し、目的や課題を明らかにする力」(42%)、「創造力：新しい価値を生み出す力」(33%)が高く、高校生や保護者と異なる項目が上位。
- また、生徒が現在持っている能力としては、「規律性：社会のルールや人との約束を守る力」(58%)が突出して高く、次いで「傾聴力：相手の意見を丁寧に聞く力」(35%)、「柔軟性：意見や立場の違いを理解する力」(22%)が高い。
- 教員が、生徒にとって不足していると感じている能力は、「主体性」(38ポイント差)、「課題発見力」(37ポイント差)、「創造力」(26ポイント差)など。いずれも高校生や保護者以上にギャップが大きいと認識していることが確認できる。

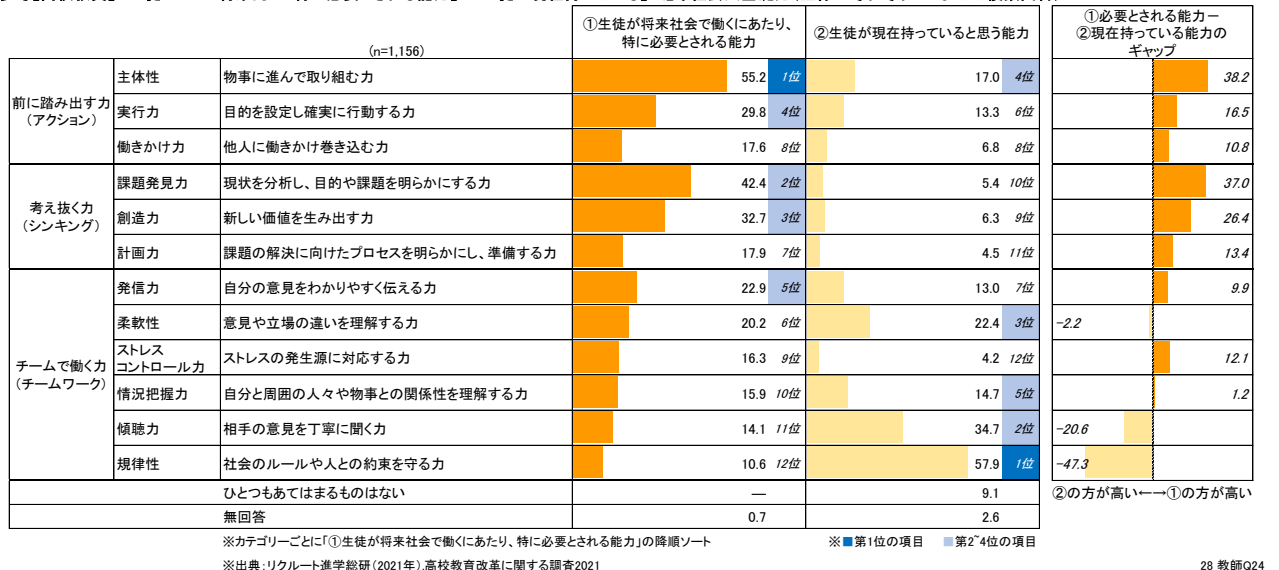
【高校生】現在持っている能力と将来必要とされる能力(全体／それぞれ3つまでの複数回答)



【保護者】子どもが現在持っている能力と将来必要とされる能力(全体／それぞれ3つまでの複数回答)

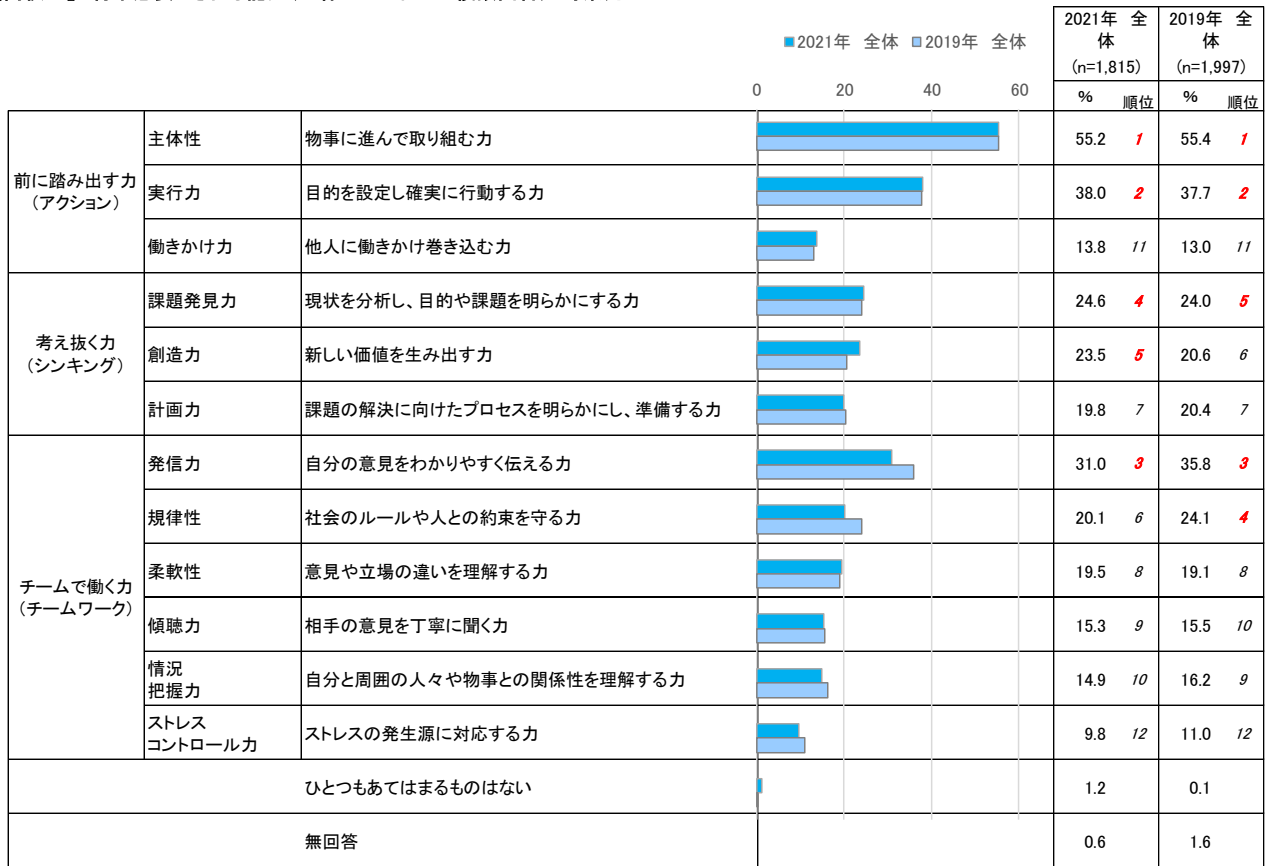


参考【高校教員】生徒にとって将来的に「特に必要とされる能力」と「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力(全体／それぞれ3つまでの複数回答)



【高校生】 将来必要とされる能力(全体／3つまでの複数回答)・時系列

(%)



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

28_K_Q20-2M

【保護者】 将来必要とされる能力(全体／3つまでの複数回答)・時系列

(%)

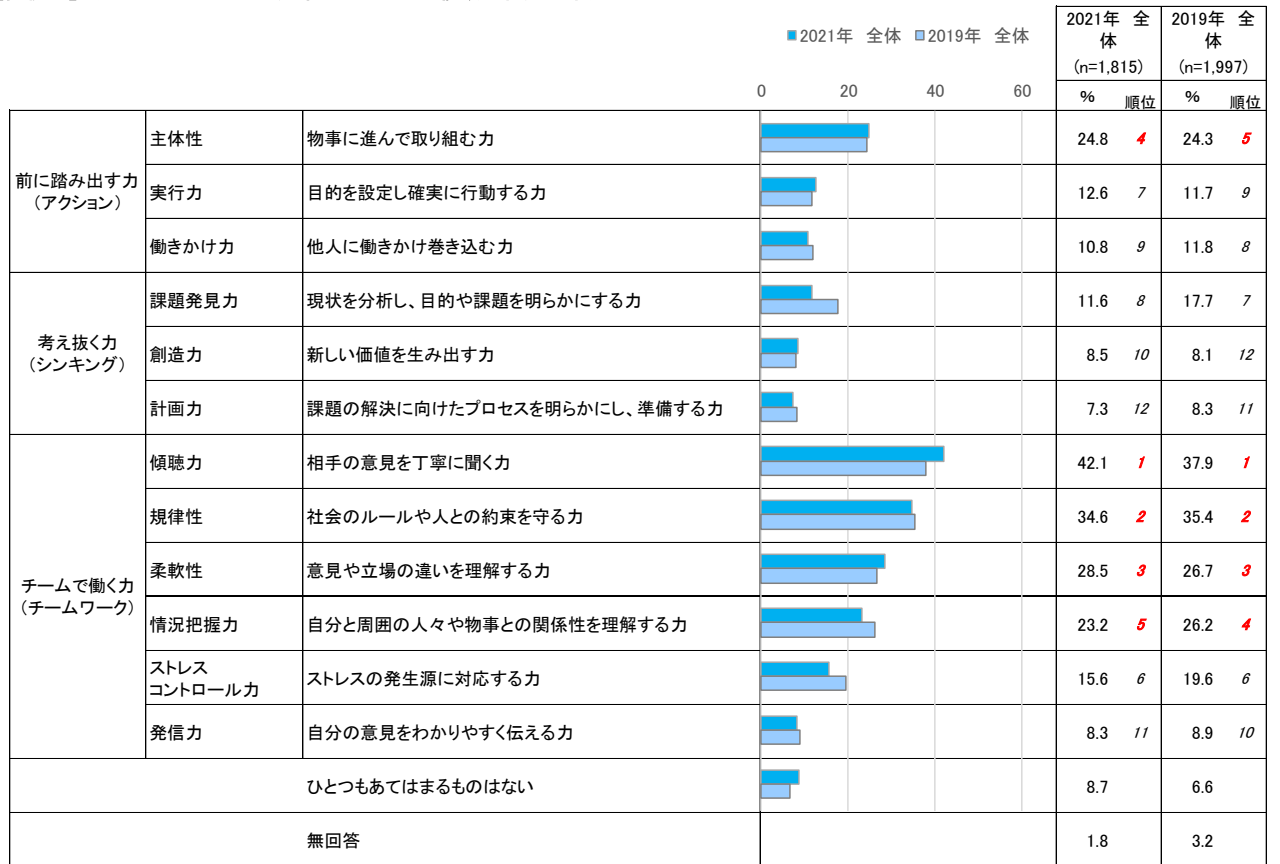


※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

28_H_Q17-2M

【高校生】現在持っている能力(全体／3つまでの複数回答)・時系列

(%)

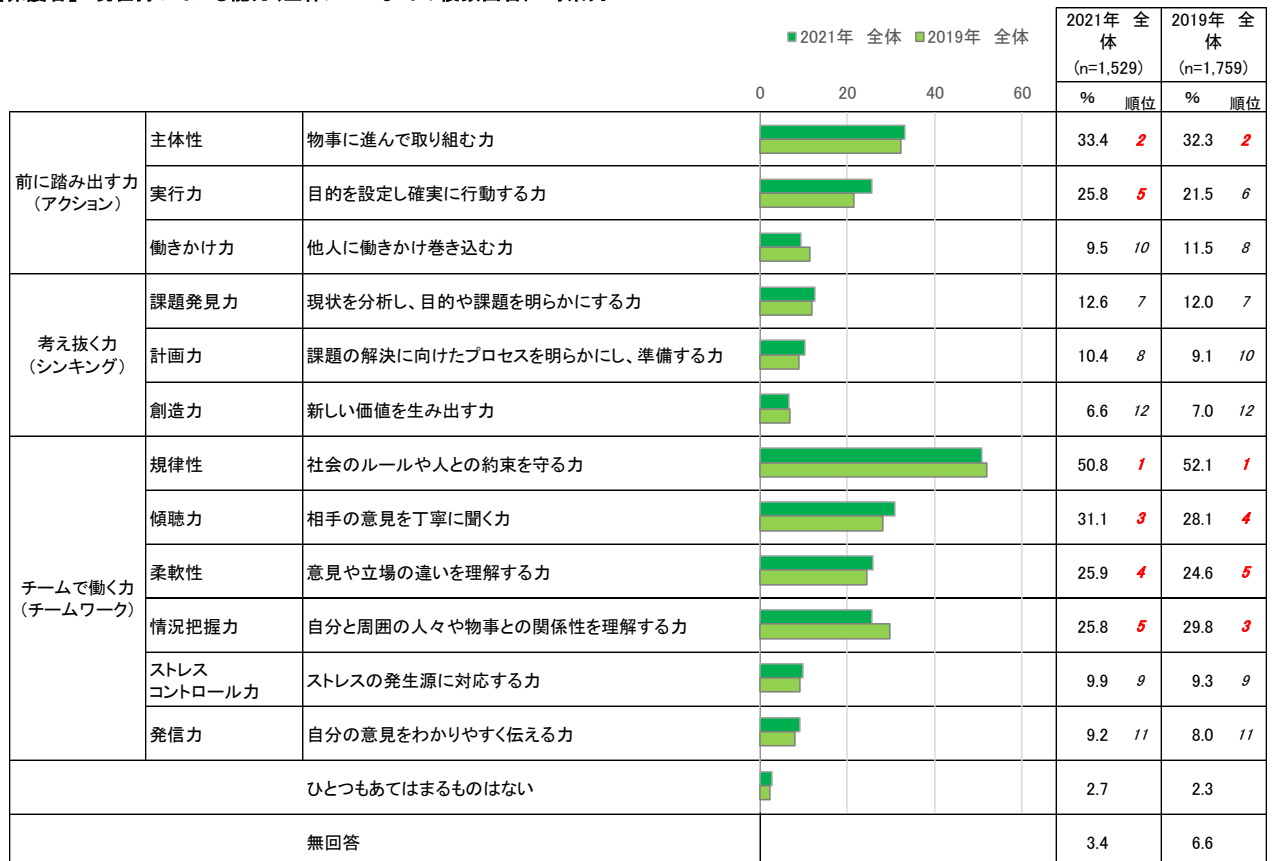


※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

28_K_Q20-1M

【保護者】現在持っている能力(全体／3つまでの複数回答)・時系列

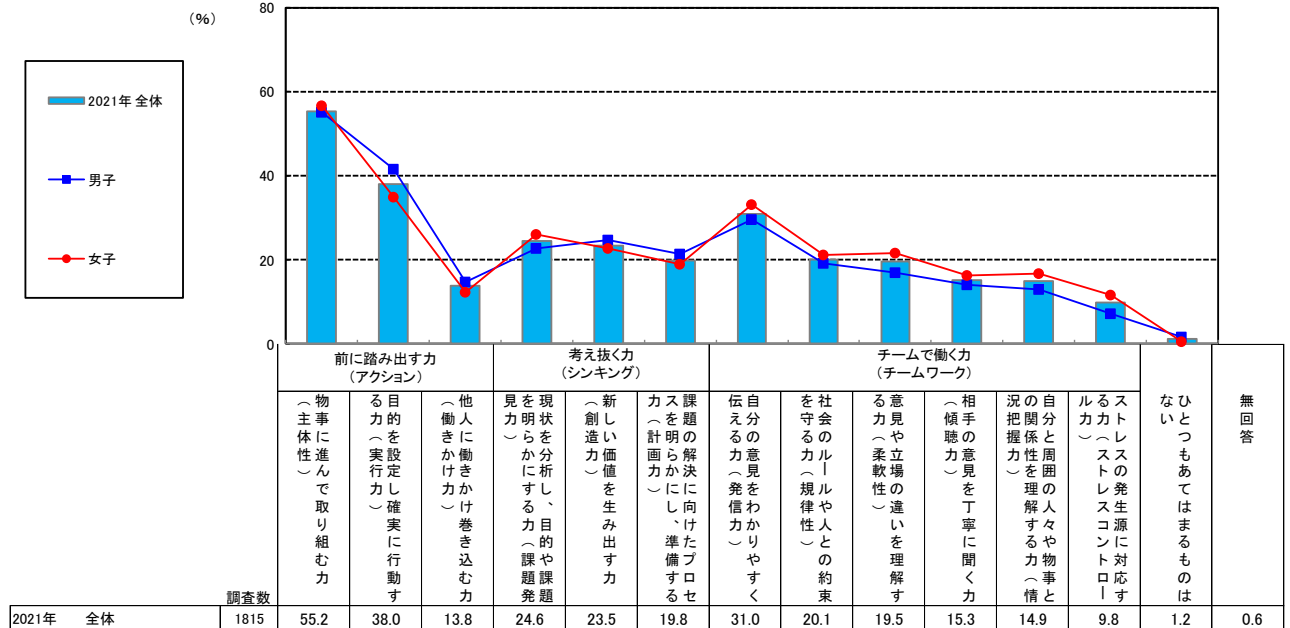
(%)



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

28_H_Q17-1M

【高校生】 将来必要とされる能力（全体／3つまでの複数回答）・属性別



※ カテゴリーごとに「2021年全体」降順ソート

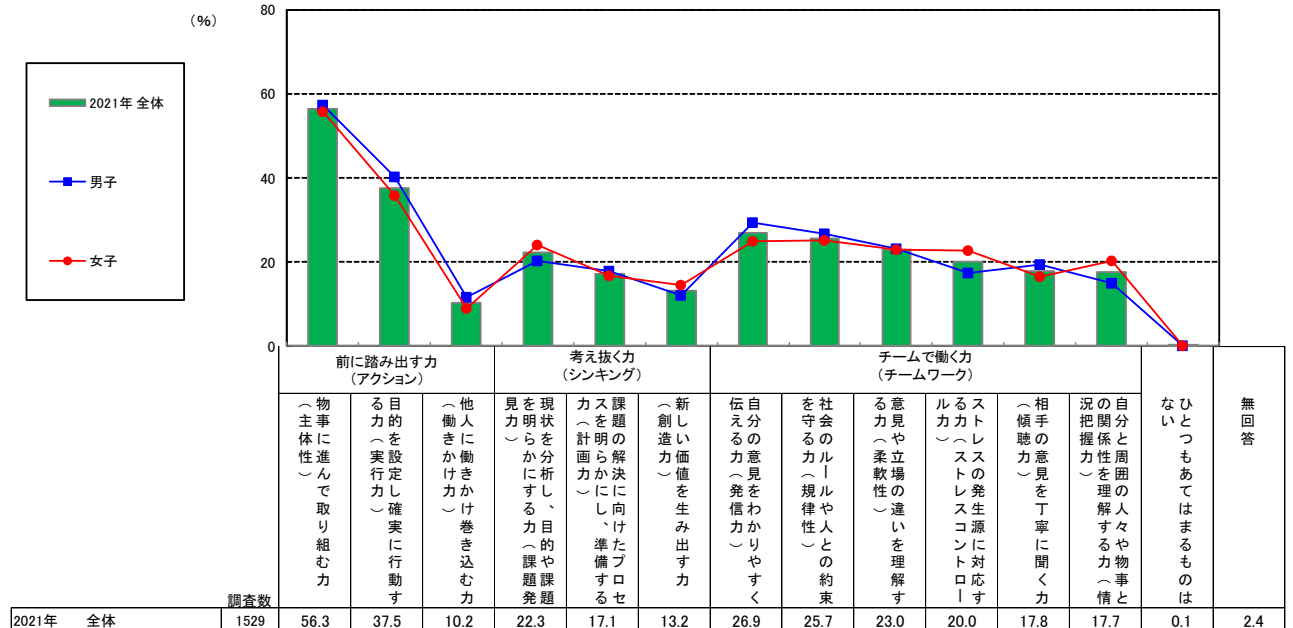
※【2021年属性別】 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

28_K_Q20-2

【保護者】 将来必要とされる能力（全体／3つまでの複数回答）・属性別



※ カテゴリーごとに「2021年全体」降順ソート

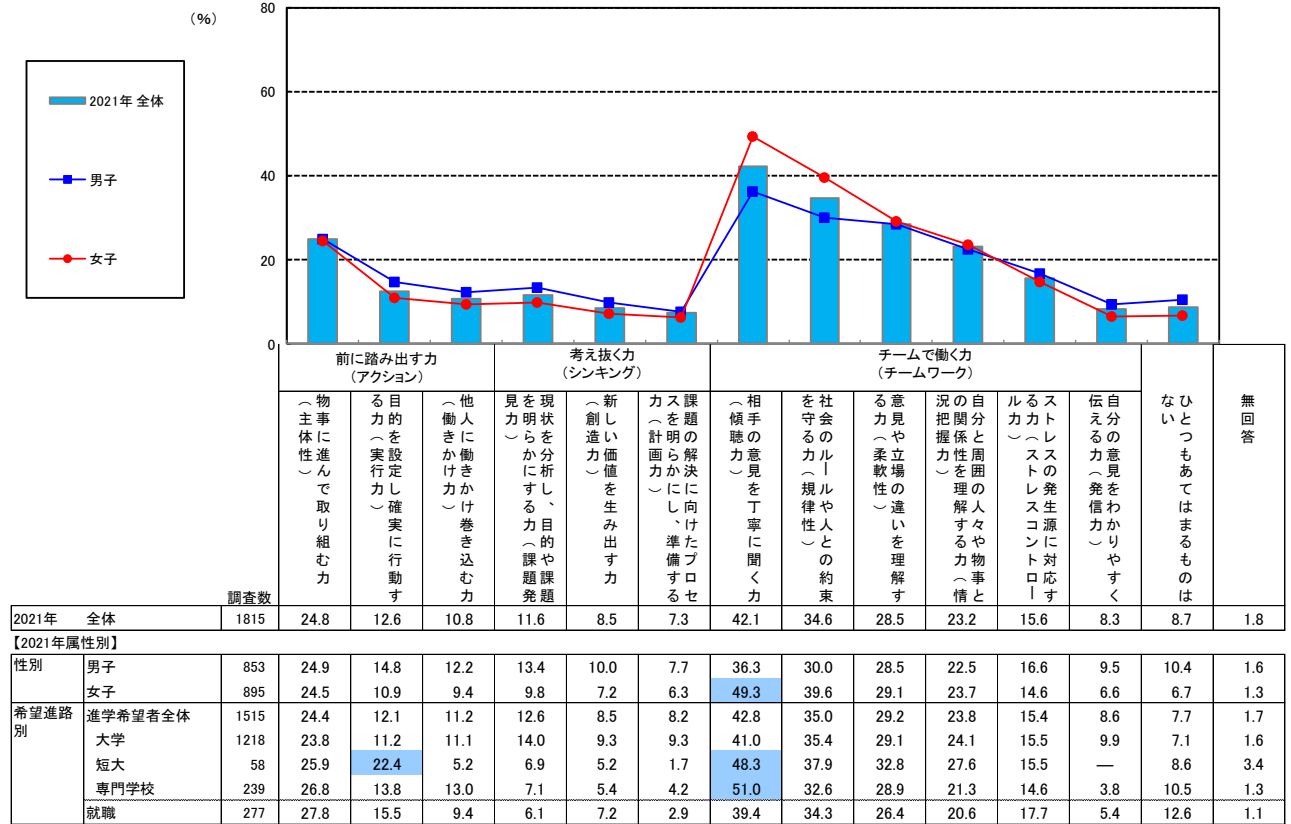
※【2021年属性別】 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0	「2021年全体」より5ポイント以上高い
-------	----------------------

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

28 H Q17-2

【高校生】現在持っている能力（全体／3つまでの複数回答）・属性別



※ カテゴリーごとに「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

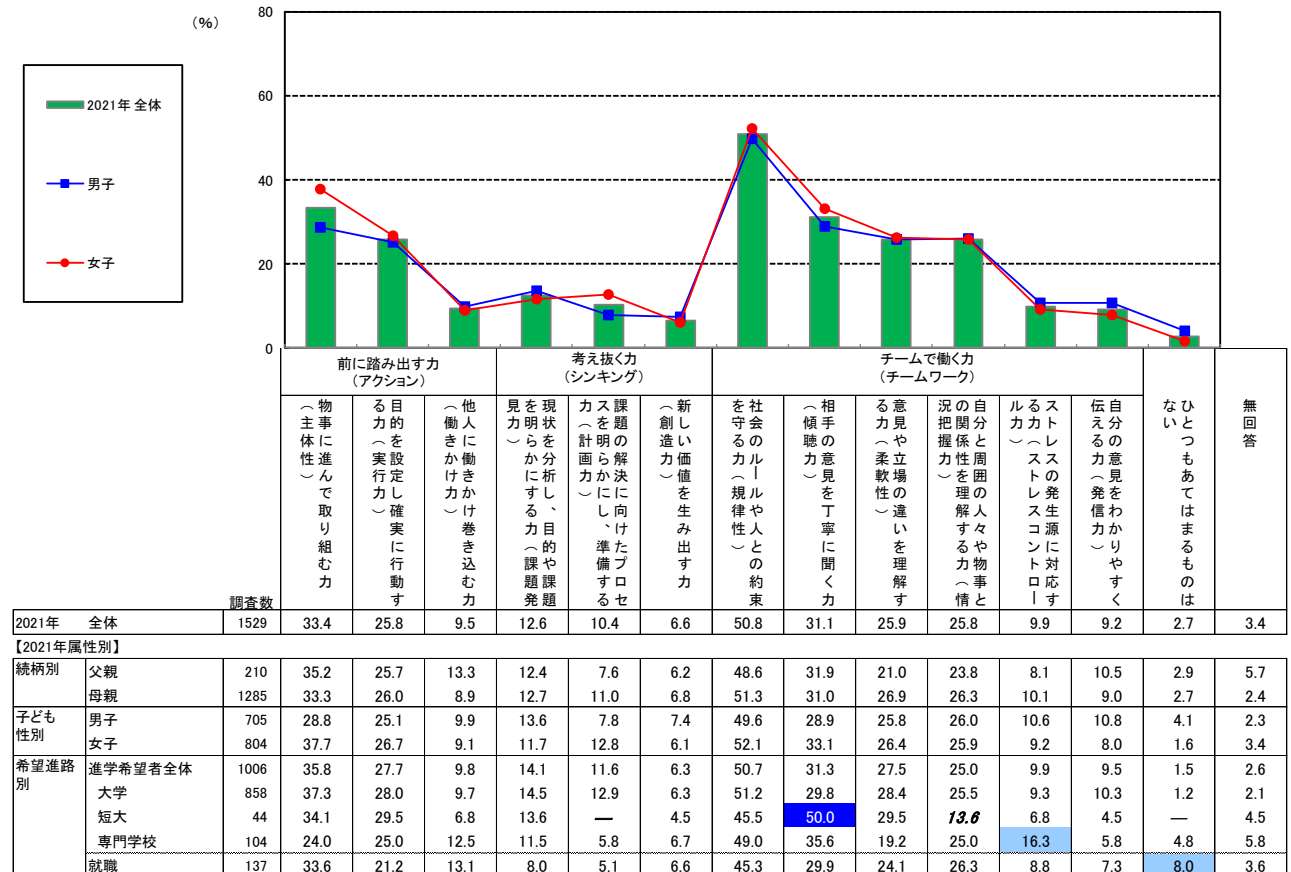
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

28_K_Q20-1

【保護者】現在持っている能力（全体／3つまでの複数回答）・属性別



※ カテゴリーごとに「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

28_H_Q17-1

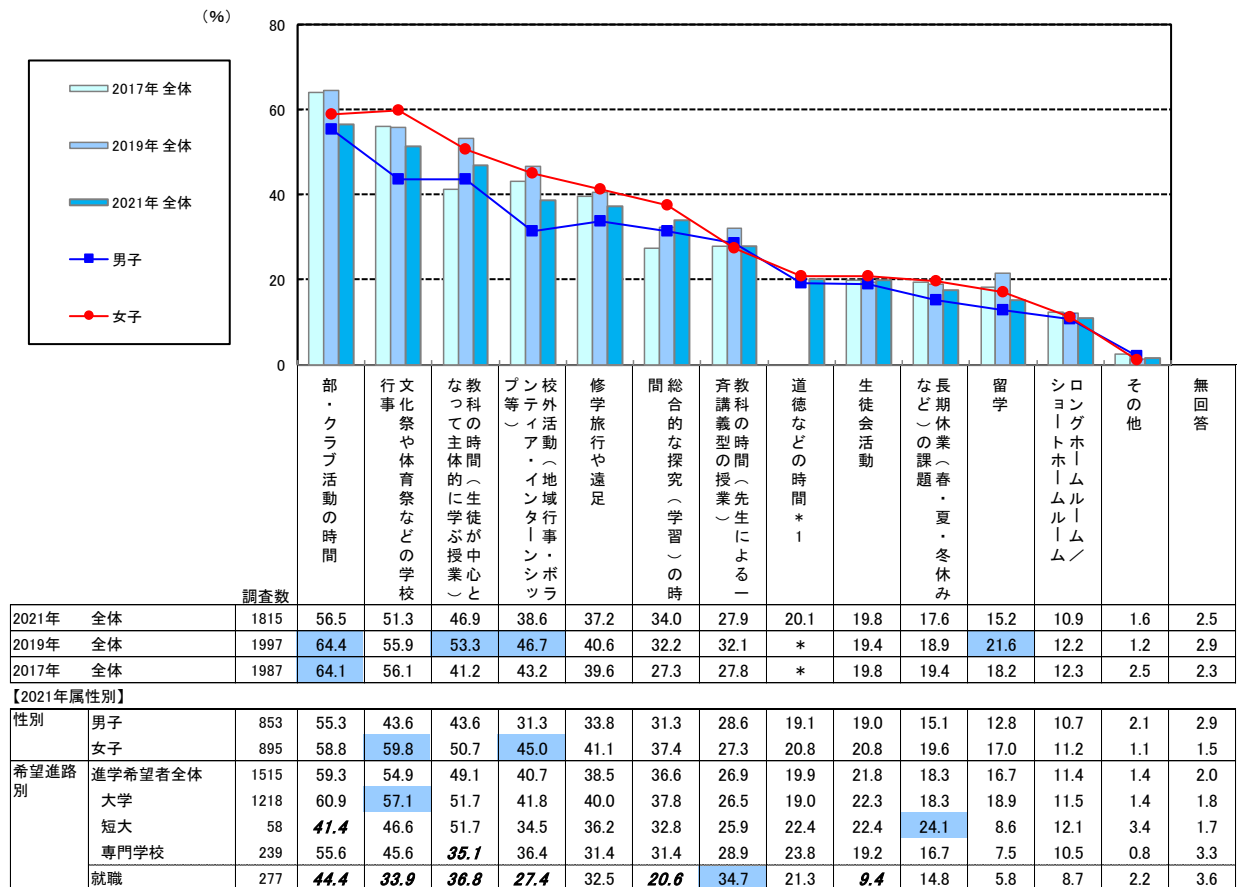
29. 社会人基礎力：必要な能力を身につけるために有効な活動

▶社会人基礎力を身につけるために有効な活動のトップは「部・クラブ活動の時間」。

▶時系列では「総合的な探究（学習）の時間」が上昇傾向。

- 高校生に対して、経済産業省の定義する『社会人基礎力』を身につけるために有効だと思う活動を尋ねたところ、「部・クラブ活動の時間」（57%）が最も高く、以下「文化祭や体育祭などの学校行事」（51%）、「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」（47%）などが続く。
- 時系列でみると、上位5項目はいずれも2019年と比較して低下しているが、第6位の「総合的な探究（学習）の時間」（34%）は徐々に上昇。今回の調査では「教科の時間（先生による一斉講義型の授業）」（28%）を上回った。

【高校生】必要な能力を身につけるのに有効な活動（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

*1) 2019年以前は選択肢が異なるため時系列データは省略
（「道徳や宗教などの時間」として聴取）

※「2021年属性別」

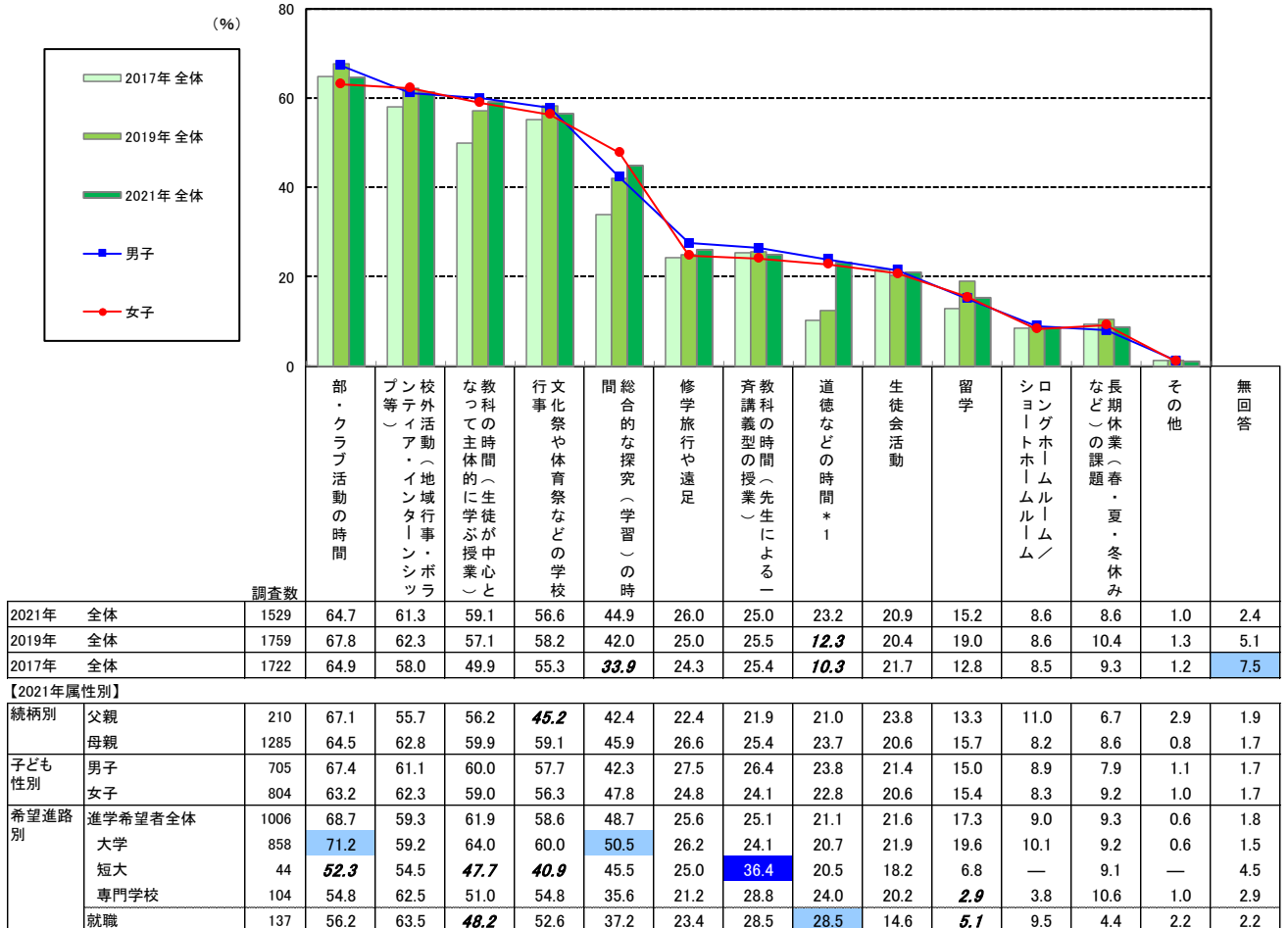
100.0	「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0	「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0	「2021年全体」より10ポイント以上低い

29_K_Q21

- ▶保護者でも、社会人基礎力を身につけるために有効な活動のトップは「部・クラブ活動の時間」。
- ▶時系列では「総合的な探究（学習）の時間」、「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」が上昇傾向。

- 保護者にも同様に、社会人基礎力を身につけるために有効だと思う活動を尋ねたところ、「部・クラブ活動の時間」（65%）が最も高く、次いで「校外活動（地域行事・ボランティア・インターンシップ等）」（61%）、「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」（59%）、「文化祭や体育祭などの学校行事」（57%）などが50%を超える。
- 時系列でみると、「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」や「総合的な探究（学習）の時間」が上昇。アクティブ・ラーニングや探究学習などでの学びが、将来社会で役立つ能力を身につけるのに有効だと認識されつつあるといえる。

【保護者】必要な能力を身につけるのに有効な活動（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート
 *1) 2019年以前は選択肢が異なるため時系列データは省略
 （「道徳や宗教などの時間」として聴取）

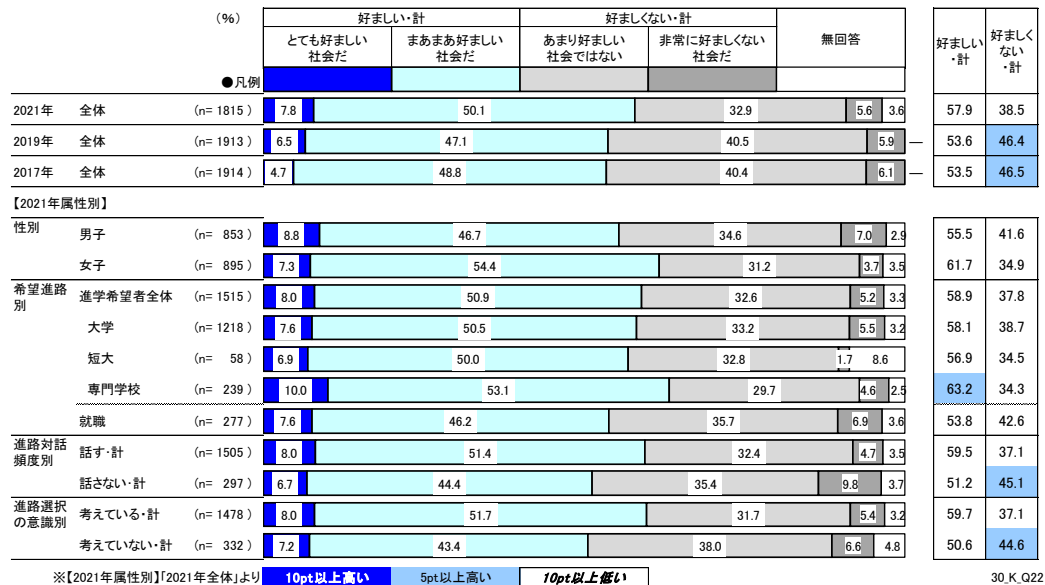
※【2021年属性別】
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

30. 未来社会への認識：これからの社会は好ましいか／そう思う理由

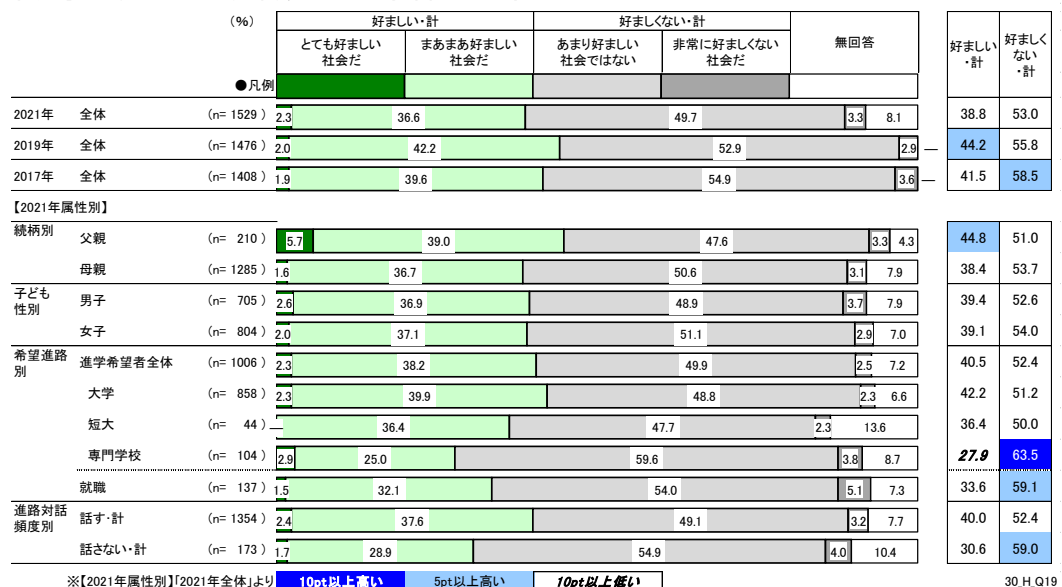
▶ 高校生の58%、保護者の39%が、これからの社会は高校生にとって「好ましい」と回答。

- 高校生に対し、これからの社会が自分にとって好ましい社会だと思うかを尋ねたところ、「とても好ましい社会だ」が8%、「まあまあ好ましい社会だ」が50%を占め、合計では58%が好ましいと回答した。
- 時系列でみると「とても好ましい社会だ」が増加しており、合計でも2019年と比較して4ポイント増加した。
- 保護者では「好ましい・計」（39%）が高校生よりも低く、時系列でもやや減少した。
- 高校教員でも「好ましい・計」が60%を占めており、高校生とほぼ同程度。
- 高校生や教員に比べて、保護者のスコアが低く、今後の見通しについて楽観視していないことがわかる。

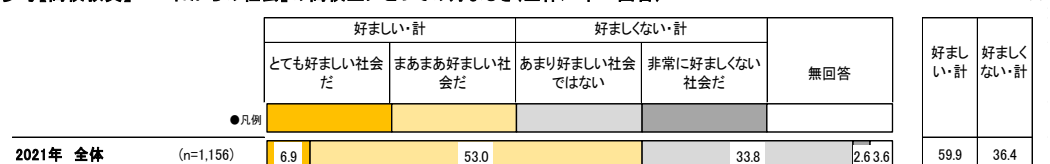
【高校生】これからの社会は好ましいか（全体／単一回答）



【保護者】子どもにとって、これからの社会は好ましいか（全体／単一回答）計



参考【高校教員】「これからの社会」の高校生にとっての好ましき（全体／単一回答）



※出典：リクルート進学総研（2021年）. 高校教育改革に関する調査2021

30_教師Q23

▶<フリーコメント> これからの社会への認識の理由【高校生】

・とても好ましい

- ・1人1人の考え方を発信できる社会で、新しいことが次々に起こると思うから。[茨城県/女子/大学]
- ・これから先、より1人1人の個性を尊重した社会になると思うから。[島根県/女子/大学]
- ・コロナもあり、何もかもが新しく、それによって自分の力がためられそうだから。[島根県/男子/大学]
- ・ダイバシティも認められるし、必要な基本的な情報などもすぐに手に入る。共通の思想を持った人たちともコミュニケーションがとれる。その他、たくさん。[島根県/男子/大学]
- ・格差問題であったり、いろいろ問題はあったりするが、世界は確実によくなっていると思うから。[茨城県/男子/大学]
- ・差別されることなく個人個人が力を発揮できると思うから。[山形県/女子/専門学校]
- ・インターネットの普及によって、今まで専門的で、一般の人ができなかったことでもできるようになることが増えると思うから。[茨城県/男子/大学]
- ・実力があれば自分を高めていける社会だと思うから。[茨城県/女子/大学]

・まあまあ好ましい

- ・昔よりも自分の将来や生き方を自由に選択できるようになったが、その分同時に責任も大きくなった。[北海道/女子/大学]
- ・ストレスなどが多発するところは良くないが、生活をする上では便利なことが多いから。[山形県/女子/大学]
- ・グローバル化や国際化が進んでいるので差別のない社会になると思うから。[和歌山県/女子/大学]
- ・交通の利便さや生活のしやすさは良いが、男女平等の問題などはまだまだ残ると思うからです。[和歌山県/女子/大学]
- ・さまざまな個性が認められたり、便利なことも多くなったりするのは良いと思うが、自分のように平凡な人間には何かできることがないといけないのではないかと思ひ辛くなるから。[島根県/女子/大学]
- ・新型コロナウイルスのため、ウイルスの分だけ好ましいとは思わない。[北海道/女子/大学]

・あまり好ましくない

- ・AIなどの進化により、多くの仕事が失われる可能性があるから。[沖縄県/女子/大学]
- ・ICTがうまく使えないから。[茨城県/男子/大学]
- ・どんどん経済が下落到ちていくのと、社会問題が多すぎるから。[島根県/男子/専門学校]
- ・ニュースなどを見る限り頼りない政治のイメージがあるから。[和歌山県/男子/専門学校]
- ・パワハラ、セクハラ、自殺のニュースよく見る。[和歌山県/女子/専門学校]
- ・より優秀な人しか社会に受け入れてもらえなさそう。[新潟県/女子/就職]
- ・コロナウイルスでいろいろ制限される日々が続くと思うから。[新潟県/女子/大学]

・非常に好ましくない

- ・少子高齢化のあおりを一番受けるから。[沖縄県/男子/大学]
- ・高齢化が進みこれから経済的に厳しくなっていくから生きていくのが大変だから。[山形県/男子/大学]
- ・教育・技術革新など、未来を切り開く分野への金回りが少ない。[三重県/男子/大学]
- ・コロナの影響で先がまったくみわたせないから。[新潟県/女子/専門職大学]
- ・人の揚げ足ばかりとって本当に伝えて欲しいことは何一つ伝えてくれない。[山形県/女子/大学]

▶<フリーコメント> これからの社会への認識の理由【保護者】

・とても好ましい

- ・AIの発達などにより職種が増えた。[東京都/父親/男子/大学]
- ・職業や生き方含めて多様性を認める社会になってきているから。[東京都/母親/女子/大学]
- ・昔より一方的な授業がなくなり自主性をのばす取り組みが増えていて良いと思う。[東京都/母親/男子/大学]
- ・創造力を生かして今までになかったものをつくっていくようなことができそうだから。[島根県/母親/女子/大学]

・まあまあ好ましい

- ・以前より情報収集や発信が安易なこと。いろいろな価値観を認めていること。社会的価値観の変化していること。[山形県/母親/女子/大学]
- ・少しずつではあるが、女性が働き続けやすい環境が整ってきている。[山形県/母親/女子/大学]
- ・多様性が受け入れられる社会となりつつあるから。[東京都/母親/男子/大学]
- ・自分をしっかり持っていないと流されストレスが多くなる。でも自分なりの目標、目的などを持って生きていくことで自分の自信につながっていくと思うから。[新潟県/母親/女子/就職]
- ・情報を自分で調べて得ることができる。が理解力や行動力が必要なのでやる気を出して欲しい。[山形県/母親/男子/無回答]
- ・大きな会社に属さなくても、いろいろな就業体制、職種で活躍できるような社会になったように感じるから。[東京都/母親/男子/子の希望なら何でも]

・あまり好ましくない

- ・コロナや地球温暖化など社会的にどんどん大変になっていくだろうと思う。[新潟県/母親/女子/子の希望なら何でも]
- ・人口減少・高齢化社会、ネット社会・ストレス・地域格差・自然環境・道徳力の低下。低賃金。[山形県/母親/女子/大学]
- ・環境問題や少子高齢化など、ひっ迫した課題が山積みで、IT技術が進み、職業の選択肢がへっていく気がするから。[東京都/母親/女子/大学]
- ・この国自体が今後どのようになるかわからないし、少子高齢化に歯止めがかからず、子ども達が負担を背負う気がするから。[茨城県/母親/男子/大学]
- ・現在人間が就いている職業がAI等にも場所を奪われ、限られた人間に限られた職業にしか就けない社会になるのではないかとと思うから。[三重県/母親/女子/大学]
- ・SNSなどのコミュニケーションツールが発達して、孤立化、自分主張が強く出る、など諸刃な部分が多いと感じる。発信力が必須と感じる。[三重県/父親/男子/子の希望なら何でも]
- ・給料が上がっても手取りが上がらない生活が続くので、やりがいが無くなっていく。[北海道/母親/男子/大学]
- ・社会の変化のスピードが速く、ついてゆくのが難しそう。対人関係を結ぶことが難しくストレスが多くなりそう。[北海道/母親/女子/大学]
- ・大人が子どもに見本をみせれるような人がらではなく明るい未来をみせてあげられる社会でない。[和歌山県/母親/女子/大学]

・非常に好ましくない

- ・コロナによるパンデミックで全世界がかわる気がする。日本経済だけではなく世界全体的に欲にまみれた時代が来て自分自身さえもたす事がむずかしい時代 金持ちだけが生きのこれる時代。[沖縄県/母親/男子/大学]
- ・現状維持すら難しい世の中でこの先明るい未来が来るとは到底思えない。[三重県/母親/女子/子の希望なら何でも]
- ・若者が非常に生きづらい社会が予測される（理由）超少子高齢化社会、covid-19の経済的打撃から、年金や税金等の負担が大きく、working poorの社会となり若者の希望がもちににくくなるのでは？と心配です。[沖縄県/母親/男子/大学]

Ⅳ 教育改革の評価と高校での対応状況

31. 教育改革への期待と不安

- ▶ 高校生からみて期待度が高い“教育改革”内容は、【高校の教育】や【大学の教育】に関するもの。
- ▶ 一方で【入学者選抜】の不安度が高い。特に英語の「聞く」技能、「主体性」、「思考力・判断力」など、これまでにない評価軸に対しての不安が大きい。
- ▶ また、「高校と大学、専門学校が連携を深め、生徒の学びがより繋がっていく」高大接続に対しては66%が期待を寄せるなど、期待が不安を大きく上回っている。
 - 高校生に対して、教育改革の内容についてどのように感じているかを尋ねた。
 - ※ なお【高校の教育】に関しては高校生全員、【入学者選抜】【大学の教育】に関しては専門職大学・短大を含む大学・短大進学希望者に尋ねた。
 - ※ 「期待・計」＝期待できる＋不安はあるが期待が大きい
 - ※ 「不安・計」＝不安である＋期待はあるが不安が大きい
- 【高校の教育】については、すべての項目で「期待・計」のスコアが50%を超えており、過半数が期待を示している。とりわけ「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」(66%)への期待度が高い。
- また、【大学の教育】に関しても期待度が高く、大学・短大進学希望者の66%が「高校と大学、専門学校が連携を深め、生徒の学びがより繋がっていく」ことに期待すると回答。この項目については、「期待できる」とする割合が41%と特に高い。
- 一方、【入学者選抜】については、「総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜(推薦入試)でも、学力評価が必須となる」(47%)、「調査書が変わり、『学力の3要素』すべての評価が記載される」(46%)では「期待・計」が50%近くを占めるものの、それ以外では「不安・計」の割合が50%前後を占め、「期待・計」を上回っている。特に「英語はリーディング(100点)とリスニング(100点)の出題となり、これまでより『聞く』技能が重視される」(51%)についての不安度が高い。
- 教育改革の内容について、期待すること、不安なことを自由回答で尋ねたところ、期待することとしては、「一人ひとりの進度に合わせて学習できる」「自分たちで考えることで学力が伸びる」など、学力を伸ばしやすい環境を歓迎する意見が多くみられた。また、入試に関しても「思考力・判断力」が重視されることについても、「社会に出ていくときかなり重要だと思う」と前向きに受け止める意見が散見された。
- 一方で、不安なこととしては、英語の試験(リスニングなど)に関するものや、思考力や判断力を入試の合格基準としてどのように測定し適用されるのかといった、大きく変化する入試制度や評価基準に対応しなければならない不安感が反映された意見が多い。
 - ※ フリーコメントは61ページに掲載

【高校生】教育改革の内容への期待と不安（【高校の教育】全体、【入学者選抜】【大学の教育】大学・短大進学希望者／各単一回答）

【高校の教育】=(n=1815) 【入学者選抜】【大学の教育】=(n=1276)		(%)	期待・計		不安・計		わからない	無回答		期待・計	不安・計	期待・計- 不安・計の 差
			期待できる	不安はあるが 期待が大きい	期待はあるが 不安が大きい	不安である						
			●凡例									
高校の 教育	B	ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる	37.1	29.3	14.4	7.4	10.5	1.2	66.4	21.9	44.6	
	C	生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される	28.4	30.1	18.7	9.9	11.7	1.3	58.5	28.6	29.9	
	A	先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる	27.5	29.2	20.2	8.8	13.2	1.2	56.7	28.9	27.8	
	D	学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる「ポートフォリオ」が導入される	26.6	26.7	16.3	8.2	20.9	1.3	53.3	24.5	28.9	
入学者 選抜	H	総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜(推薦入試)でも、学力評価が必須となる	23.8	23.2	18.7	17.2	14.3	2.7	47.0	35.9	11.1	
	I	調査書が変わり、「学力の3要素」すべての評価が記載される	21.5	24.8	19.7	17.6	13.0	3.4	46.2	37.3	8.9	
	F	英語はリーディング(100点)とリスニング(100点)の出題となり、これまでより「聞く」技能が重視される	19.2	20.6	18.3	32.4	6.7	2.8	39.8	50.6	-10.8	
	E	「大学入試センター試験」が「大学入学共通テスト」に変わり、より「思考力・判断力」が必要なテストになる	18.3	21.0	21.0	27.1	10.0	2.7	39.3	48.1	- 8.9	
大学の 教育	G	各大学の個別入試では、筆記試験に加えて小論文や面接、ポートフォリオなどで主体性が評価される	16.5	20.5	22.0	26.6	11.8	2.7	36.9	48.6	-11.7	
	K	高校と大学、専門学校が連携を深め、生徒の学びがより繋がっていく	41.0	24.9	12.1	6.3	12.8	3.0	65.9	18.3	47.6	
	J	大学が、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)等を策定・公表し、それに基づいた入学者選抜が実施される	24.5	23.1	17.2	12.1	20.2	3.0	47.6	29.2	18.3	

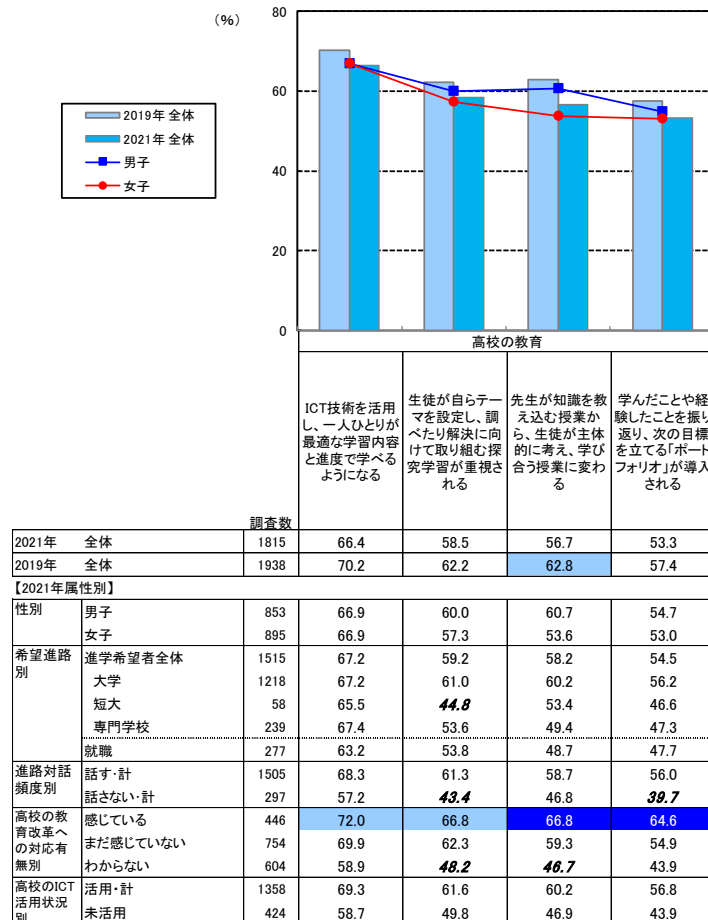
※カテゴリごと「期待・計」降順ソート

▼以下を提示したうえで教育改革の内容に対する気持ちを尋ねた。

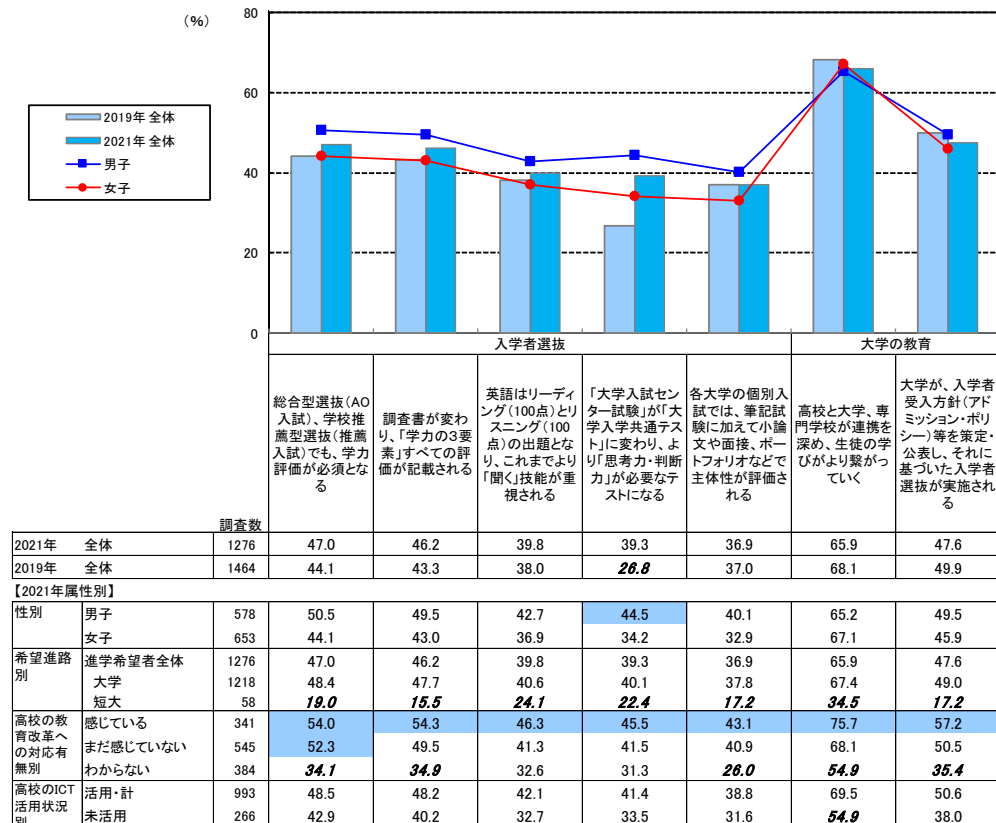
・予測困難なこれからの時代の中を生きていくのに必要な力を身に付けるために、現在、「高校教育」「大学教育」そしてその間をつなぐ「入学者選抜」を一体的に変える教育改革が進められています。これからの教育は、以下の3点で構成される新しい「学力の3要素」を育成し、それを「入学者選抜」ではかり、進学した先でさらにそれを伸ばすことが重視されるようになります。

新しい「学力の3要素」→ ①知識・技能、②思考力・判断力・表現力 ③主体性・多様性・協働性

【高校生】教育改革の内容への期待と不安【高校の教育】（全体／各単一回答「期待・計」）



【高校生】教育改革の内容への期待と不安【入学者選抜】【大学の教育】（大学・短大進学希望者／各単一回答「期待・計」）



- ▶保護者からみて期待度が高い“教育改革”内容は、【高校の教育】や【大学の教育】に関するもの。
- ▶一方で【入学者選抜】の不安度が高い。特に「大学入学共通テスト」切り替えへの不安が大きい。
- ▶また、高校生同様、「高校と大学、専門学校が連携を深め、生徒の学びがより繋がっていく」高大接続に対しては67%が期待を寄せるなど、期待が不安を大きく上回っている。

●保護者に対しても、教育改革の内容についてどのように感じているかを尋ねた。

- ※なお【高校の教育】に関しては保護者全員、【入学者選抜】【大学の教育】に関しては、子どもの大学・短大への進学を希望する者（専門職大学・短大を含む）に尋ねた。
- ※「期待・計」＝期待できる＋不安はあるが期待が大きい
- ※「不安・計」＝不安である＋期待はあるが不安が大きい

●【高校の教育】については、すべての項目で「期待・計」のスコアが60%を超えており、高校生以上に期待度が高い。最も高いのは「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」（66%）。

●また、【大学の教育】に関しても期待度が高く、大学・短大進学希望者の68%が「高校と大学、専門学校が連携を深め、生徒の学びがより繋がっていく」ことに期待すると回答した。

●一方、【入学者選抜】については、「総合型選抜（AO入試）、学校推薦型選抜（推薦入試）でも、学力評価が必須となる」（50%）、「調査書が変わり、『学力の3要素』すべての評価が記載される」（43%）では「期待・計」が「不安・計」を上回るものの、それ以外では「不安・計」の割合が50%以上を占め、「期待・計」を上回っている。特に「『大学入試センター試験』が『大学入学共通テスト』に変わり、より「思考力・判断力」が必要なテストになる」（55%）についての不安度が高い。

●教育改革の内容について、期待すること、不安なことを自由回答で尋ねたところ、期待することとしては、主体性を伸ばし、思考力や判断力を身につけることができる点や、新たな能力を獲得できる可能性について評価する意見の他、高大連携に期待する意見が多くみられる。

●一方で、不安なこととしては、“主体性”や“発信力”が不足している子どもが、学習や入試に適応していけるかを不安視する意見がみられた。

－フリーコメントは61ページに掲載

【保護者】教育改革の内容への期待と不安（【高校の教育】全体、【入学者選抜】【大学の教育】大学・短大進学希望者／各単一回答）

【高校の教育】(n=1529) 【入学者選抜】【大学の教育】(n=902)		期待・計		不安・計		わからない	無回答		期待・計	不安・計	期待・計- 不安・計 の差
		期待できる	不安はあるが 期待が大きい	期待はあるが 不安が大きい	不安である						
●凡例											
高校の 教育	C	生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学 習が重視される	28.6	37.1	21.1	4.8	6.1	2.2	65.7	26.0	39.8
	D	学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる「ポートフォ リオ」が導入される	28.8	32.7	19.6	4.0	12.2	2.7	61.5	23.6	37.9
	B	ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるよう になる	24.5	37.0	24.5	4.8	6.8	2.4	61.5	29.4	32.1
	A	先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授 業に変わる	21.3	39.8	25.8	4.7	6.1	2.2	61.2	30.5	30.7
入 学 者 選 抜	H	総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜(推薦入試)でも、学力評価 が必須となる	19.3	30.7	25.6	11.2	9.8	3.4	50.0	36.8	13.2
	I	調査書が変わり、「学力の3要素」すべての評価が記載される	13.5	29.8	27.8	13.6	10.9	4.3	43.3	41.5	1.9
	F	英語はリーディング(100点)とリスニング(100点)の出題となり、これ までより「聞く」技能が重視される	13.4	26.5	27.7	22.9	6.0	3.4	39.9	50.7	-10.8
	G	各大学の個別入試では、筆記試験に加えて小論文や面接、ポート フォリオなどで主体性が評価される	11.2	26.9	29.6	21.7	7.1	3.4	38.1	51.3	-13.2
	E	「大学入試センター試験」が「大学入学共通テスト」に変わり、より「思 考力・判断力」が必要なテストになる	9.9	24.6	34.4	20.3	7.4	3.4	34.5	54.7	-20.2
大 学 の 教 育	K	高校と大学、専門学校が連携を深め、生徒の学びがより繋がってい く	33.0	34.7	15.5	3.4	9.8	3.5	67.7	19.0	48.8
	J	大学が、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)等を策定・公表 し、それに基づいた入学者選抜が実施される	16.4	30.7	24.6	10.9	13.7	3.7	47.1	35.5	11.6

※カテゴリごと「期待・計」降順ソート

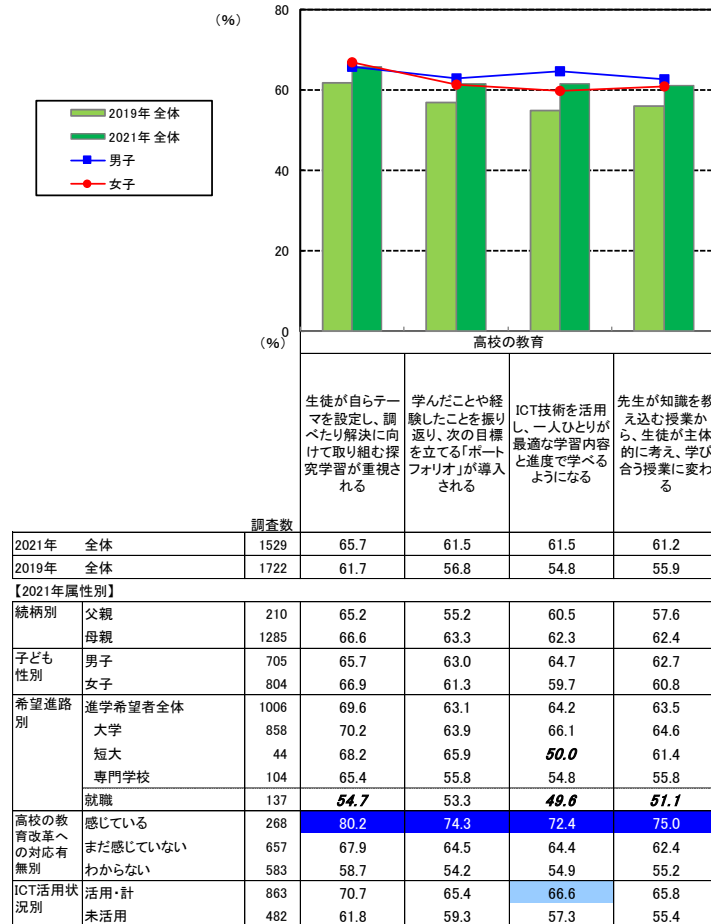
31_H_Q20

▼以下を提示したうえで教育改革の内容に対する気持ちを尋ねた。

・予測困難なこれからの時代の中を生きていくのに必要な力を身に付けるために、現在、「高校教育」「大学教育」そしてその間をつなぐ「入学者選抜」を一体的に変える教育改革が進められています。これからの教育は、以下の3点で構成される新しい「学力の3要素」を育成し、それを「入学者選抜」ではかり、進学した先でさらにそれを伸ばすことが重視されるようになります。

新しい「学力の3要素」→ ①知識・技能、②思考力・判断力・表現力 ③主体性・多様性・協働性

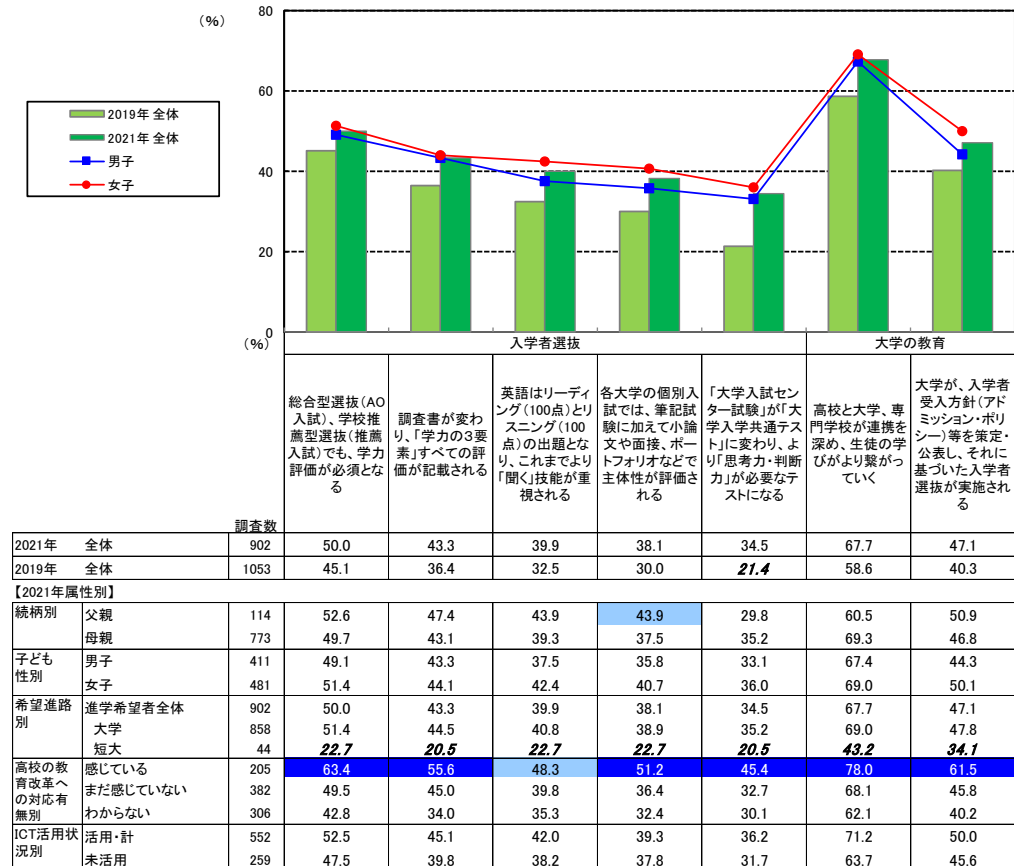
【保護者】教育改革の内容への期待と不安【高校の教育】（全体／各単一回答「期待・計」）



※ カテゴリごと「2021年全体」降順ソート

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い 31_H_Q20-1

【保護者】教育改革の内容への期待と不安【入学者選抜】【大学の教育】（大学・短期大学進学希望者／各単一回答「期待・計」）



※ カテゴリごと「2021年全体」降順ソート

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い 31_H_Q20-2

▶＜フリーコメント＞教育改革について期待すること／不安なこと【高校生】

●期待すること

▼高校の教育

- ・教師から教えられるだけではなく自分たちで考えることで学力が伸びると思う。[山形県/男子/大学]
- ・学力だけでなく、様々な力を育てることができるようになること。[島根県/女子/大学]
- ・高校で専門的なことを体験できれば、進路選択の材料にできる。[和歌山県/女子/大学]
- ・ICT技術を活用して、ひとりひとりに合った進度で学べるのは期待できる。[新潟県/女子/大学]
- ・ひとりひとりが最適な環境で学べるようになること。[新潟県/女子/大学]
- ・自律性、主体性が向上すること。[和歌山県/女子/大学]
- ・自分たちで主体的に取り組むこと。[沖縄県/男子/大学]

▼入学者選抜

- ・記述式で思考力などを問うのはより深い学びが評価され良いと思う。[山形県/女子/大学]
- ・実際に生活で活用する力を入試で問われるのがいいと思う。[和歌山県/女子/大学]
- ・それぞれの大学により適した人が入学できる。[東京都/女子/大学]
- ・AO入試で学力評価が必須なこと。[新潟県/男子/大学]
- ・高校と大学が協力すること。推薦入試でも学力試験を行うこと。[山形県/女子/大学]

▼大学の教育

- ・アドミッション・ポリシーの策定等により、自分に合った大学を選べる。[茨城県/男子/大学]
- ・高校と大学、専門学校が連携を深めて、上の学校の様子を詳しく知れるようになる。[沖縄県/女子/大学]

●不安なこと

▼高校の教育

- ・教育にICTなどの機器を導入するのはいいが、生徒の脳の働きに考慮しているかという点。[島根県/女子/大学]
- ・ICT機器があまりない。[山形県/男子/大学]
- ・生徒主体の授業で、生徒は一生懸命準備してきたのに、生徒を批判し olmayan 先生がいるので、発表するのが怖くなった。[三重県/女子/大学]
- ・先生・学校の設備が対応できるのか。[和歌山県/女子/大学]

▼入学者選抜

- ・思考力がしっかり適正に測れるか。[三重県/無回答/大学]
- ・AO入試などでも学力評価が必須になる。[和歌山県/女子/大学]
- ・ちゃんと入試形態を決めてほしい。[和歌山県/女子/大学]
- ・英語のリスニングやスピーキングの入試。[東京都/男子/大学]
- ・リスニングが苦手。[東京都/女子/大学]
- ・記述の多い入試問題が増えることで、採点基準等が曖昧になる不安がある。[東京都/女子/大学]
- ・小論文、面接、ポートフォリオによる主体性の評価。[三重県/男子/大学]
- ・共通テストに変わりリスニングが増えたこと。[新潟県/男子/大学]
- ・学力だけでなくその人の特性をどう判断するのか。[三重県/女子/大学]
- ・新しい入試制度に対応できるか不安。[東京都/男子/大学]

▶＜フリーコメント＞教育改革について期待すること／不安なこと【保護者】

●期待すること

▼高校の教育

- ・ほんとうに学びたいと思う者に、場やチャンスを与える方向になってほしい。[島根県/母親/男子/大学]
- ・やりたいこと、学びたいことを追求できる場がもっと自由に選択できるようになれば良い。[東京都/母親/女子/大学]
- ・思考力が高まること、主体的学び。[沖縄県/母親/男子/大学]
- ・海外のように主体性や個性を大事にし、苦手克服より得意を伸ばすようになること。[山形県/その他/女子/子の希望なら何でも]
- ・学力向上。[山形県/父親/女子/大学]
- ・将来の目指す職業や専門性にFocusした子どもの個性に合った学び、深い学びができる。[沖縄県/母親/男子/大学]

▼入学者選抜

- ・学校推薦は、しっかりと学力評価がされる事。[山形県/母親/女子/大学]
- ・学力以外の優れた部分を評価。[山形県/母親/男子/大学]
- ・学力重視から個人の主体性重視に変わること、社会でも通用する。[北海道/母親/男子/就職]

▼大学の教育

- ・高校が大学の特性を知り、生徒に細かい情報提供ができる。[茨城県/母親/女子/子の希望なら何でも]
- ・高校で探究学習した事を大学でも続けて学べる様、エスカレーター推薦の様な仕組みができると良い。[三重県/母親/女子/大学]
- ・高校と大学は全くの別物ととらえてきたので、そのつなぎとなる入学者選抜で、個人の能力がより活かせられたらよい。[三重県/母親/女子/大学]

●不安なこと

▼高校の教育

- ・各々最適な学習内容と進度で学ぶ＝学力格差が広がると思う。[北海道/母親/男子/就職]
- ・保護者のわからない事が増え、犯罪など人間の死に至らないと良いが…。ついていけない人が格差にならないと良いが…。[山形県/母親/女子/短大]
- ・改革の狭間世代になりプログラミングや英語スキルなど学べなかったことによる差別など生じないか。[東京都/母親/女子/大学]
- ・消極的な子どもの評価が低くなる。[和歌山県/母親/女子/大学]
- ・先生方も、戸惑ってスムーズに進行するのか、大人の対応が不安…。[山形県/母親/女子/大学]
- ・どのような授業体制で行い、どのような力がついていくようになるのか未知であるため。[茨城県/母親/男子/大学]

▼入学者選抜

- ・入学者選抜でも、「思考力・判断力」が必要になり、評価も記載される。[山形県/母親/男子/大学]
- ・評価する側、指導する側の質やモラルの低下に不安がある。[和歌山県/母親/女子/大学]
- ・生徒個人の活動をどのように評価して、大学の可否を判定するのか。[茨城県/母親/女子/大学]
- ・調査書等で一律の評価をされる、バランスを求められることに不安を感じる。[東京都/母親/女子/大学]
- ・大学側が適正に評価できるか。[東京都/母親/女子/大学]
- ・大学入試が今までより難しくなるのではという気がしています。[北海道/母親/男子/大学]
- ・親世代が経験していない入試形態。[和歌山県/母親/男子/大学]

32. 高校での教育改革への対応状況

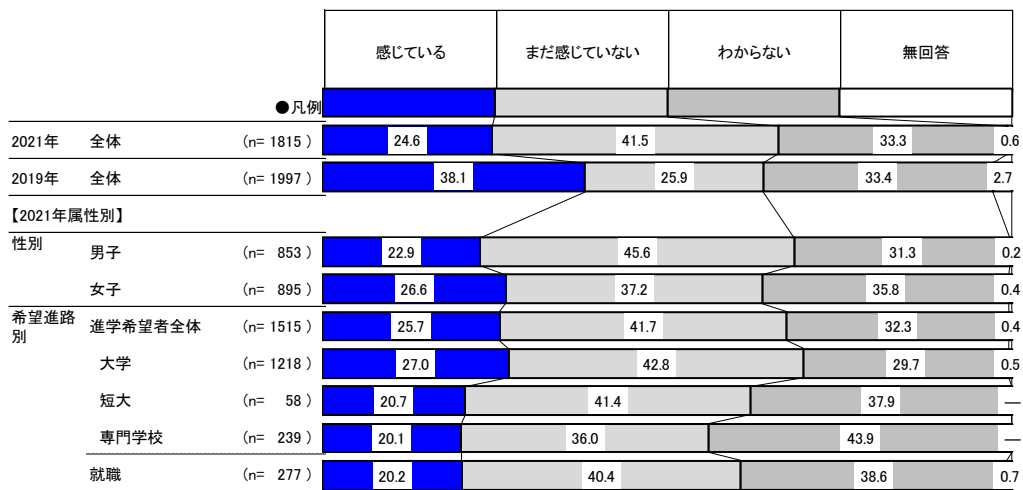
1) 高校での教育改革への対応

▶ 高校生の25%、保護者の18%が、通っている高校が教育改革への対応を行っていると感じている。「感じている」。

▶ コロナ禍における様々な制約のためか、2019年と比較して「感じている」割合は減少。

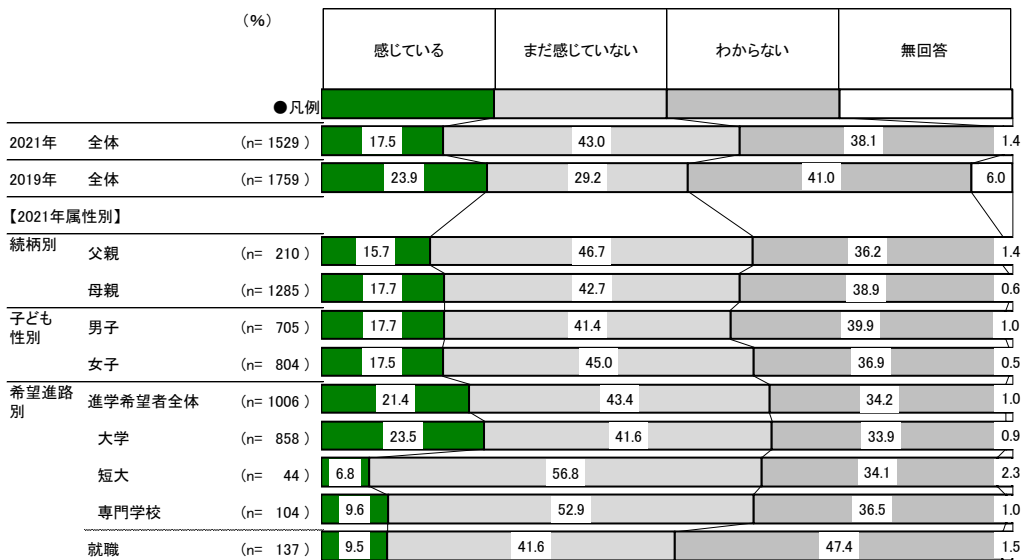
- 通っている高校が教育改革への対応を行っていると感じるかどうかと尋ねたところ、高校生の25%が「感じている」と回答した。
- 性別にみると、女子は男子に比べて「感じている」がわずかに高い。
- 希望進路別にみると、進学希望者全体は就職希望者に比べて「感じている」が高い。
- 同様に保護者にも、子どもが通っている高校が教育改革への対応を行っていると感じるかどうかと尋ねたところ、18%が「感じている」と回答。
- 続柄別にみると、母親が父親に比べて「感じている」がわずかながら高い。
- 希望進路別にみると、進学希望者全体は就職希望者に比べて「感じている」が高いが、大学進学希望者で24%と高く、短大、専門学校進学希望者は就職希望者と同程度の割合となっている。

【高校生】 通っている高校は教育改革への対応を行っていると感じているか（全体／単一回答）



32_K_Q24

【保護者】 子どもが通っている高校は教育改革への対応を行っていると感じているか（全体／単一回答）



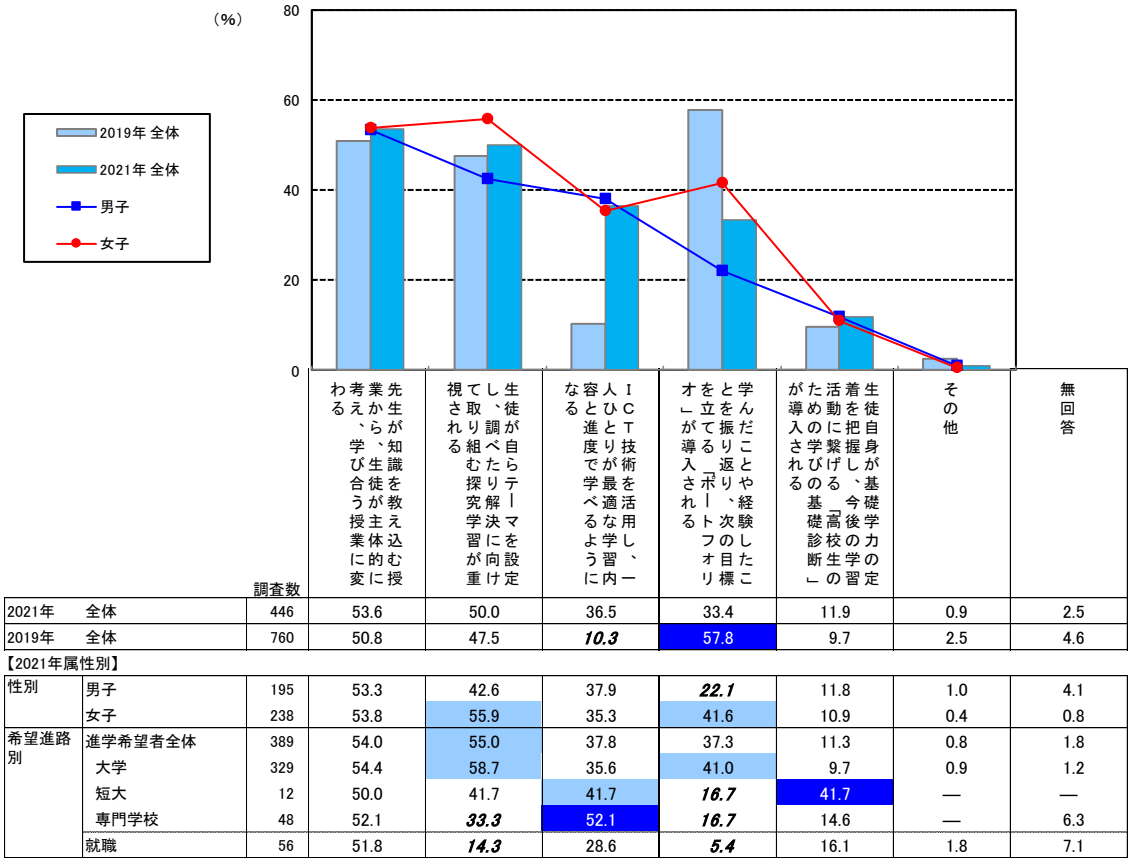
32_H_Q21

2) 通っている高校での教育改革への取り組み内容

▶通っている高校での教育改革の取り組み内容の上位は、「生徒が主体的に考え学びあう授業」や「探究学習」への転換。

- 通っている高校が教育改革への対応を行っていると感じている高校生に、その取り組み内容を尋ねたところ、「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」（54%）、「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」（50%）が50%を超えた。
- 時系列でみると、「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」（37%）は、2019年（10%）から大幅にスコアが上昇した。また、上位2項目についても上昇した。逆に「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる『ポートフォリオ』が導入される」は低下した。
- 性別にみると、女子は男子に比べて「探究学習」「ポートフォリオ導入」が高い。
- 希望進路別にみると、「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」は、すべての層で50%以上となっており、様々なタイプの高校で転換が進んでいることがうかがえる。

【高校生】通っている高校での教育改革への取り組み内容（対応を行っていると感じている）／複数回答

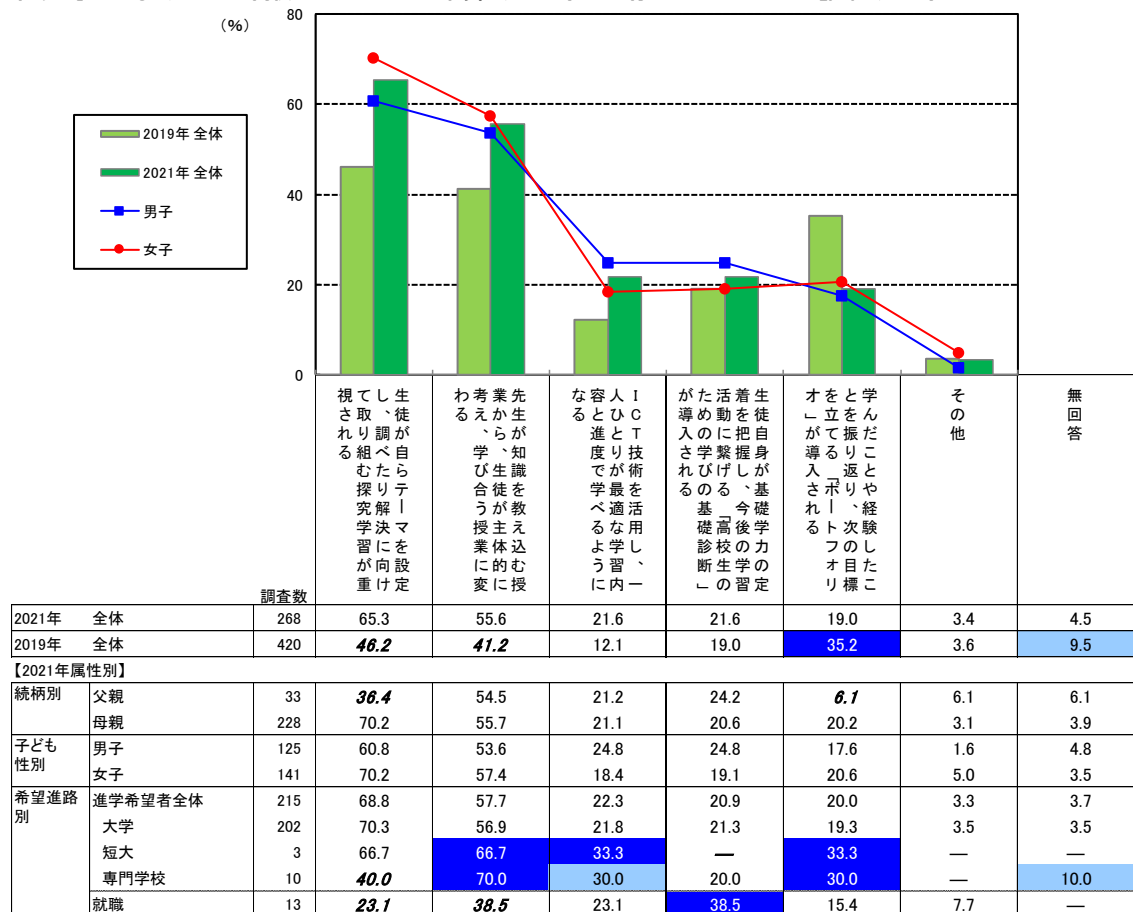


※「2021年全体」降順ソート
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

▶子どもが通っている高校での教育改革の取り組み内容の上位は、「探究学習」や「生徒が主体的に考え学び合う授業」への転換

- 子どもが通っている高校が教育改革への対応を行っていると感じている保護者に、その取り組み内容を尋ねたところ、「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」（65%）「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」（56%）が50%を超えた。
- 時系列でみると、上記の2項目に加え、「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」（22%）は、いずれも2019年と比較して10～20ポイント近くスコアが上昇した。逆に「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる『ポートフォリオ』が導入される」は低下した。
- 続柄別にみると、「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる『ポートフォリオ』が導入される」は父親より母親でスコアが高い。

【保護者】子どもが通っている高校での教育改革への取り組み内容（対応を行っていると感じている）／複数回答



※「2021年全体」降順ソート

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

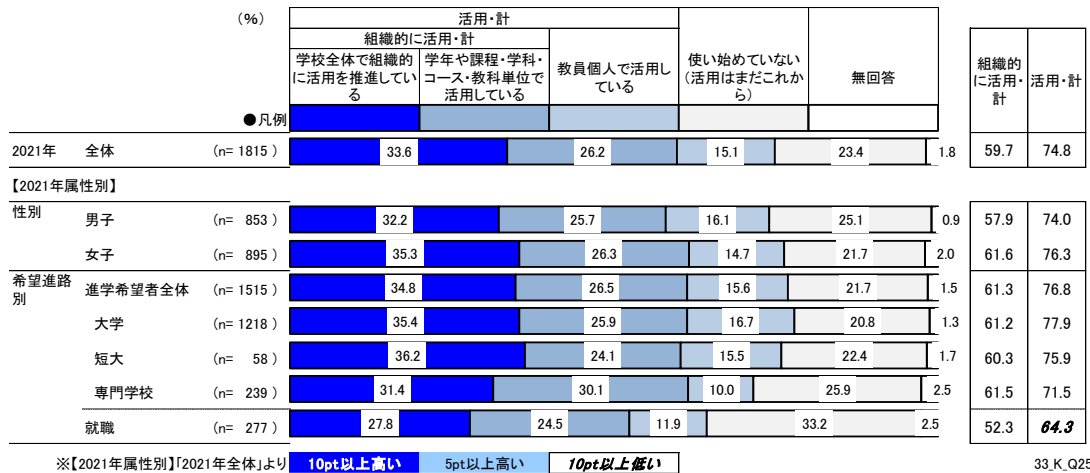
V 教育活動へのICTの活用状況

33. 通っている高校でのICT活用状況

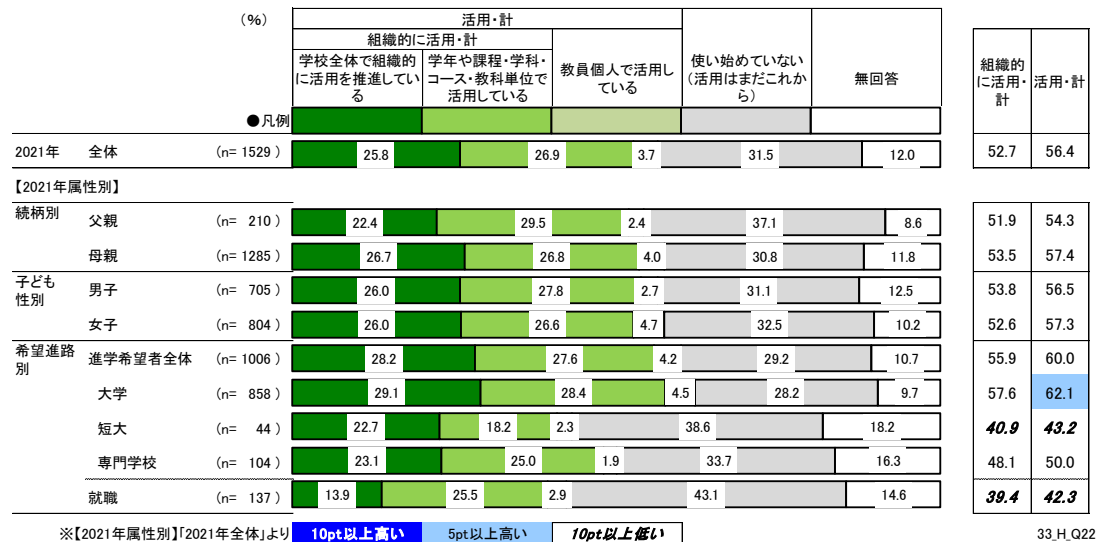
▶ 高校生の75%、保護者の56%が、通っている高校でICTが活用されていると回答。

- 高校生に対して、通っている高校で、授業、ホームルーム、探究などの教育活動にICTが活用されているかを尋ねたところ、「学校全体で組織的に活用を推進している」が34%を占めた。「学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している」（26%）、「教員個人で活用している」（15%）を合わせると、全体の75%が活用していると回答した。
- 保護者にも同様に、子どもが通っている学校でのICT活用について尋ねたところ、「活用・計」が56%。
- 参考として高校教員に対する調査結果をみると、「学校全体で組織的に活用を推進している」が51%を占め、合計では97%が活用していると回答。教員ではほぼすべての学校で活用が進んでいると認識されており、高校生、保護者の認識との間にギャップがみられる。

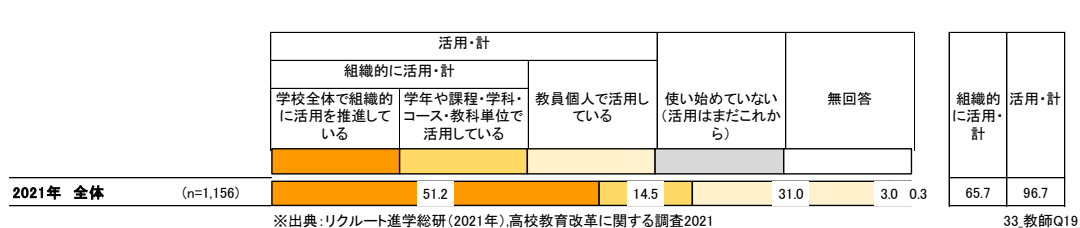
【高校生】 高校でのICT活用状況（全体／単一回答）



【保護者】 高校でのICT活用状況（全体／単一回答）



参考【高校教員】 教育活動へのICT活用状況（全体／単一回答）



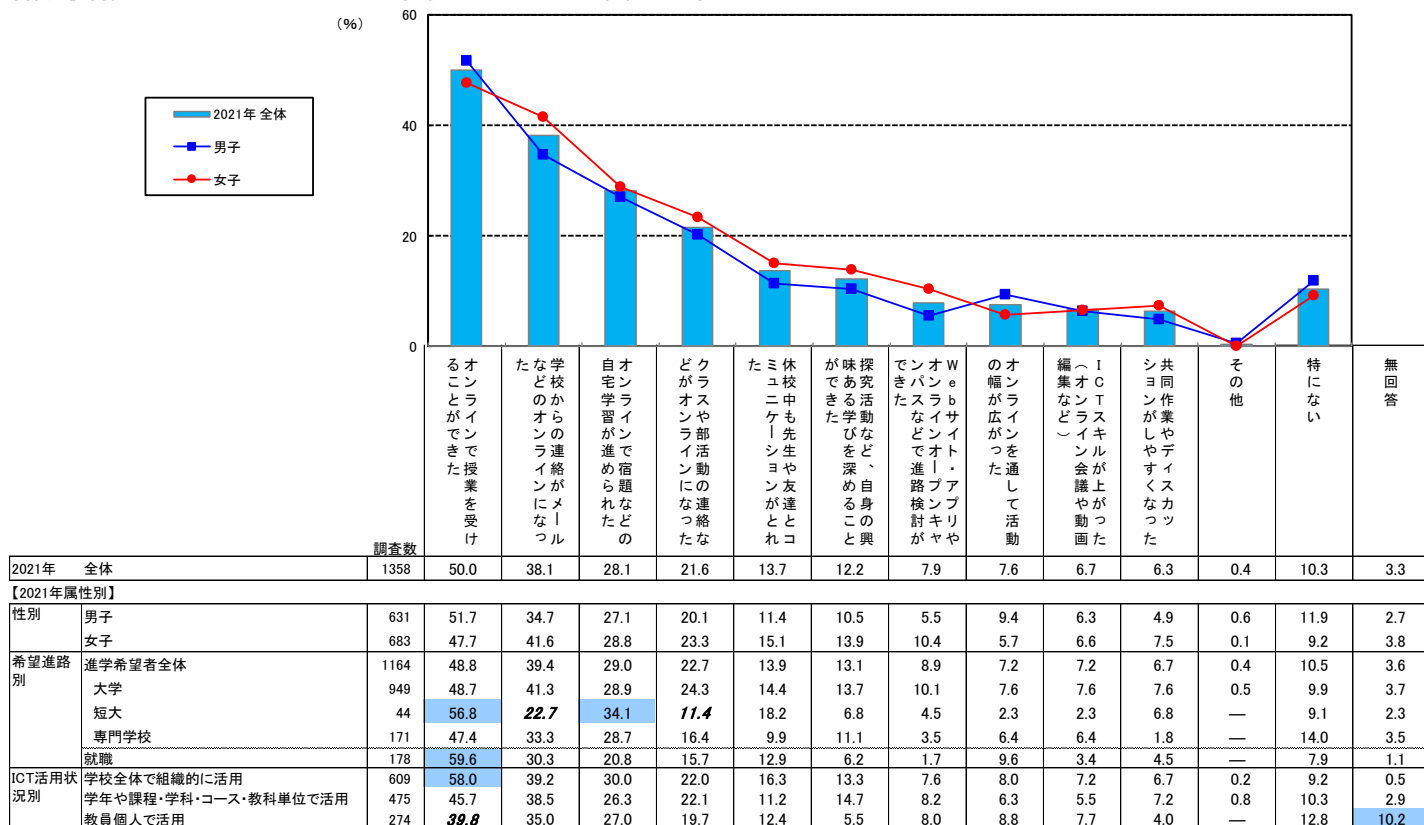
34. ICTの導入について良かった点・悪かった点

1) 高校でのICT活用について良かった点

▶ 高校生にとってICT活用で良かった点は、「オンラインで授業を受けることができた」がトップ。

- 通っている高校でICTを活用していると回答した高校生に対して、良かったと思う点を尋ねたところ、「オンラインで授業を受けることができた」（50%）が最も高く、以下「学校からの連絡がメールなどのオンラインになった」（38%）、「オンラインで宿題などの自宅学習が進められた」（28%）が続く。
- ICT活用状況別にみると、学校全体で組織的に活用されていると回答した層では、58%が「オンラインで授業を受けることができた」と回答しており、他の層との差が大きい。一方、「学校からの連絡がメールなどのオンラインになった」「オンラインで宿題などの自宅学習が進められた」などでは活用状況による差が小さく、連絡や自宅学習については活用状況によらず一定の利用があったことがわかる。

【高校生】高校でのICTの活用について良かった点（学校でICTを活用している／複数回答）

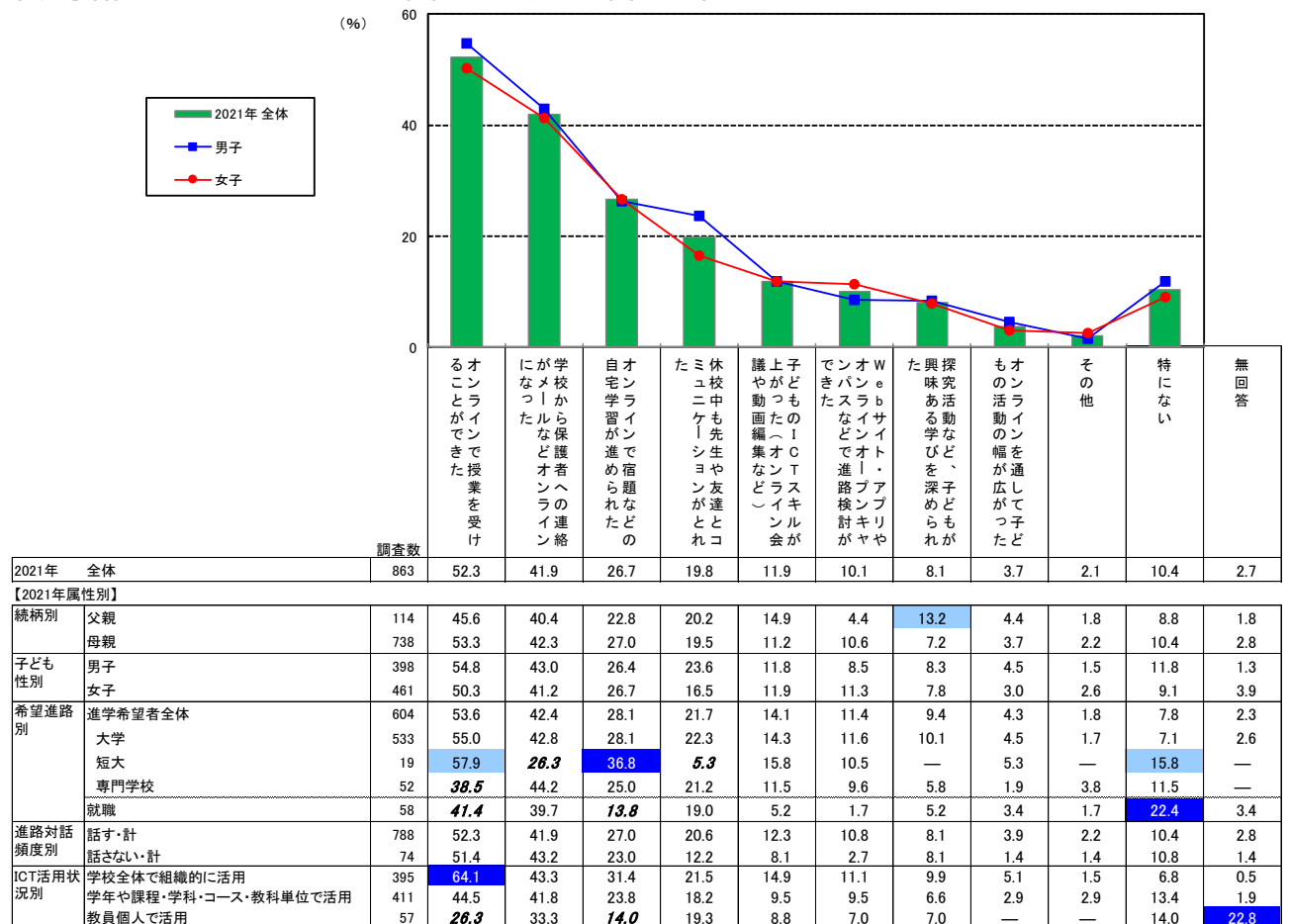


※「2021年全体」降順ソート
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

▶保護者でも、ICT活用で良かった点は「オンラインで授業を受けることができた」がトップ。

- 子どもが通っている高校でICTを活用していると回答した保護者に対して、良かったと思う点を尋ねたところ、「オンラインで授業を受けることができた」（52%）が最も高く、以下「学校から保護者への連絡がメールなどのオンラインになった」（42%）、「オンラインで宿題などの自宅学習が進められた」（27%）が続く。
- ICT活用状況別にみると、学校全体で組織的に活用されていると回答した層では、64%が「オンラインで授業を受けることができた」と回答しており、他の層との差が大きい。「オンラインで宿題などの自宅学習が進められた」についても同様の傾向がみられる。一方、「学校から保護者への連絡がメールなどのオンラインになった」は活用状況による差が小さく、活用状況によらず一定の利用があったことがわかる。

【保護者】高校でのICTの活用について良かった点（学校でICTを活用している／複数回答）



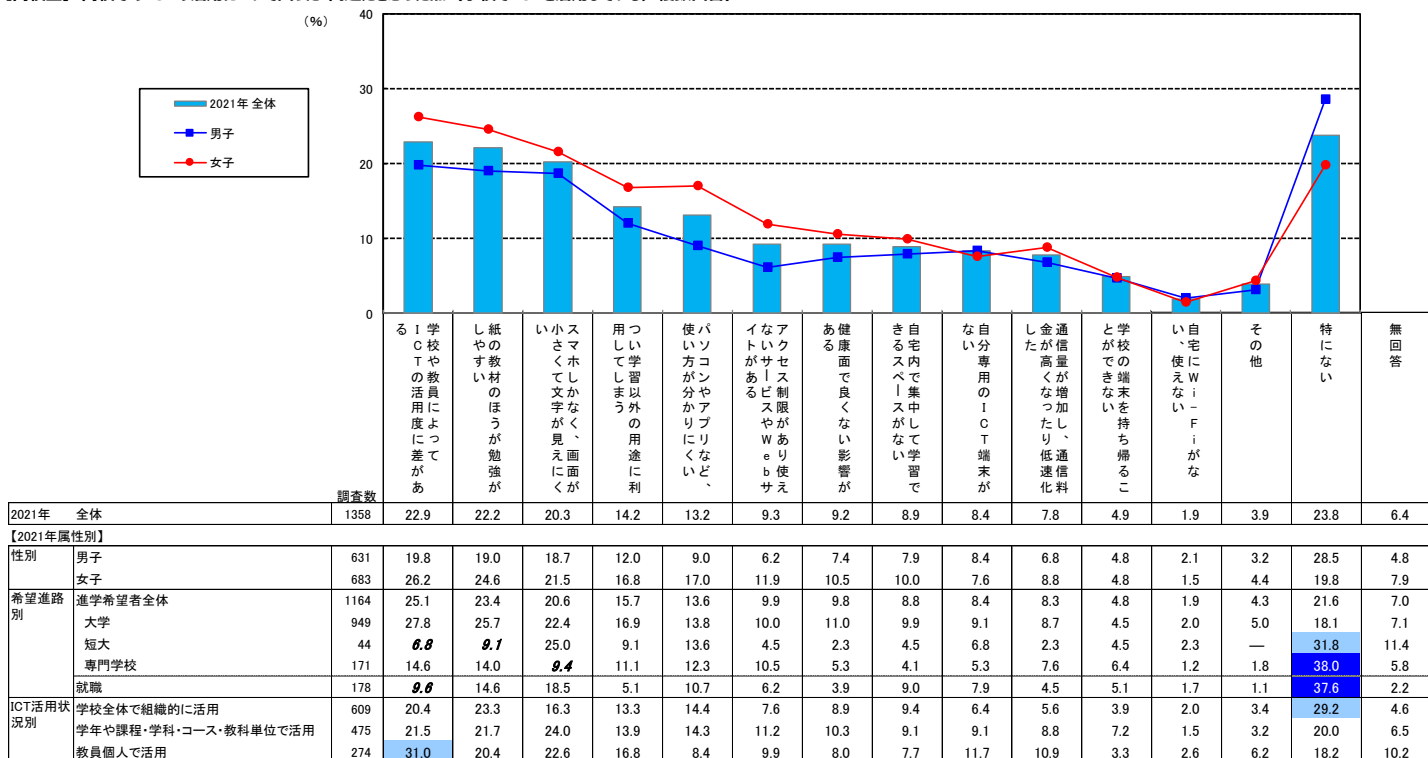
※「2021年全体」降順ソート
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

2) 高校でのICT活用について困った・問題だと思った点

▶ 高校生にとってのICT活用の問題点は、「学校や教員によって活用度に差がある」。次いで「紙の教材のほうが勉強がしやすい」。

- 通っている高校でICTを活用していると回答した高校生に対して、困った点・問題だと思った点を尋ねたところ、「特にない」が24%と最も高かったが、それ以外では「学校や教員によってICTの活用度に差がある」(23%)、「紙の教材の方が勉強がしやすい」(22%)、「スマホしかなく、画面が小さくて文字が見えにくい」(20%)などが上位となった。
- 性別にみると、全体的に女子のスコアが高い。
- 「スマホしかなく、画面が小さくて文字が見えにくい」(20%)、「自分専用のICT端末がない」(8%)などは残るものの、課題の多くは端末や通信といったハードよりも、教員による活用差や自らの勉強のしやすさ、学習以外の用途に利用してしまう、健康への影響など使い方に関するものとなっている。

【高校生】高校でのICTの活用について困った・問題だと思った点（学校でICTを活用している／複数回答）

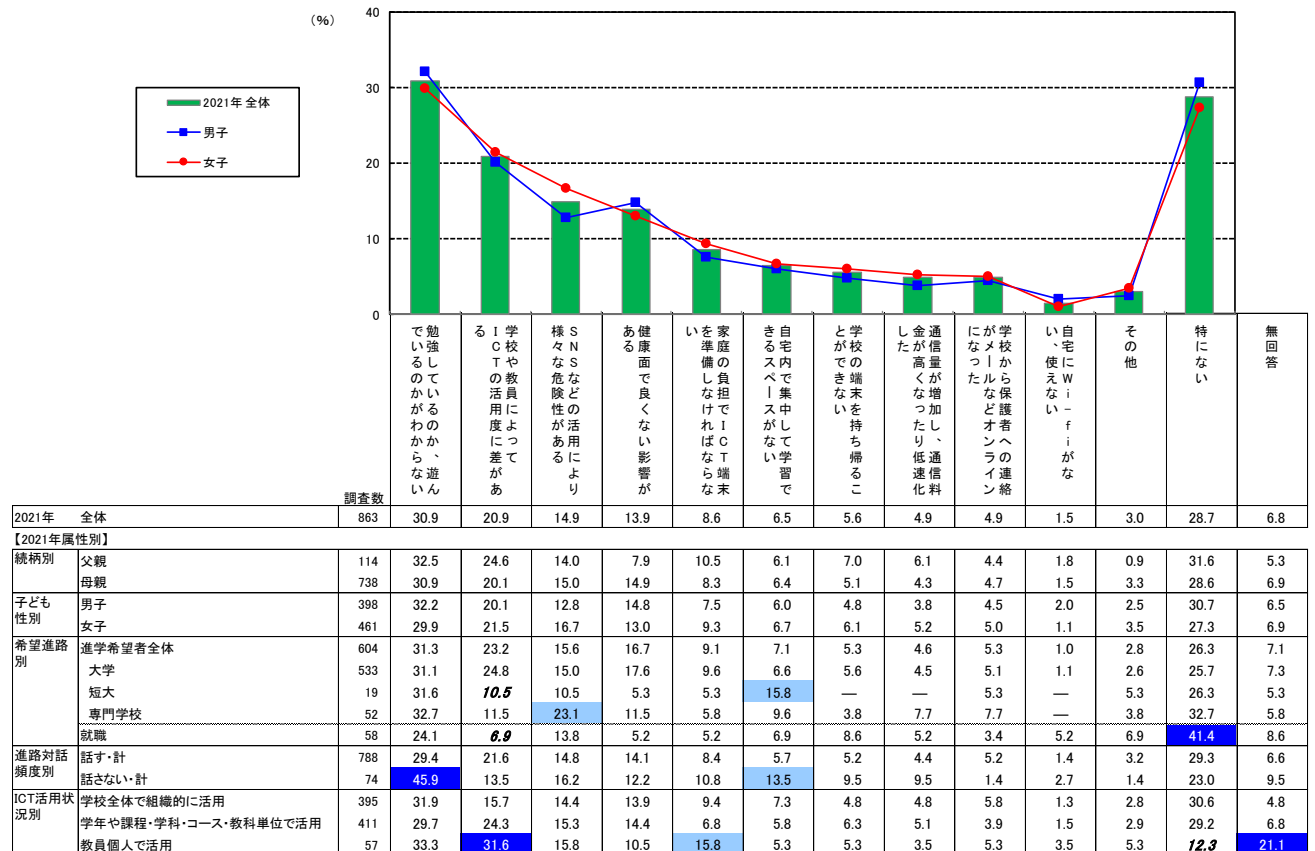


※「2021年全体」降順ソート
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

▶保護者にとってのICT活用の問題点は、「勉強しているのか、遊んでいるのかがわからない」がトップ。

- 子どもが通っている高校でICTを活用していると回答した保護者に対して、困った点・問題だと思った点を尋ねたところ、「特にない」も29%と高いものの、「勉強しているのか、遊んでいるのかがわからない」(31%)が3割以上となった。以下「学校や教員によってICTの活用度に差がある」(21%)などが上位。
- ICT活用状況別にみると、学校全体で組織的に活用されていると回答した層では、「特にない」が31%と高い。逆に教員個人で活用されていると回答した層では、「学校や教員によってICTの活用度に差がある」(32%)、「家庭の負担でICT端末を準備しなければならない」(16%)などが他の層と比較して高く、問題が「特にない」は1割程度となっている。

【保護者】高校でのICTの活用について困った・問題だと思った点（学校でICTを活用している／複数回答）



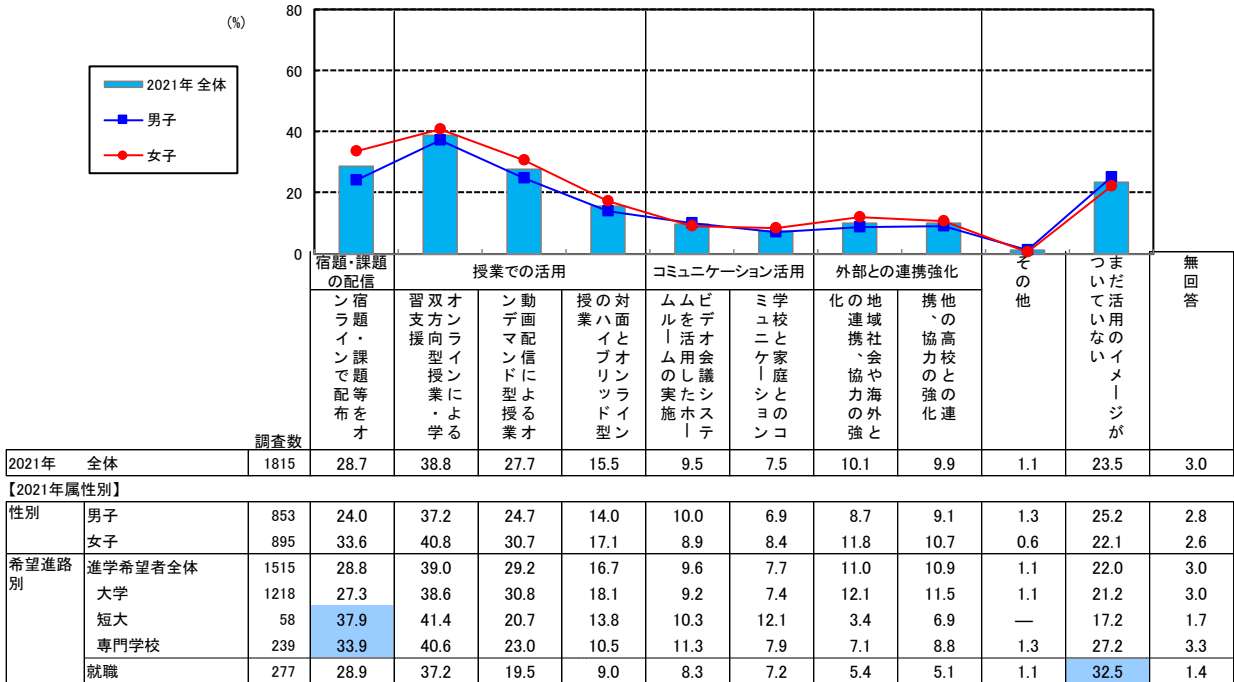
※「2021年全体」降順ソート
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

35. 学校や自宅での今後のICT活用

1) 学校や自宅での今後のICT活用意向

- ▶ 今後のICTの活用意向は、「授業」や「宿題・課題」「コミュニケーション」などに幅広い期待。
- ▶ 一方で、「まだ活用のイメージがついていない」という層も、高校生、保護者ともに24%存在。
- 高校生に対して、今後学校や自宅でのようにICTを活用していきたいと考えているかを尋ねたところ、「オンラインによる双方向型授業・学習支援」（39%）が最も高く、次いで「宿題・課題等をオンラインで配布」（29%）、「動画配信によるオンデマンド型授業」（28%）などが高い。
 - 同様に保護者にも尋ねたところ、保護者でも「オンラインによる双方向型授業・学習支援」（38%）が最も高く、「対面とオンラインのハイブリッド型授業」（29%）、「宿題・課題等をオンラインで配布」（23%）が続く。
 - ただし、高校生、保護者とも、「まだ活用のイメージがついていない」が25%程度にのぼり、課題の配布や授業での活用イメージはあるものの、【コミュニケーション活用】や【外部との連携強化】などの活用イメージは現状ではまだ低い。
 - 参考として高校教員に同様に尋ねた調査結果を引用すると、教員では「まだ活用のイメージがついていない」は5%と低い。活用したい項目としては、「宿題・課題等をオンラインで配布」（68%）、「オンラインによる双方向型授業・学習支援」（56%）が50%以上と高い。また、「学校と家庭とのコミュニケーション」（40%）や「地域社会や海外との連携、協力の強化」（36%）など、コミュニケーション活用や外部との連携力強化への活用を想定している割合も高い。

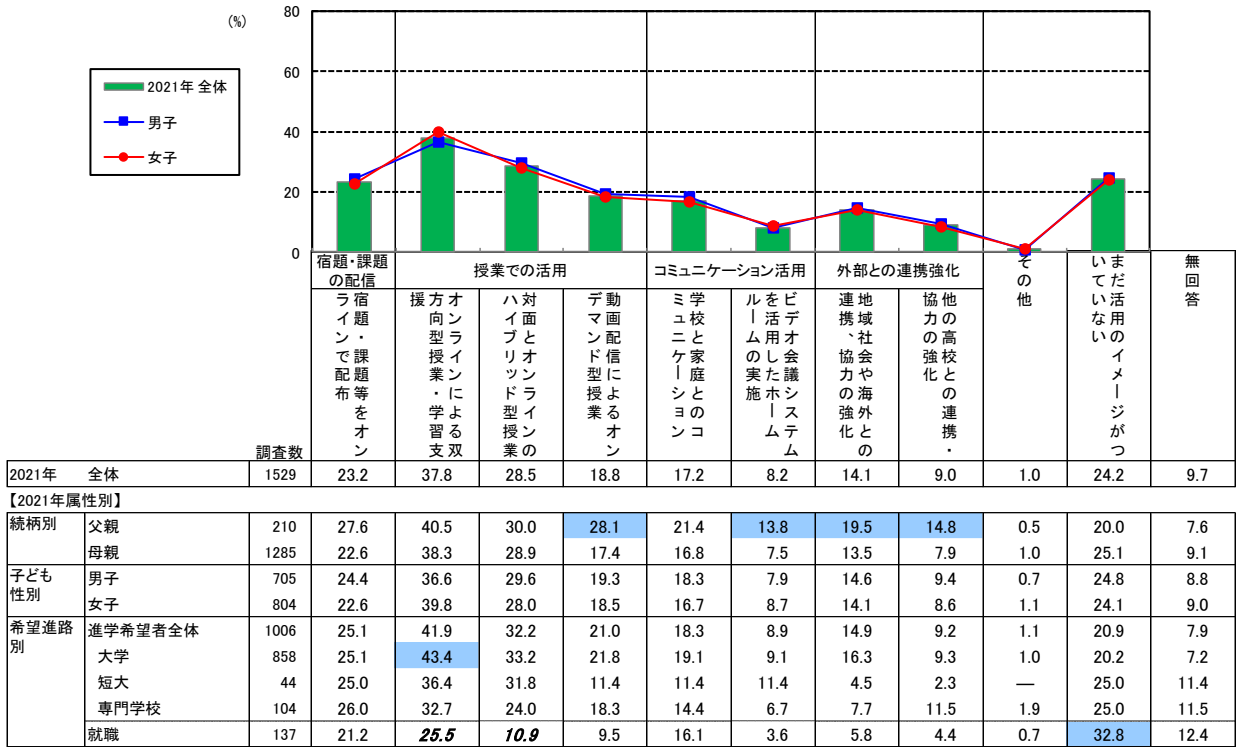
【高校生】 学校や自宅での今後のICT活用意向（全体／複数回答）



※ カテゴリーごとに「2021年全体」降順ソート

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

【保護者】 学校や自宅での今後のICT活用意向（全体／複数回答）

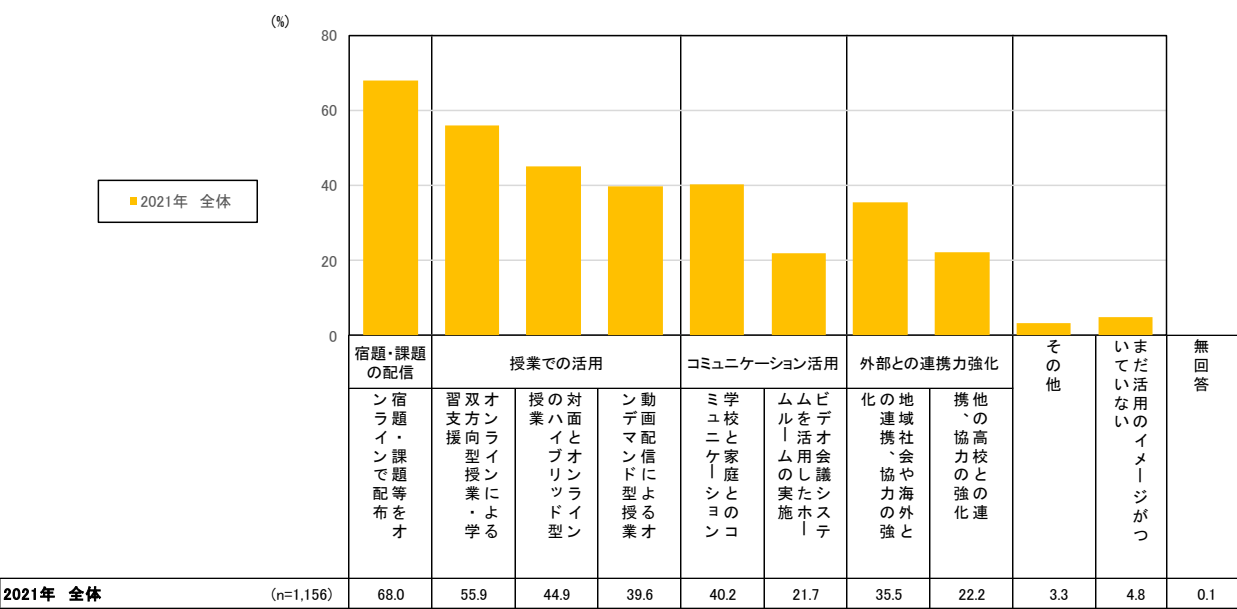


※ カテゴリーごとに「2021年全体」降順ソート

100.0	「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0	「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0	「2021年全体」より10ポイント以上低い

35_H_Q25

参考【高校教員】 今後の教育活動におけるICT活用意向（全体／複数回答）



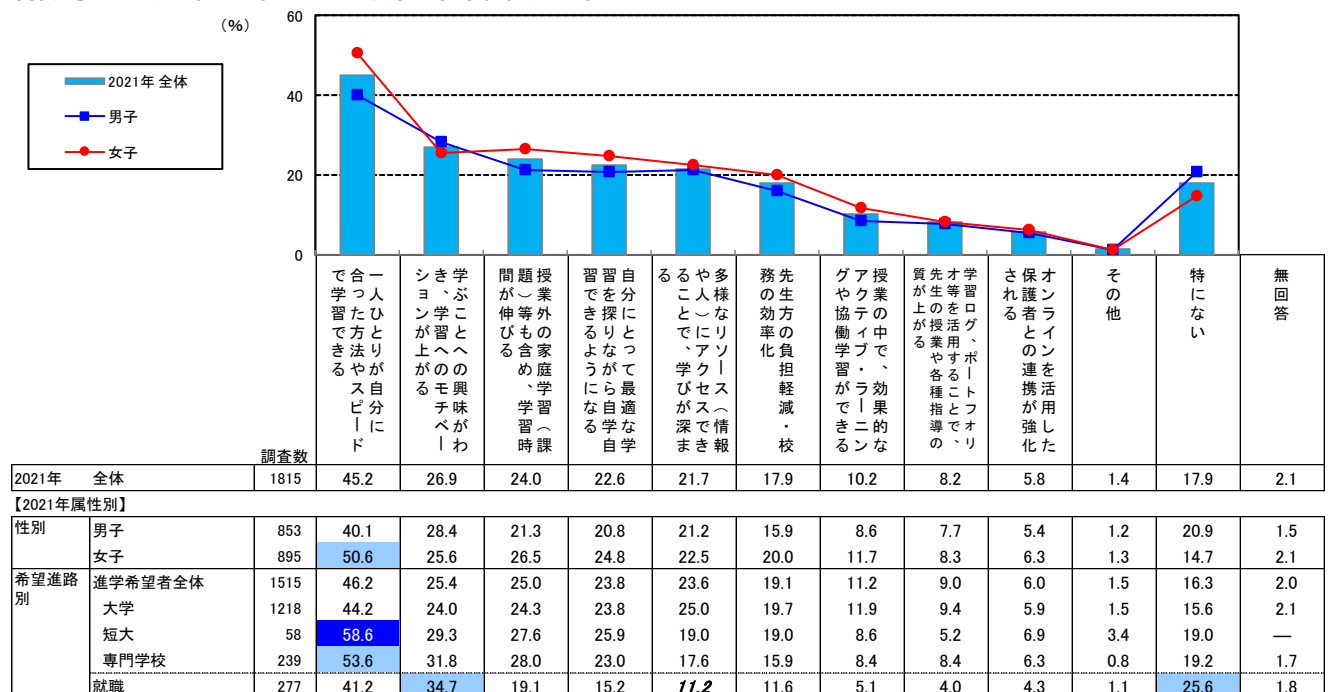
※カテゴリーごとに全体値の降順ソート ※出典:リクルート進学総研(2021年)「高校教育改革に関する調査2021」

35_教師Q20

2) ICT活用によって期待できる変化や効果

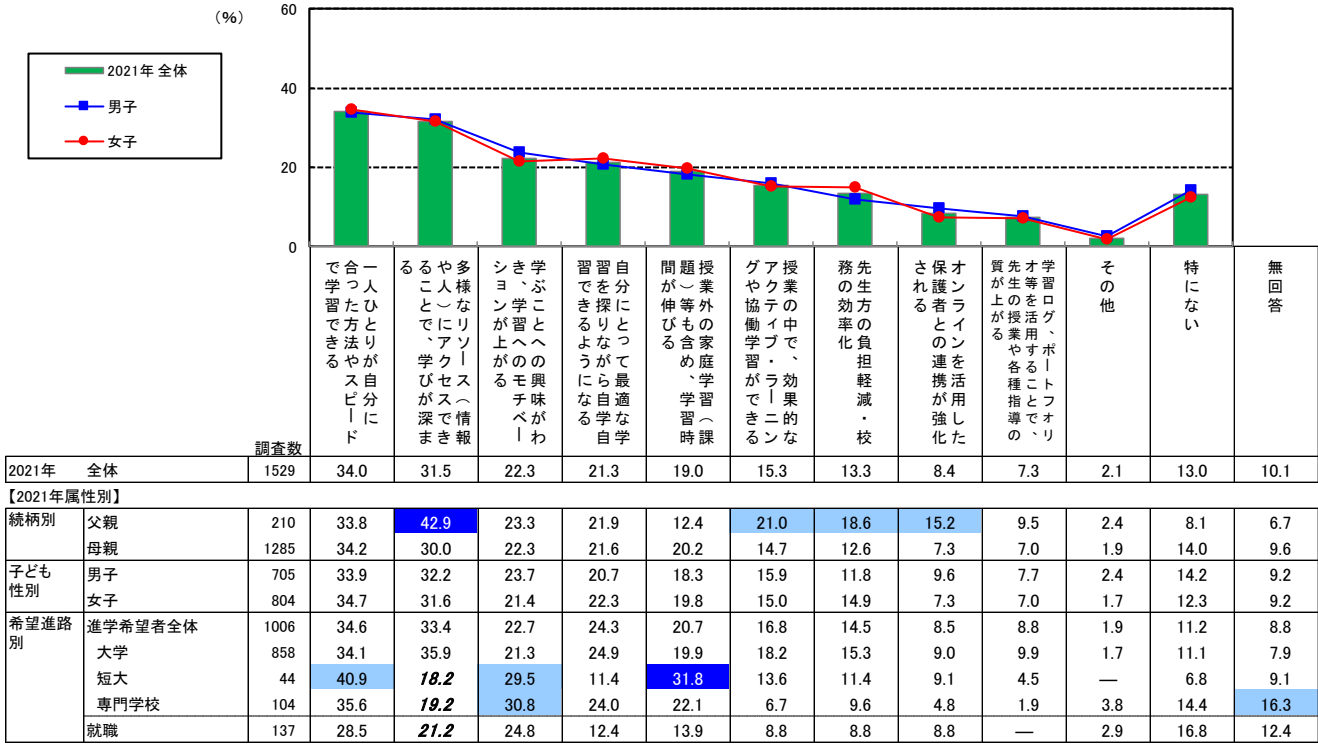
- ▶ 高校生、保護者ともに「一人ひとりが自分に合った方法やスピードで学習できる」ことを期待。
- ▶ 次いで高校生は「学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる」（27%）、保護者は「多様なリソース（情報や人）にアクセスできることで、学びが深まる」（32%）。
 - 高校生に対して、ICT活用によってどのような効果や変化が期待できるかを尋ねたところ、「一人ひとりが自分に合った方法やスピードで学習できる」（45%）が突出して高く、次いで「学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる」（27%）、「授業外の家庭学習（課題）等も含め、学習時間が伸びる」（24%）などが高い。
 - 希望進路別にみると、進学希望者全体でスコアの高い項目が多く、特に「多様なリソース（情報や人）にアクセスできることで、学びが深まる」については、大学進学希望者で25%と高い。一方、就職希望者では「学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる」（35%）が顕著に高くなっている。
 - 同様に保護者にも尋ねたところ、保護者でも「一人ひとりが自分に合った方法やスピードで学習できる」（34%）が最も高く、「多様なリソース（情報や人）にアクセスできることで、学びが深まる」（32%）が僅差で続く。
 - 続柄別にみると、父親では「多様なリソース（情報や人）にアクセスできることで、学びが深まる」（43%）が最も高い。その他、「授業の中で、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習ができる」「先生方の負担軽減・校務の効率化」「オンラインを活用した保護者との連携が強化される」などのスコアが全体と比較して高く、期待する効果が多岐に渡る。
 - 参考として高校教員に同様に尋ねた調査結果を引用すると、教員では「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」（64%）が突出して高い。それ以外の項目もほとんどが40～50%にのぼっており、ICT活用に寄せる期待が大きいことがわかる。

【高校生】ICT活用によって期待できる変化や効果（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

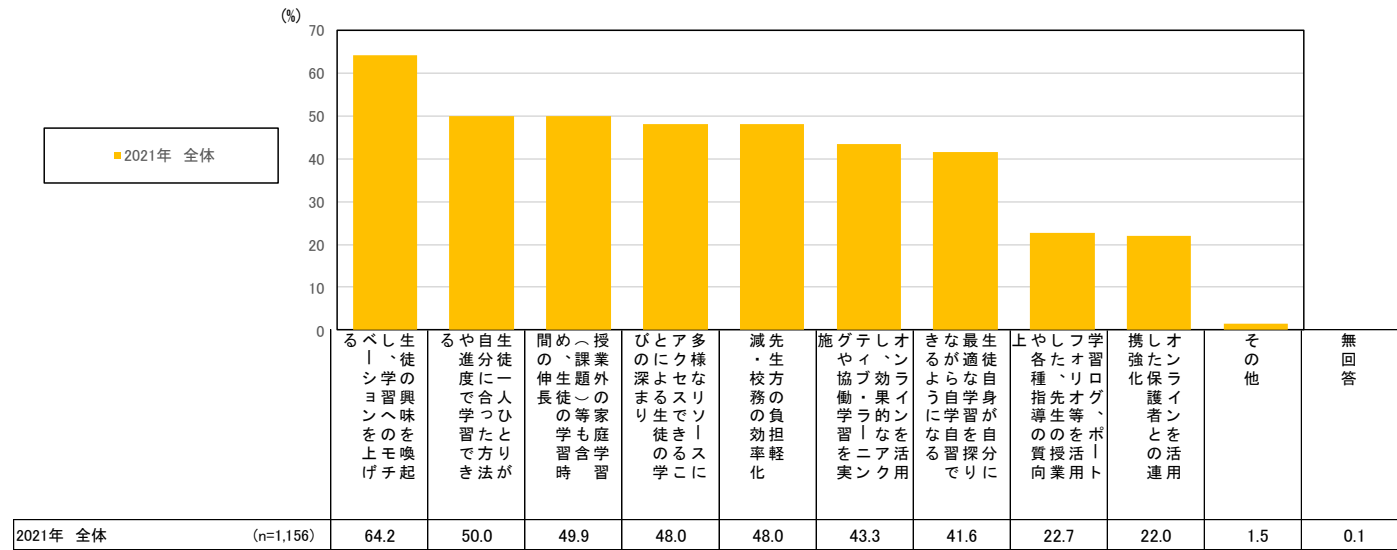
【保護者】ICT活用によって期待できる変化や効果（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

35_H_Q26

参考【高校教員】ICTの活用によって狙いたい効果・変化（全体／複数回答）



※全体値の降順ソート

※出典：リクルート進学総研（2021年）, 高校教育改革に関する調査2021

35_教師Q21

Ⅵ 家庭での教育

36. 日常のコミュニケーションや行動と教育改革を踏まえて特に心掛けたいこと

1) 日頃のコミュニケーションや行動

▶ 高校生が感じている保護者との日常のコミュニケーションや行動の上位は下記の通り。

- 1位: 「あなたはどうしたい」「あなたはどう思う」とあなたの意見が尊重されている (71%)
 2位: 「自分で選択し、それに責任をもつ」ことが大切だと言われている (64%)
 3位: あなたが悩んでいた、うまくいっていないときに励ましてくれる (61%)

▶ 保護者が実施している子どもとの日常のコミュニケーションや行動の上位は下記の通り。

- 1位: 「あなたはどうしたい」「あなたはどう思う」とお子さんの意見を尊重している (80%)
 2位: お子さんが悩んでいた、うまくいっていないときに励ます (76%)
 3位: 「自分で選択し、それに責任をもつ」ことが大切だと言っている (75%)

- 高校生、保護者それぞれに、日常のコミュニケーション・行動について14項目を提示し、それぞれの実施状況を尋ねた。上位の顔ぶれは高校生、保護者で共通しているが、スコアは保護者の方が高く、高校生の認識とのギャップがみられる。

【高校生】 保護者との日常のコミュニケーションや行動 (全体/各単一回答)

(n=1815)	あてはまる・計 (%)		どちらとも いえない	あてはまらない・計 (%)		無回答		あては まる・計	あては まらない・計
	とても あてはまる	あてはまる		あてはまらない	まったくあては まらない				
●凡例									
D 「あなたはどうしたい」「あなたはどう思う」とあなたの意見が尊重されている	29.3	41.3		22.3	4.2	2.1	0.9	70.5	6.3
C 「自分で選択し、それに責任をもつ」ことが大切だと言われている	23.9	40.2		26.7	5.4	2.8	1.0	64.1	8.2
E あなたが悩んでいた、うまくいっていないときに励ましてくれる	23.6	37.1		29.2	6.5	2.6	1.0	60.7	9.1
F あなたと意見が異なるとき、頭ごなしに否定しない	23.3	34.8		30.3	7.4	3.1	1.2	58.1	10.5
L 高校で何を学んでいるのかなど、高校での生活に関して会話している	18.6	38.8		27.1	10.4	4.1	1.1	57.4	14.4
B 保護者に「夢や目標を大切にしない」と言われている	18.1	34.3		33.7	8.8	4.2	0.9	52.4	13.1
A 保護者に褒められている	14.7	36.5		34.9	9.0	4.0	1.0	51.1	13.0
J ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している	13.5	35.6		31.1	12.9	5.8	1.0	49.1	18.8
H あなたがすることを保護者が決めたり手伝ったりする	9.8	28.6		39.3	15.0	6.2	1.1	38.4	21.2
I あなたの行動に口出しや干渉をしない	10.9	27.2		40.8	15.4	4.6	1.2	38.1	20.0
M チャレンジできる機会を創ったり、増やすようにしてくれる	10.7	26.8		44.2	11.2	6.0	1.2	37.5	17.1
G あなたが失敗をしないように、保護者ができることを先回りして考えてくれる	11.6	25.2		43.5	13.9	4.8	1.0	36.8	18.7
N 保護者がチャレンジしている姿を見る	10.3	20.8		41.3	16.7	9.9	1.0	31.1	26.6
K 地域とかかわりについて会話したり、行事に参加したりしている	7.1	18.1		35.8	24.0	14.1	1.0	25.1	38.1

※「あてはまる・計」降順ソート

36_K_Q30M

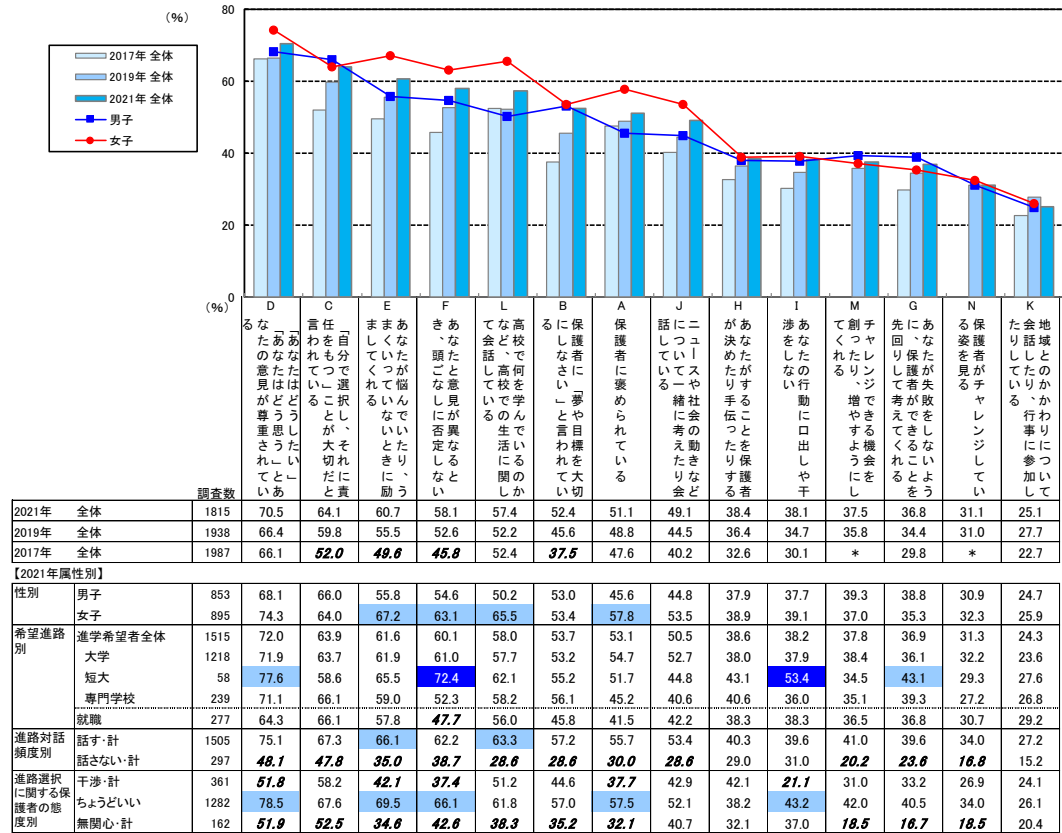
【保護者】 子どもとの日常のコミュニケーションや行動 (全体/各単一回答)

(n=1529)	あてはまる・計 (%)		どちらとも いえない	あてはまらない・計 (%)		無回答		あては まる・計	あては まらない・計
	とても あてはまる	あてはまる		あてはまらない	まったくあては まらない				
●凡例									
D 「あなたはどうしたい」「あなたはどう思う」とお子さんの意見を尊重している	20.0	59.5		17.3	1.3	0.4	1.5	79.5	1.7
E お子さんが悩んでいた、うまくいっていないときに励ます	16.4	59.2		21.4	0.9	0.6	1.5	75.6	1.5
C 「自分で選択し、それに責任をもつ」ことが大切だと言っている	20.9	53.7		20.0	3.0	0.5	1.5	74.6	3.9
L 高校で何を学んでいるのかなど、高校での生活に関して会話している	10.6	49.9		28.1	8.2	1.5	1.7	60.5	9.7
A お子さんを褒めている	11.5	47.6		33.4	5.3	0.7	1.4	59.1	6.0
B お子さんに「夢や目標を大切にしない」と言っている	12.4	43.6		34.3	6.6	1.5	1.6	56.0	8.1
F お子さんとは意見が異なるとき、頭ごなしに否定しない	10.1	45.3		38.1	4.2	0.8	1.5	55.5	5.0
J ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している	8.6	45.8		31.3	10.9	1.8	1.6	54.4	12.7
M お子さんがチャレンジできる機会を創ったり、増やしたりしている	5.4	32.5		48.1	11.1	1.2	1.7	37.9	12.3
N 保護者もチャレンジしている姿を見せる	5.8	27.2		45.1	17.5	2.6	1.8	33.0	20.1
G お子さんが失敗をしないように、保護者ができることを先回りして考える	3.5	21.0		47.0	23.2	3.8	1.6	24.5	27.0
I お子さんの行動に口出しや干渉をしない	3.9	19.6		56.2	17.5	1.2	1.7	23.5	18.6
K 地域とかかわりについて会話したり、行事に参加したりしている	3.1	19.9		39.6	28.9	6.5	2.0	23.0	35.4
H お子さんがすることを保護者が決めたり手伝ったりする	1.4	17.4		44.0	30.0	5.6	1.7	18.8	35.5

※「あてはまる・計」降順ソート

36_H_Q27M

【高校生】保護者との日常のコミュニケーションや行動（全体／「あてはまる」計）



※「2021年全体」降順ソート

※「2021年属性別」100.0

「2021年全体」より10ポイント以上高い

※ 2017年は「ある・計」のスコア

100.0

「2021年全体」より5ポイント以上高い

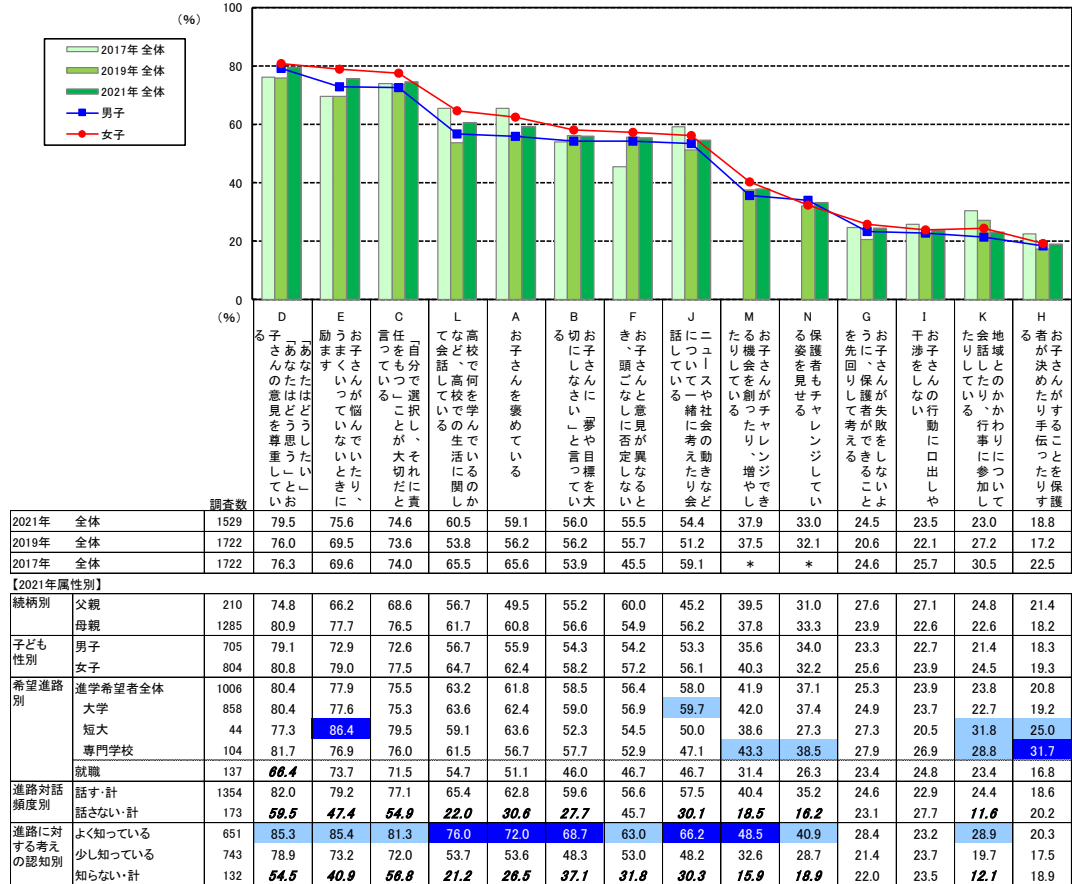
※「*」は該当項目なし

100.0

「2021年全体」より10ポイント以上低い

36_K_Q30

【保護者】子どもとの日常のコミュニケーションや行動（全体／「あてはまる」計）



※「2021年全体」降順ソート

※「2021年属性別」100.0

「2021年全体」より10ポイント以上高い

※ 2017年は「ある・計」のスコア

100.0

「2021年全体」より5ポイント以上高い

100.0

「2021年全体」より10ポイント以上低い

36_H_Q27

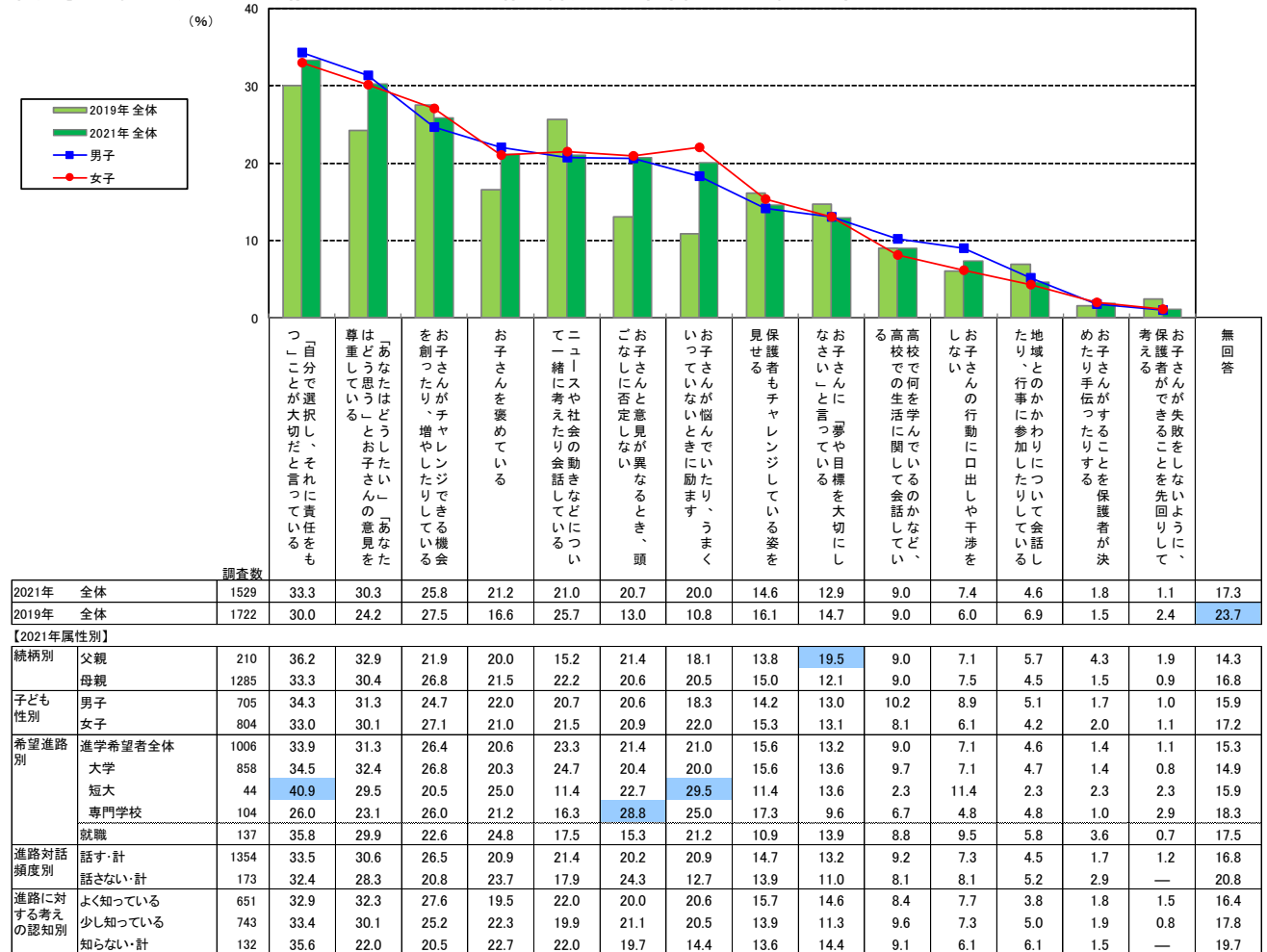
2) 子どもとのコミュニケーションや行動のうち教育改革を踏まえて特に心掛けたいこと

▶保護者が、教育改革を踏まえて特に心がけたいと考えていることは、「『自分で選択し、それに責任を持つ』ことが大切だと言っている」（33%）がトップ。

●保護者に対して、子どもとのコミュニケーションや行動のうち、教育改革を踏まえて特に心がけたいことについて尋ねた。トップは「『自分で選択し、それに責任をもつ』ことが大切だと言っている」（33%）で、次いで「『あなたはどうしたい』『あなたはどう思う』とお子さんの意見を尊重している」（30%）が僅差で続く。

●時系列でみると、2019年よりスコアの上昇した項目が多く、「お子さんが悩んでいたり、うまくいっていないときに励ます」「お子さんと意見が異なるとき、頭ごなしに否定しない」「『あなたはどうしたい』『あなたはどう思う』とお子さんの意見を尊重している」などは5ポイント以上上昇した。

【保護者】子どもとのコミュニケーションや行動のうち教育改革を踏まえて特に心掛けたいこと（全体／3つまでの複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

36_H_Q27-1

▶<フリーコメント> 子どもとのコミュニケーションで心がけていること【保護者】

- ・自分の将来の選択肢を増やすために目標を持って生きるように話しています。[三重県/母親/男/大学]
- ・興味を持ちそうな資料や情報を与えている。[沖縄県/母親/女/大学]
- ・話を聞く、子どもの言葉を受け止めて肯定しアドバイスする。[山形県/母親/男/大学]
- ・子どもに共感している態度を崩さない。[茨城県/父親/男/子の希望なら何でも]
- ・気持ちをもち上げて話しかける。[和歌山県/母親/女/就職]
- ・共通の趣味や一緒に何かをしたりする。2人だけの特別な時間を作る。[三重県/母親/女/子の希望なら何でも]
- ・過干渉にならない。自主性を尊重する。[三重県/父親/女/子の希望なら何でも]
- ・家庭での環境を整えたり、規則正しい生活をすることや健康な体作りの為の栄養バランスのとれた食事をするを促している。[三重県/母親/男/大学]

37. キャリア教育の認知と期待／意見・要望

▶保護者の43%が、『キャリア教育』という言葉を知ったことが「ある」。

- 保護者に『キャリア教育』という言葉を知ったことがあるかどうか尋ねたところ、43%が「ある」と回答。
- 希望進路別にみると、進学希望者全体では「ある」が49%を占める。特に大学進学希望者では52%と高い。

- また、『キャリア教育』の定義を提示したうえで、今後小学校から大学まで『キャリア教育』が推進されていくことについてどう思うかを尋ねたところ、「非常に良いことだと思う」が27%、「まあまあ良いことだと思う」が57%を占め、合計では83%が良いことだと「思う」と回答した。

※設問：『キャリア教育』とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」とされています。今後小学校から大学まで「キャリア教育」が推進されていくことについてどう思いますか。

【保護者】『キャリア教育』という言葉を知ったことがあるか（全体／単一回答）

			(%)	ある	ない	無回答
●凡例						
2021年	全体	(n= 1529)		42.8	54.4	2.7
2019年	全体	(n= 1759)		43.0	51.8	5.2
2017年	全体	(n= 1722)		41.5	53.4	5.1
【2021年属性別】						
続柄別	父親	(n= 210)		42.4	56.2	1.4
	母親	(n= 1285)		43.3	54.6	2.2
子ども性別	男子	(n= 705)		43.8	53.8	2.4
	女子	(n= 804)		42.5	55.7	1.7
希望進路別	進学希望者全体	(n= 1006)		48.5	49.5	2.0
	大学	(n= 858)		52.2	45.9	1.9
	短大	(n= 44)		38.6	59.1	2.3
	専門学校	(n= 104)		22.1	75.0	2.9
	就職	(n= 137)		27.0	69.3	3.6

37_H_Q29

【保護者】『キャリア教育』が推進されていくことをどう思うか（全体／単一回答）

			(%)	思う・計		思わない・計		その他		無回答
				非常に良いこと だと思う	まあまあ良い ことだと思う	あまり良い ことと思わない	まったく良い ことと思わない			
●凡例										
2021年	全体	(n= 1529)		26.8	56.5	7.0	0.7	2.7	6.3	
2019年	全体	(n= 1759)		26.3	54.6	5.6	0.3	5.0	8.2	
2017年	全体	(n= 1722)		29.2	53.8	4.8	0.6	3.5	8.1	
【2021年属性別】										
続柄別	父親	(n= 210)		21.4	58.1	12.4	1.4	2.9	3.8	
	母親	(n= 1285)		27.7	57.4	6.1	0.6	2.6	5.6	
子ども性別	男子	(n= 705)		25.2	60.4	4.7	1.0	3.0	5.7	
	女子	(n= 804)		28.5	54.4	9.1	0.5	2.5	5.1	
希望進路別	進学希望者全体	(n= 1006)		28.5	56.0	7.2	0.6	2.2	5.6	
	大学	(n= 858)		28.4	56.9	7.1	0.3	2.4	4.8	
	短大	(n= 44)		36.4	52.3	4.5	—	—	2.3	
	専門学校	(n= 104)		26.0	50.0	8.7	1.0	1.0	13.5	
	就職	(n= 137)		19.0	59.9	8.8	1.5	2.9	8.0	

※【2021年属性別】「2021年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

37_H_Q29-1

▶＜フリーコメント＞キャリア教育に対する「その他」の意見【保護者】

- 考えは良いと思う、教育内容が不明。[茨城県/母親/男/大学]
- 逆に今までは何を目標とした教育だったのですか、と聞きたい。[山形県/その他/女/子の希望なら何でも]
- まだ将来の目標設定などができていない子どもや、あまり低学年のうちに進めるのは難しいのではないかと思います。[茨城県/母親/女/子の希望なら何でも]

VII 学校・教師への要望

38. 家庭と学校の役割に関する認識

▶保護者は、「働く意義について教える」「将来の目標を持たせる」のは家庭、「学力をつける」「人間関係を築く力をつける」のは学校の役割と認識。

●高校生の教育に関する11項目を提示し、それぞれ「家庭」「学校」「その他」のうち誰の役割だと思うかを項目ごとに選んでもらい、回答状況を分類した。

●「家庭のみ」の役割としてスコアが高いものは以下の通りで、将来の社会生活に向けて働く意義を教えたり目標を持たせる役割があると考えている保護者が多い。

- ・1位：働く意義について教える (61%)
- ・2位：将来の目標を持たせる (51%)
- ・3位：長所や個性を見つけて伸ばす (46%)

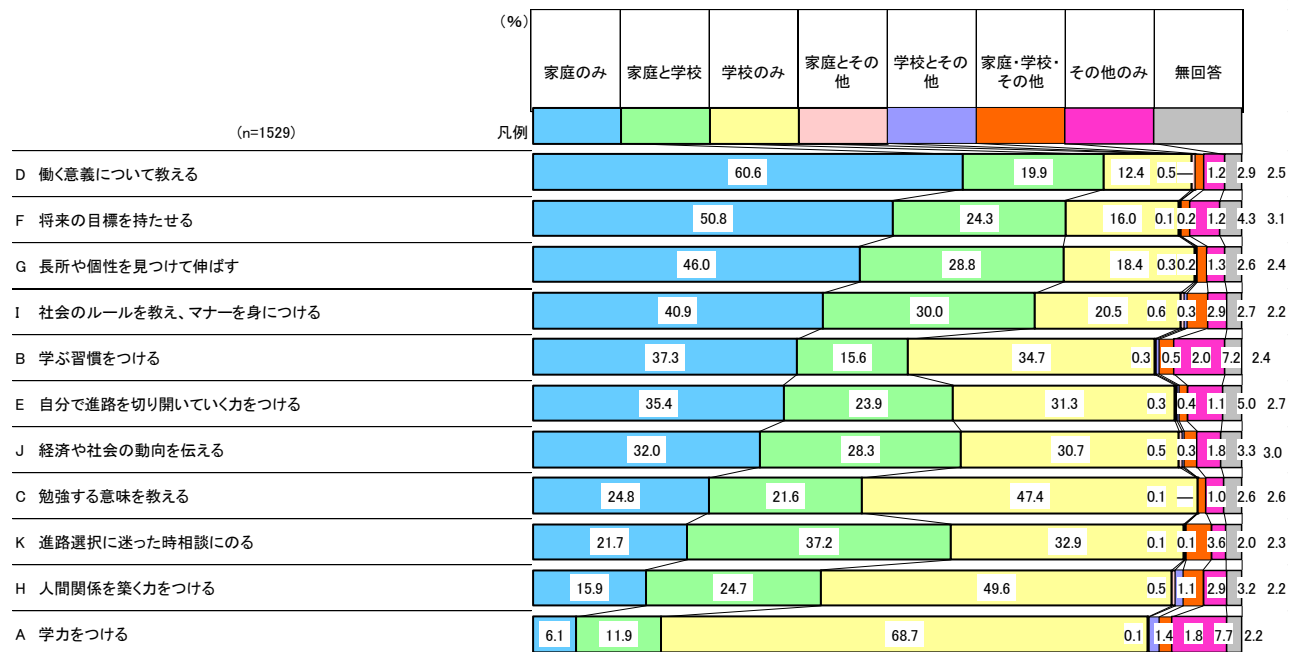
●「家庭と学校」の両方が担うのは以下の通り。【長所や個性を見つけて伸ばす】については、「家庭のみ」の役割と考える保護者も46%を占めており、保護者によって認識が分かれている。

- ・1位：進路選択に迷った時相談に乗る (37%)
- ・2位：社会のルールを教え、マナーを身につける (30%)
- ・3位：長所や個性を見つけて伸ばす (29%)

●「学校のみ」の役割は以下の通りで、学習に関する項目でスコアが高いものの、人間関係構築についての指導も期待されている。

- ・1位：学力をつける (69%)
- ・2位：人間関係を築く力をつける (50%)
- ・3位：勉強する意味を教える (47%)

【保護者】高校生に対する役割（全体／「家庭の役割」「学校の役割」「その他の役割」回答組合せ各単一回答）



※「家庭のみ」のスコアで降順ソート

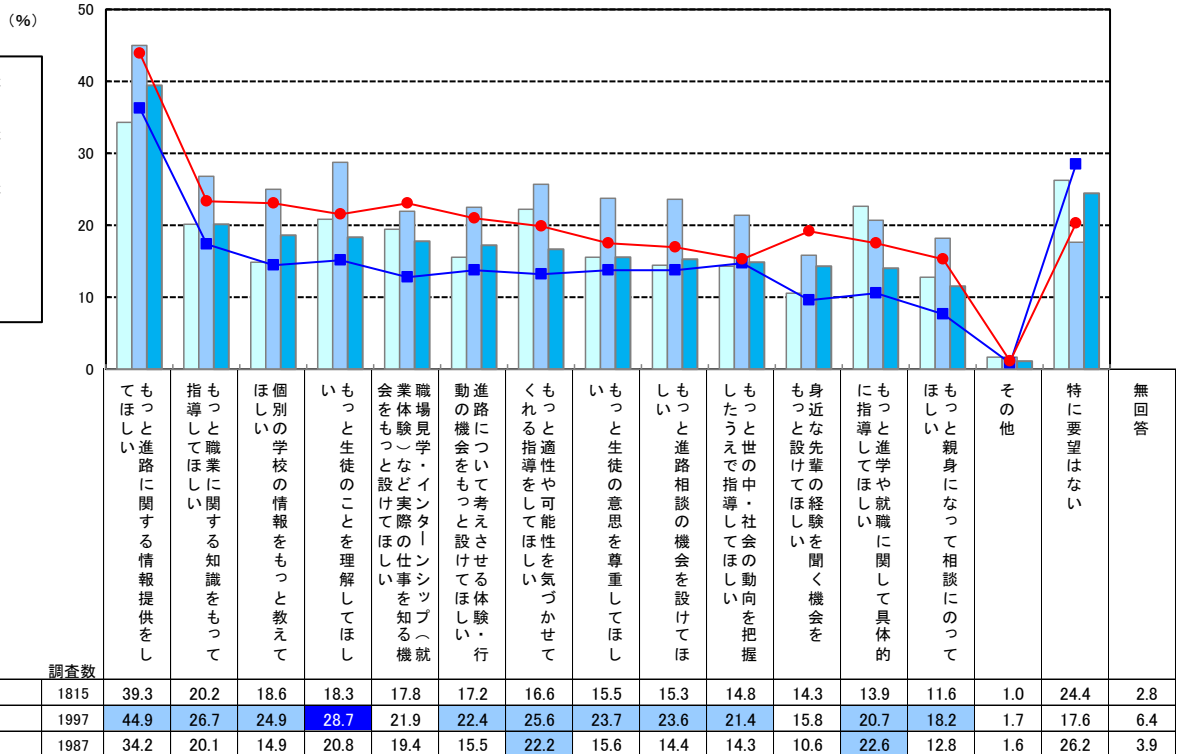
38_H_Q31

39. 進路指導への要望

▶ 高校の進路指導に対する高校生の要望は、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」が突出。

- 高校生に対して、高校の進路指導について要望することを尋ねたところ、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」（39%）が突出して高く、以下「もっと職業に関する知識をもって指導してほしい」（20%）、「個別の学校の情報をもっと教えてほしい」（19%）などが20%前後で続く。
- 時系列でみると、2019年と比べてすべての項目でスコアが低下した。2017年とは同程度のものが多いが、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」「個別の学校の情報をもっと教えてほしい」などは上昇。
- 高校や教師に対する意見や要望を自由回答で尋ねたところ、生徒一人ひとりに合わせた進路に関する情報提供への要望が多くみられる他、ICT活用のあり方、テスト内容などに関する要望があがっている。

【高校生】 高校の進路指導について要望すること（全体／複数回答）



【2021年属性別】

性別	男子	853	36.2	17.4	14.4	15.1	12.8	13.7	13.1	13.7	13.7	14.7	9.6	10.6	7.6	0.8	28.4	2.3
性別	女子	895	43.8	23.4	23.0	21.6	23.0	21.0	19.9	17.4	16.9	15.3	19.1	17.4	15.3	1.1	20.2	1.0
希望進路別	進学希望者全体	1515	39.5	20.5	21.5	19.0	19.3	18.2	17.0	15.6	16.5	14.9	14.8	14.8	12.3	1.1	23.2	2.8
	大学	1218	39.6	21.0	22.2	17.8	19.0	18.1	18.3	14.6	16.8	15.8	15.3	15.2	11.5	1.2	21.9	3.0
	短大	58	37.9	17.2	19.0	25.9	19.0	17.2	10.3	13.8	13.8	8.6	10.3	13.8	13.8	—	27.6	—
	専門学校	239	39.7	18.8	18.4	23.4	20.9	18.8	12.1	20.9	15.5	12.1	13.4	13.0	16.3	0.8	28.5	2.5
	就職	277	38.6	18.4	3.6	14.8	9.7	11.9	14.1	15.5	8.7	14.1	11.6	10.1	7.2	0.4	31.4	1.8

※「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

100.0	「2021年全体」より10ポイント以上高い
100.0	「2021年全体」より5ポイント以上高い
100.0	「2021年全体」より10ポイント以上低い

39_K_Q32

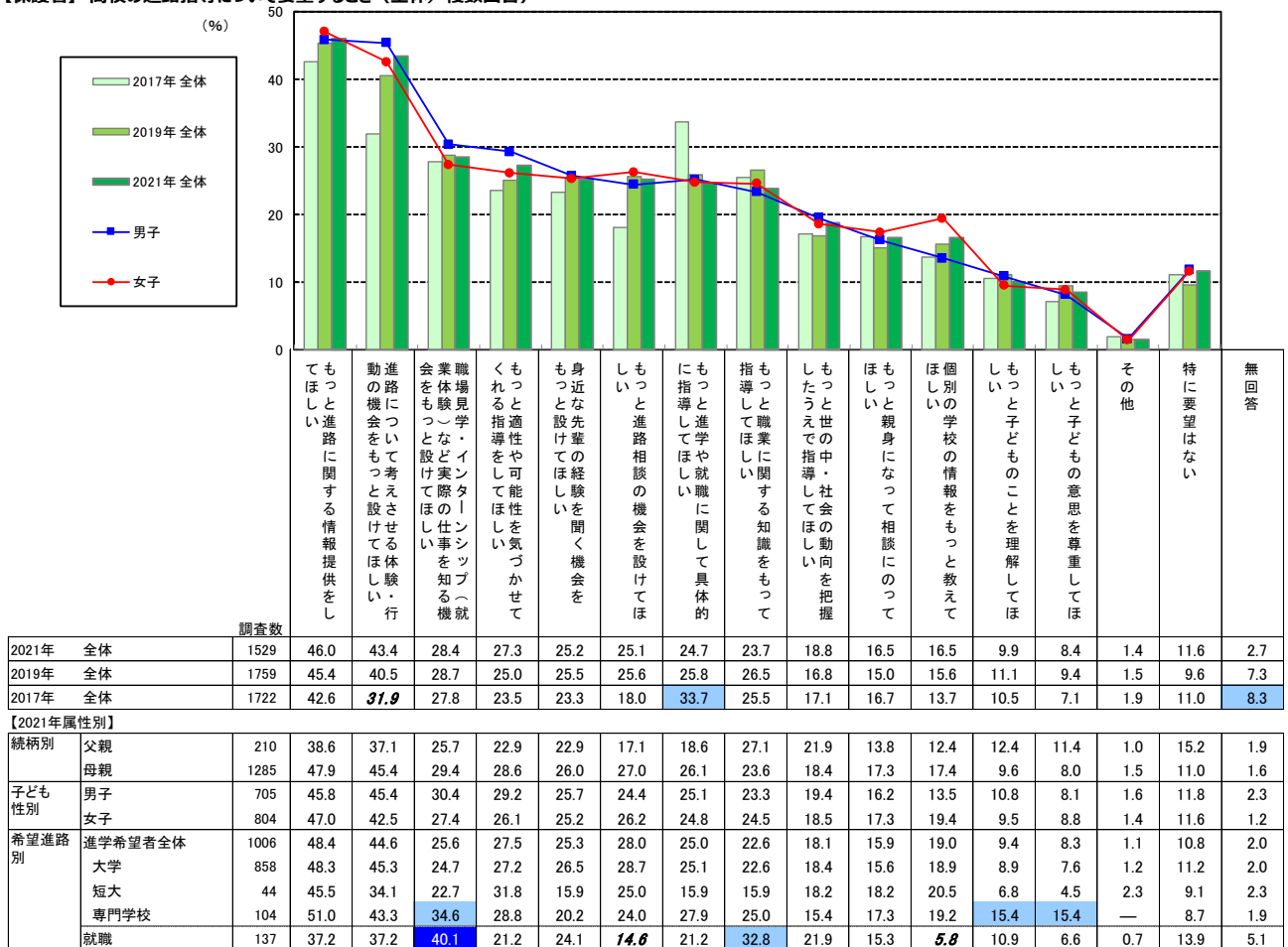
▶ <フリーコメント> 高校や教師に対する意見や要望【高校生】

- 一人一人に寄り添った進路指導をしてほしい。君の学力ならまあ、大丈夫でしょうで終わりじゃなく、その後の適切なアドバイスとかがあればうれしいです。[島根県/その他/専門学校]
- 学校選択のための情報収集をしやすいうにしてほしい。[沖縄県/女子/大学]
- 一般入試以外も選択肢として提示してほしいです。[茨城県/女子/大学]
- もうちょっと専門学校とかの情報提供をしてほしい。[和歌山県/女子/専門学校]
- 具体的な、進学先または就職先の情報について話し合える時間を作ってほしい。[島根県/男子/大学]
- ある特定の先生が学力の高い大学を目指すことを第一に話すのだが、やめてほしい。[茨城県/女子/大学]
- オンライン授業とか言っておきながら、やっているのは出欠確認のみ。せっかくmicrosoftアカウントと教育LANあるんだから活用すればよいのと思う。[東京都/その他/大学]
- 授業で思考力をみにつけさせてほしい。[沖縄県/男子/大学]
- 定期考査の問題はもっと大学入試に役立つような内容にしてほしい。いまのままで意欲が湧かない。[新潟県/男子/大学]

▶保護者でもトップは「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」。僅差で「進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい」が続く。

- 保護者に対して、子どもの通う高校の進路指導について要望することを尋ねたところ、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」（46%）、「進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい」（43%）が40%以上で並んだ。以下「職場見学・インターンシップ（就業体験）など実際の仕事を知る機会をもっと設けてほしい」が続く。
- 時系列でみると、特に「進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい」（43%）が2017年と比較して10ポイント以上上昇している。
- 高校や教師に対する意見や要望を自由回答で尋ねたところ、具体的に進路指導としてどのようなことを行っているのかに関する情報が少ないことを指摘する意見が多くみられた。

【保護者】高校の進路指導について要望すること（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート

※【2021年属性別】

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2021年全体」より10ポイント以上低い

39_H_Q32

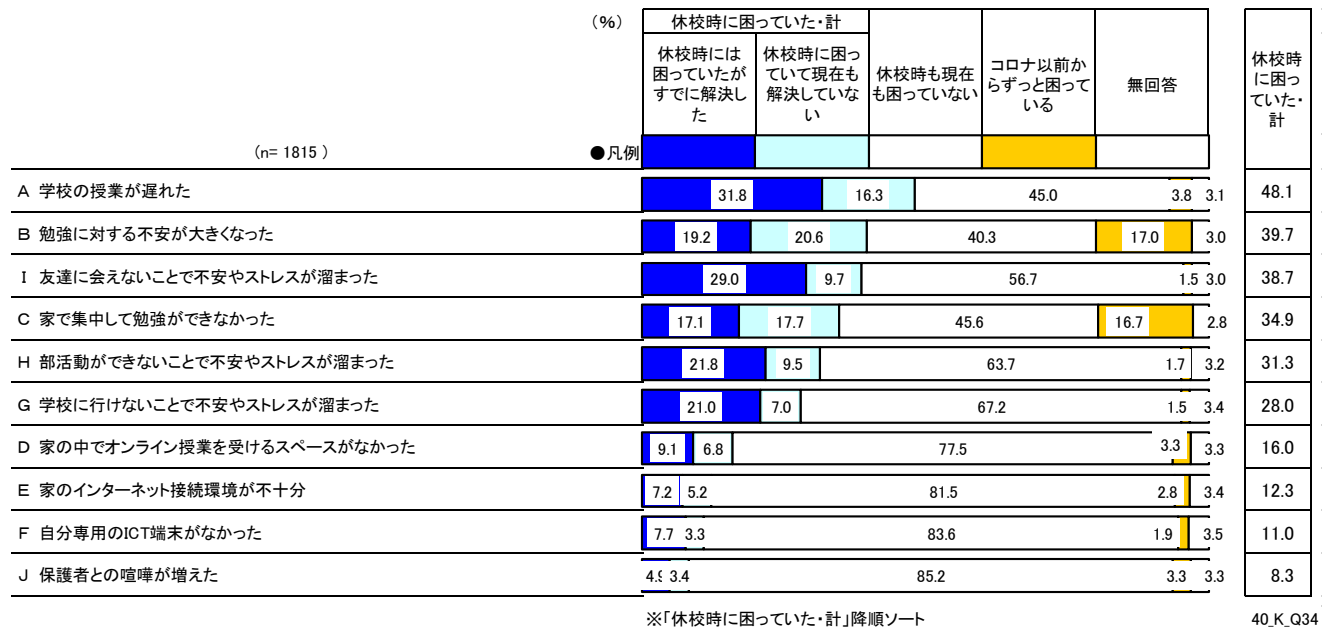
▶＜フリーコメント＞高校や教師に対する意見や要望【保護者】

- ・“学校”以外を経験したことがある教員による授業。[和歌山県/母親/女/子の希望なら何でも]
- ・キャリア教育についての取り組みで予定しているものがあれば教えてほしい。[山形県/父親/女/大学]
- ・何をしているか全く情報が無い。進路指導の様子を知らせてほしい。[三重県/母親/男/大学]
- ・高校だけでなく、小中から経済の教育をしてほしい。力をいれて、海外の様に。[島根県/母親/女/子の希望なら何でも]
- ・社会や地域とのつながりを持ち、地域の特性にあった教育をお願いしたい。[新潟県/母親/女/就職]
- ・情報提供、親とも共有して一緒にすすめていきたい。親は情報を得る機会があまりないのと、やり方もあまりわからない。細かい指導がほしい。[三重県/母親/男/大学]
- ・生徒個人に能力や先見性が貧しい時があります。広く情報を与えて刺激を受け、取り組める環境づくりを願う。[茨城県/父親/女/大学]
- ・大学などの選択の先になる職業に向けて、先輩がどんな道を歩んでいったのかをもっと高校生に伝えてほしい。[東京都/母親/女/大学]
- ・日本の教育的にいきなり探究学習や学びあい、主体性の前にしっかりと力をつけ、落ち着いて知識を習得すべきではないでしょうか。[新潟県/母親/女/大学]

40. 新型コロナウイルス感染症による休校時に困っていたこと／その解決方法

- 高校生に対して、新型コロナウイルス感染症による休校時に困っていたことについて尋ねた。「休校時に困っていた・計」（休校時には困っていたがすでに解決した＋休校時に困っていて現在も解決していない）の割合が高いものをみると、「学校の授業が遅れた」（48%）が最も高く、次いで「勉強に対する不安が大きくなった」（40%）、「友達に会えないことで不安やストレスが溜まった」（39%）が高い。
- 「学校の授業が遅れた」「友達に会えないことで不安やストレスが溜まった」については、「すでに解決した」が30%前後となっているが、「勉強に対する不安が大きくなった」「家で集中して勉強ができなかった」の2項目については、「コロナ前からずっと困っている」の割合も高く、「休校時に困っていて現在も解決していない」状況が続いているとみられる。
- 保護者にも同様に尋ねたところ、上位項目の顔触れは高校生と同様となった。
- 「休校時には困っていたがすでに解決した」項目について自由回答でその解決策を尋ねたところ、多くの高校生が「登校するようになったら自然に解決した」と回答しているが、学校の授業の遅れについては、目標をたてて勉強するなど、自分で学習ペースを確保する工夫をしたという意見が多くみられる。また、友達とのコミュニケーションは、女子を中心にSNSを活用する工夫をした高校生が散見された。

【高校生】 新型コロナウイルス感染症による休校時に困っていたこと（全体／それぞれ単一回答）



▶ <フリーコメント> 困っていたことの解決策【高校生】

- 学校の授業が遅れた
 - －自分で出来る家庭学習の仕方を見つけた。[山形県/女子/大学]
 - －目的、目標を達成するように頑張った。[山形県/女子/専門学校]
 - －自然と直った。[山形県/男子/大学]
 - －勉強を自分でした。[山形県/女子/大学]
 - －自分なりに工夫してどうすればいいかを考えそれを行動に移した。[山形県/男子/大学]
 - －分からないところは先生に直接聞いたりして理解していた。[北海道/男子/就職]
 - －自分で学習スペースを確保した。[沖縄県/男子/大学]
- 友達に会えないことで不安やストレスが溜まった
 - －オンライン上で友達と話せたりコミュニケーションがとれた。[山形県/女子/大学]
 - －友達とSNSなどで会話をする。[山形県/女子/大学]
 - －学校がある日に沢山友達と話す。[島根県/女子/短大]
 - －分散登校で友達に会うことができた。[沖縄県/女子/大学]
 - －親と話し合った。[新潟県/女子/就職]
 - －学校が再開したことによって自然と。[島根県/男子/大学]
- 部活動ができないことで不安やストレスが溜まった
 - －部活は、学校にいったらなおった。[和歌山県/男子/就職]

- 保護者に対しても同様に、新型コロナウイルス感染症による休校時に困っていたことについて尋ねた。「休校時に困っていた・計」（休校時には困っていたがすでに解決した＋休校時に困っていて現在も解決していない）の割合が高いものをみると、「学校の授業が遅れた」（48%）が最も高く、次いで「友達に会えないことで不安やストレスが溜まった」（45%）「勉強に対する不安が大きくなった」（43%）が高い。
- 「休校時に困っていた・計」が30%を超えた項目のほとんどは、「すでに解決した」が20%を超えているが、「学校の授業が遅れた」「勉強に対する不安が大きくなった」で「現在も解決していない」割合が15%を超えており、相対的に“未解決”の割合が高い。
- 「休校時には困っていたがすでに解決した」項目について自由回答でその解決策を尋ねたところ、高校生と同様「登校するようになったら自然に解決した」と回答している。それ以外としては、勉強スペースを確保したり、家庭内での会話や小さいイベント的なものを取り入れるなど、様々な工夫がみられた。

【保護者】 新型コロナウイルス感染症による休校時に困っていたこと（全体／それぞれ単一回答）

(n= 1529)	休校時に困っていた・計 (%)		休校時も現在も困っていない	コロナ以前からずっと困っている	無回答	休校時に困っていた・計
	休校時には困っていたがすでに解決した	休校時に困っていて現在も解決していない				
●凡例						
A 学校の授業が遅れた	31.7	16.2	45.1	2.6	4.4	47.9
I 友達に会えないことで不安やストレスが溜まった	34.6	9.9	51.0	0.5	3.6	44.5
B 勉強に対する不安が大きくなった	24.0	18.5	45.4	8.0	4.1	42.5
G 学校に行けないことで不安やストレスが溜まった	30.8	8.4	55.9	1.1	3.9	39.2
H 部活動に行けないことで不安やストレスが溜まった	29.5	9.2	55.8	1.0	4.5	38.7
C 家で集中して勉強ができなかった	19.1	13.7	50.3	13.1	3.8	32.8
D 家の中でオンライン授業を受けるスペースがなかった	7.8	5.6	78.0	3.4	5.2	13.3
F 子ども専用のICT端末がなかった	5.7	5.7	78.3	4.5	5.8	11.4
E 家のインターネット接続環境が不十分	5.9	4.1	81.9	3.7	4.4	9.9
J 子どもとの喧嘩が増えた	5.5	2.6	85.2	2.2	4.1	8.5

※「休校時に困っていた・計」降順ソート

40_H_Q30

▶ <フリーコメント>困っていたことの解決策【保護者】

- 学校の授業が遅れた
 - 兄が大学進学で寮に入ったので兄が使った部屋を勉強スペースにして分けることで気持ちの切り替えができるようになった。[沖縄県/母親/女/専門職大学]
 - オンライン授業を受けれるようになって不安が小さくなったと感じます。[三重県/母親/男/大学]
 - 本人が自主的になるように親は、見守る。学校が始まって解決したこともある。[和歌山県/母親/男/大学]
 - 家で勉強すると、集中できないし、友達とあえなかったが、学校へ行くと解決した。[和歌山県/母親/女/子の希望なら何でも]
 - 家庭内で会話をたくさんし、少しだけ特別なこと（運動したり、食事やお菓子作りをしたりなど）を取り入れて、息抜きできる時間を作った。[東京都/母親/女/大学]
 - 登校できない際、意外と計画的に勉強を進めていたので心配はなかった。ただ部活がなく運動不足が心配でした。[新潟県/母親/男/大学]
- 友達に会えないことで不安やストレスが溜まった
 - 感染者が多いときは家にいたが、少ない時（少なくなってきた時）は感染症対策をしっかりとって、少人数で会って活動していた。[北海道/母親/男/専門学校]
 - 勉強の遅れ以外は学校に行くことで少しずつ、解決したと思う。[東京都/母親/男/大学]
 - 親子のコミュニケーションをとる時間を設けた。[山形県/母親/男/大学]
- 勉強に対する不安が大きくなった
 - 自分で勉強のペースを取り戻し、友達と勉強したりと工夫して、解決したようです。[北海道/母親/男/大学]
 - 登校できたことで全て解決した。入学直前からの休校だったので高校生活が不安だったようです。[山形県/母親/女/大学]